EPSON

Endeavor

AT960

ユーザーズ マニュアル

ご使用の前に
● ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
●「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。
その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警 告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注 意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

障害や事故の発生を防止するための禁止事項の内容を表しています。

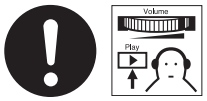
	製品の取り扱いにおいて、してはいけない行為（禁止行為）を示しています。

障害や事故の発生を防止するための指示事項の内容を表しています。

	必ず行う事項（指示、行為）を示しています。
	電源プラグをコンセントから必ず抜くことを示しています。
	アース端子を必ず接地（アース）して使用することを示しています。

⚠ 警 告	
	煙が出る、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。 感電・火災の原因となります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、カスタマーサービスセンターにご相談ください。 お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。
	マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。 けがや感電・火災の原因となります。
	交流100V以外では使用しないでください。 指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。
	ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。
	通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。 感電・火災の原因となります。
	異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。 感電・火災の原因となります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、カスタマーサービスセンターにご相談ください。
	破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。 電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。 ・電源コードを加工しない。 ・無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしない。 ・電源コードの上に重いものを載せない。 ・発熱器具の近くに配線しない。 電源コードが破損したら、カスタマーサービスセンターにご相談ください。
	電源コードのたこ足配線はしないでください。 発熱し、火災の原因となります。 家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
	電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。 取り扱いを誤ると、火災の原因となります。 ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。 ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。 ・電源プラグを長期間コンセントに差したままにしない。 電源プラグは、定期的にコンセントから抜いて、刃の根元や刃と刃の間を清掃してください。

⚠ 警 告	
	本体カバーを外して作業するときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。 電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
	小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。 飲み込むと化学物質による被害の原因となります。 万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
	小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。 口に入れたりすると窒息する危険があります。
	マウスボールは、絶対に投げないでください。 マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。
	雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。 感電の原因となります。
	電源プラグのアース端子を接地（アース）してください。 接地しないで使用すると、感電の危険性があります。 アースは必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に行ってください。また、アースを外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。
	アース端子は、絶対にガス管に接続しないでください。 火災の原因となります。
	アース端子をコンセントに挿入または接触させないでください。 感電の危険があります。

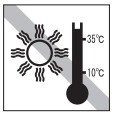
⚠注 意	
	小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
	不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
	湿気やホコリの多い場所に置かないでください。 感電・火災の危険があります。
	本機の通風孔をふさがないでください。 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。 設置する際は、次の点を守ってください。 ・押し入れや本箱など風通しの悪いところに設置しない。 ・じゅうたんや布団の上などに設置しない。 ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。
	連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
	各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。 配線を誤ると、火災の危険があります。
	拡張ボードやメモリの交換・増設などは本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。
	本機を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。
	ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。 ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。
	長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。 肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。
	CD/DVDドライブのディスクトレイに手を入れ、挟まれないようにしてください。 けがの原因になります。

⚠ 注 意	
	CD/DVDドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。内部で飛び散って、故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。
	本機を廃棄する場合は、法律に従って正しい処理をしてください。

製品保護上の注意

▶使用・保管時の注意

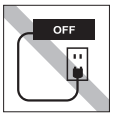
本機（コンピュータ）は精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本機を正しく取り扱ってください。



温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。

直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理用器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。
また、直射日光などの紫外線は、変色の原因になります。

本機の上には重い物を載せないでください（本機が横置きの場合は、18kgまでのディスプレイを載せることができます）。
重圧により、故障や誤動作の原因となることがあります。



コンセントに電源プラグを接続したまま、本体カバーを外して作業しないでください。
電源を切っても、本機内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。

移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。
内蔵の周辺機器（HDD、CD/DVDドライブなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。

他の機械の振動が伝わる所など、振動しやすい場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。

テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。本機の誤動作が生じたり、データが破損したりすることがあります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。

電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）に本機を置かないでください。
電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えてしまいます。

本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。
変色や変形の可能性があります。
汚れは、中性洗剤をしたたらない程度に染み込ませた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。
衝撃や振動、ホコリなどから本機を守るため、専用の梱包箱に入れてください。

輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。
配線ケーブルはすべて取り外し、CD/DVDメディアなどは取り出してください。

アクセスランプ点灯中は、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。

▶記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破損するおそれがあります。
記録メディアの種類は、次のとおりです。

FD	FD
CD	CD/DVDメディア
MC	メモリカード

記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。

直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。

上に物を載せないでください。

キズを付けないでください。

クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。

磁性面あるいは金属単子にホコリや水を付けないでください。
シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。
FD MC

何度も読み書きしたFDは使わないでください。
磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。
FD

アクセスランプ点灯/ 点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。

使用後は、本機にセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。
専用のケースに入れて保管してください。

ゴミやホコリの多いところでは、使用したり保管したりしないでください。

アクセスカバーを開けたり、磁性面あるいは金属単子に触れたりしないでください。
FD MC

テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。
FD MC

信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。
CD

レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。
CD

レコードのように回転させて拭かないでください。
内側から外側に向かって拭いてください。
CD

CD/DVDドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。
CD

シールを貼らないでください。
CD

信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。
CD

温度差の激しい場所に置かないでください。結露する可能性があります。
CD

▶マウス

マウスは精密な機械です。次の点に注意して操作してください。

落としたり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。

マウスボールを素手で触らないでください。

平らな場所で使用してください。でこぼこのある場所ではマウスボールの回転が不規則になり、マウスの動きがコンピュータに正確に伝わりません。

持ち運びの際はマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。

ゴミやホコリの多いところで使用したり、保管したりしないでください。マウスボールにゴミやホコリが付いたまま使用すると、誤動作の原因になります。

はじめに

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

第1章　使い始めるまでの準備

本機の接続方法、電源の入れ方や切り方、Windowsのセットアップについて説明します。

1

第2章　コンピュータの基本操作

キーボードやマウス、CD/DVDドライブの使い方など、本機の基本的な操作方法について説明します。

2

第3章　システムの拡張

本機にメモリや拡張ボードを装着して、機能を拡張する方法を説明します。

3

第4章　BIOSの設定

本機の基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

4

第5章　ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

5

第6章　こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

6

付録

本機をご使用になる際に役に立つ情報や、本機の仕様などについて説明します。

目　次

製品保護上の注意 7
使用・保管時の注意 7
記録メディア 8
マウス 9

はじめに

マニュアル中の表記について 16
本製品の仕様とカスタマイズについて 20

使い始めるまでの準備

ご使用の前に 22
コンピュータを使い始めるまでの手順 ... 22
ご使用前の確認事項 23
本機の特長 24
添付されているソフトウェア 25
各部の名称と働き 27
本体前面 27
本体背面 28
FDD（オプション）..... 29
マルチカードリーダ（オプション）..... 30
コンピュータの設置 31
電源の入れ方とWindowsのセットアップ 40
Windowsが使用できるようになるまでの作業 ... 40
電源を入れる前に 41
電源の入れ方とWindowsの起動 42
Windowsのセットアップ 43
セットアップ終了後の作業 46
Windows使用時の確認事項 48
2回目以降に電源を入れる 48
音量の調節 48
インフォメーションメニューを使う 49
復元ポイントを作成する 51
セキュリティ対策を行う 51
画面表示が消えたときは（省電力機能）... 51
Windows CD-ROMを要求されたときは ... 51
コントロールパネルの表示 52
電源の切り方 53
Windowsの終了と電源の切り方 53
再起動 54
ハングアップしたときは 54

コンピュータの基本操作

キーボードを使う 56
キーの種類と役割 56
文字を入力するには 57
日本語を入力するには 57
キーロック表示ランプ 58
Windowsキーとアプリケーションキー ... 58
マウスを使う 59
マウスの操作 59
マウスの設定変更 59
FDDを使う（オプション）..... 60
FDのセットと取り出し 60
FDのフォーマット 62
ライトプロテクト（書き込み禁止）..... 63
マルチカードリーダを使う（オプション）..... 64
使用可能なメモリカード 64
マルチカードリーダ使用時の注意 66
メモリカードのセットと取り出し 66
HDDを使う 69
購入時のHDD領域について 69
データのバックアップ 70
HDDを分割して使用する 70
CD/DVDドライブを使う 71
使用可能なCD/DVDメディア 71
CD/DVDメディアのセットと取り出し ... 72
強制的なCD/DVDメディアの取り出し ... 75
CDメディアの読み込み・再生 76
DVDメディアの読み込み・再生 76
CD/DVDメディアへの書き込み 77
Nero 7 Essentialsの使い方 78
USB機器を使う 80
USB機器の接続と取り外し 80
画面表示機能を使う 82
使用できるディスプレイ 82
表示に関する各種設定 83
解像度や表示色を変更するには 83
表示できる解像度と表示色 84
表示装置に関する設定 85
2台のディスプレイに表示する 85
サウンド機能を使う 87
外部スピーカなどの接続 88
音声の再生・録音 89
ネットワーク機能を使う 91
主な機能について 91
ネットワーク機能を無効にする 92
インターネットに接続するには 93
接続するまでの流れ 93
接続方法の選択とプロバイダとの契約 ... 93

インターネットに接続する 94
インターネットを使う上での注意 95
インターネットを使用する際のセキュリティ対策 ... 96
Windows Update 96
セキュリティソフトウェア 97
ファイアウォール 98
インターネットや電子メールを利用する 99
Internet Explorerの使い方 99
Outlook Expressの使い方 102
省電力機能を使う 105
省電力モードの種類 106
省電力モードに移行する 108
省電力モードから復帰する 109
スピードステップ機能 110
そのほかの機能 111
パラレルコネクタ 111
シリアルコネクタ 111
ハイパースレッディング機能 111
データ実行防止機能（DEP機能）..... 112
セキュリティロックスロット 113

システムの拡張

拡張できる装置 116
作業時の注意 118
本体カバーの脱着 119
本体カバーの取り外しと取り付け 119
拡張ボードの装着 122
拡張スロットの仕様 122
拡張ボードの取り付け・取り外し 123
拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業 ... 127
メモリの増設 128
メモリの仕様 128
メモリの取り付け・取り外し 129
メモリの増設・交換後の作業 131

BIOSの設定

BIOSの設定を始める前に 134
BIOS Setupユーティリティの操作 135
BIOS Setupユーティリティの起動 135
BIOS Setupユーティリティの操作 136
設定値を元に戻すには 139
Passwordの設定 140
BIOS Setupユーティリティの終了 143
BIOS Setupユーティリティの設定項目 144
Mainメニュー画面 144
Advancedメニュー画面 146
Power メニュー画面 148
Bootメニュー画面 149
Exitメニュー画面 151
BIOSの設定値 152

ソフトウェアの再インストール

再インストールする前に必ずお読みください 156
再インストールが必要な場合 156
重要事項 156
ソフトウェアの再インストールを行う 157
必要なメディア 157
インストールの順番 157
インストール作業における確認事項 159
Windowsのインストール 160
Windows XPをインストールする 161
リカバリツールのインストール 165
本体ドライバのインストール 165
各種ドライバのインストール 167
Adobe Readerのインストール 167
セキュリティソフトウェアのインストール ... 168
マニュアルびゅーわのインストール 168
Nero 7 Essentialsのインストール 169
WinDVDのインストール 169
JWord Pluginのインストール 169
gooスティックのインストール 170
そのほかの作業 170

こんなときは

トラブルが発生したら 174
困ったときに 175
コンピュータが起動できない場合 176
コンピュータ本体の不具合
（CPU、メインボード）..... 181
インストール時の不具合 184
省電力機能に関する不具合 185
キーボードの不具合 186
マウスの不具合 187
ディスプレイの不具合 188
FDD（オプション）の不具合 190
マルチカードリーダの不具合 191
HDDの不具合 191
CD/DVDドライブの不具合 192

ソフトウェアの不具合 195
メモリの不具合 198
拡張ボード、周辺機器の増設に関する不具合 ... 199
内蔵スピーカの不具合 200
セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）の不具合 200
トラブル時に役立つ機能 201
セーフモードでの起動 201
システムの復元 201
警告メッセージが表示されたら 203

付録

お手入れ 206
本機のお手入れ 206
マウスのお手入れ 206
データのバックアップ方法 208
Internet Explorer「お気に入り」のバックアップと復元 209
Outlook Express「アドレス帳」のバックアップと復元 210
Outlook Express「メールデータ」のバックアップと復元 211
バックアップCDの作成 213
バックアップCDの作成方法 213
バックアップCDからインストールを行うには ... 214
電子マニュアルのダウンロード 215
セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化 ... 216
HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成 217
HDD領域を分割して使用する（概要）... 217
Cドライブを分割・変更する 218
Cドライブ以外のドライブを作成・変更する ... 221
Cドライブ以外のドライブを削除する ... 226
リチウム電池の交換 227
CMOS RAMの初期化 230
機能仕様一覧 233
用語集 234
索引 243

はじめに

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項や、取り扱い上の注意などについて説明します。

「マニュアル中の表記について」..... 16
「本製品の仕様とカスタマイズについて」..... 20

マニュアル中の表記について

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号

制限事項です。
機能または操作上の制限事項を記載しています。

参考事項です。
覚えておくと便利なことを記載しています。

本書とは別のマニュアルを示します。
例）『梱包品の確認』：本機に添付の『梱包品の確認』を示します。

参照先を示します。

1 2

操作手順です。
ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。

Ctrl

で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。
はEnterキーを表します。また、N は N みのことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。

Ctrl + Z

＋の前のキーを押したまま＋の後のキーを押します。
この例では、Ctrl を押したまま Z を押します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ
CD/DVDメディア	CDメディア、DVDメディア
CD/DVDドライブ	CD/DVDメディアを使用するためのドライブの総称
メモリカード	メモリスティック、マルチメディアカード、SDメモリカード、スマートメディア、コンパクトフラッシュの総称

オペレーティングシステム（OS）に関する記述

本書では、オペレーティングシステム（OS）の名称を次のように略して表記します。

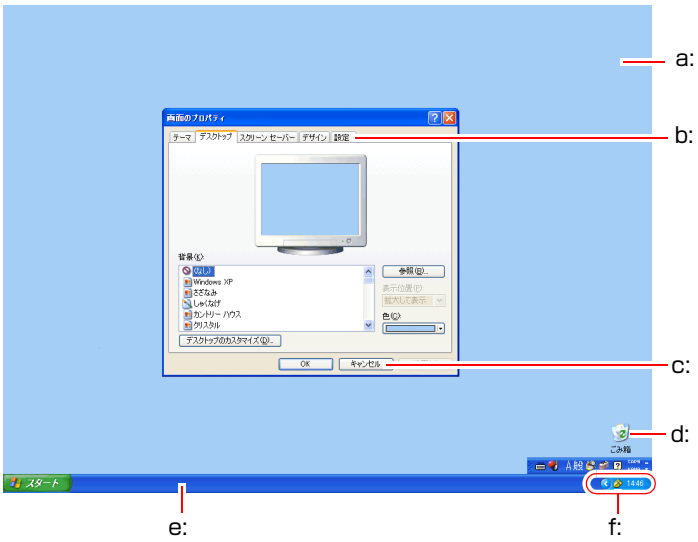
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional Microsoft® Windows® XP Home Edition

HDD 容量の記述

本書では、HDD 容量を1KByte=1000Byte として記載しています。

Windows XPの画面表示に関する記載方法

本書では、Windows XPの画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



a: デスクトップ
Windowsが起動して、ディスプレイに表示される画面。

b: タブ

c: ボタン

d: アイコン
デスクトップ上やタスクトレイ内の小さなイラスト。
機能などをイラストで表示しています。

e: タスクバー

f: タスクトレイ

ボタンの記載方法

ボタンは［　］で囲んで記載します。

例）スタート：［スタート］、OK：［OK］

Windows XPの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows XPの画面上で行う操作手順を次のように記載します。

- 記載例

  ［スタート］－「すべてのプログラム」－「Internet Explorer」をクリックします。

- 実際の操作

  (1) ［スタート］をクリックします。

  (2) 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。

  (3) 横に表示されるサブメニューから「Internet Explorer」をクリックします。

本製品の仕様とカスタマイズについて

本製品は、ご購入時にお客様が選択されたオプションによって、仕様がカスタマイズされています。CPUの種類・メモリ容量・拡張ボード・CD/DVDドライブなど、選択された仕様に合わせて、お客様 オリジナルのコンピュータとして組み立て、納品されています。

本書で記載しているコンピュータの製品仕様

本書では特に記載がない限り、下記の製品仕様で説明を行っています。お客様が購入された 製品の仕様が下記と異なる場合、それらの使用方法やドライバのインストール方法などは、購入時に選択された各装置に添付のマニュアルを参照してください。

メモリ	：1枚
HDD	：S-ATA HDD（1台）
FDD/マルチカードリーダ	：なし
CD/DVDドライブ装置	：CD/DVDドライブ（1台）
ディスプレイ機能	：メインボードの機能を使用
ネットワーク機能	：メインボードの機能を使用
サウンド機能	：メインボードの機能を使用
FAXモデム機能	：なし
キーボード	：109 PS/2 キーボード
マウス	：ホイール付 PS/2 マウス

製品仕様と添付されるマニュアル

本製品の操作に必要なマニュアルは、お客様が選択された仕様によって、コンピュータの『ユーザーズマニュアル』（本書）とは別に添付されます。
お使いになる仕様によって、別冊や電子マニュアルなど、下記のような形式で納品されています。ご確認ください。

- 本製品に同梱されている別冊マニュアル
- コンピュータに登録されている「マニュアルびゅーわ」から閲覧
- CD-ROMなどに登録されている電子マニュアル（PDFファイルなど）

第1章
使い始めるまでの準備

本機の接続方法、電源の入れ方や切り方、Windowsのセットアップについて説明します。

「ご使用の前に」..... 22
「各部の名称と働き」..... 27
「コンピュータの設置」..... 31
「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」..... 40
「Windows使用時の確認事項」..... 48
「電源の切り方」..... 53

ご使用の前に

コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後にはじめて使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。

梱包品の確認
まず、梱包品に不足や不良がないかを確認します。
『梱包品の確認』

↓

安全にお使いいただくために・製品保護上の注意
本機を正しく安全にお使いいただくための情報を確認します。
必ずお読みください。
p.2 「安全にお使いいただくために」
p.7 「製品保護上の注意」

↓

マニュアル中の表記について
本書で使用している記号や用語の表記方法について確認します。
p.16 「マニュアル中の表記について」

↓

本製品の仕様とカスタマイズについて
本機の仕様とカスタマイズについて確認します。
p.20 「本製品の仕様とカスタマイズについて」

↓

ご使用の前に
本機を使用する前に必要な情報を確認します。
p.22 「ご使用の前に」

↓

各部の名称と働き
各部の名称と働きを確認します。
p.27 「各部の名称と働き」

↓

コンピュータの設置
各機器の接続を行い、本機を使用可能な状態にします。
p.31 「コンピュータの設置」

↓

電源の入れ方とWindowsのセットアップ
電源を入れ、Windowsをはじめて起動したときに実行される
Windowsのセットアップを行います。
p.40 「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」

▶ご使用前の確認事項

貼付ラベルの確認

本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用の前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは絶対にはがさないでください。

- お問い合わせ情報ラベル

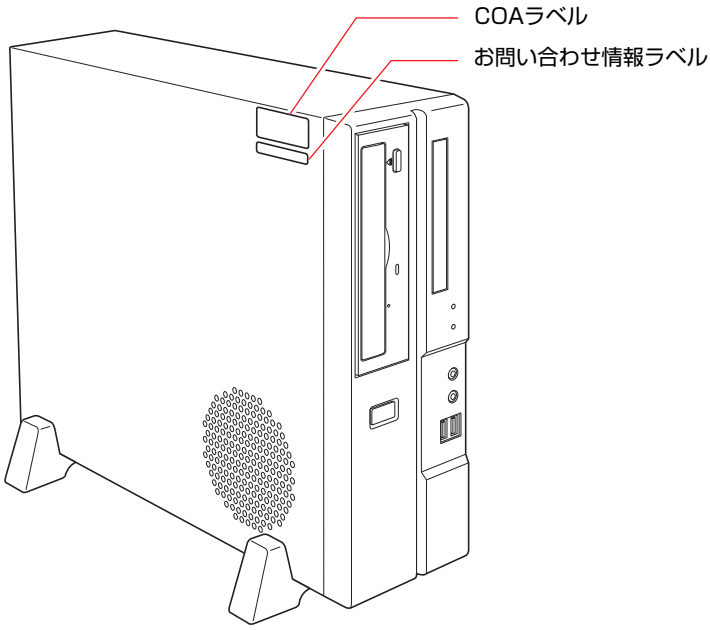
  お問い合わせ情報ラベルには、型番や製造番号が記載されています。当社にサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

  お問い合わせ情報ラベルに記載されている製造番号は、『サポート・サービスのご案内』の表紙に書き写しておいてください。

- COAラベル

  COAラベル（Windows Certificate of Authenticityラベル）は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。

  万一、COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



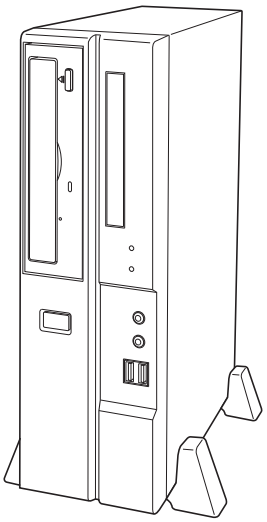
サポート・サービスのご案内

別冊子『サポート・サービスのご案内』には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや、万一の場合に備えてお読みいただくことをおすすめします。

▶本機の特長

本機の特長は次のとおりです。



● CPU

インテル製のCPUを搭載しています。

● チップセット

ATI Radeon® Xpress 200 Chipset（RC410＋IXP450）を搭載しています。

● メモリ容量

メモリを増設して、最大2GBまで搭載可能です。

● オペレーティングシステム

Windows XP（Professional、またはHome Edition）をインストール済みです。

● サウンド機能

- チップセット内蔵のハイデフィニションオーディオ（Analog Devices製AD1986A Codec）をメインボード上に搭載しています。
- 前面にマイク入力コネクタとヘッドフォン出力コネクタを装備しています。

● ビデオ機能

ディスプレイ用コネクタ2個（DVI-Dコネクタ、VGAコネクタ）を装備しています。

● 拡張スロット

PCIスロット2本を装備しています。

● そのほか

- 100Base-TX/10-Base-T対応のLANコネクタを装備しています。
- モノラルスピーカを内蔵しています。
- USB2.0対応のUSBコネクタを前面に2個、背面に2個装備しています。
- データの暗号化ができるセキュリティチップ（TPM）を搭載しています。

▶添付されているソフトウェア

本機に添付のCDや、HDDの消去禁止領域に登録されているソフトウェアは次のとおりです。
購入時のシステム構成によっては、このほかにも添付されているソフトウェアがあります。

表中記号の見方

	購入時にはHDDにインストールされています。
	購入時にはHDDにインストールされていません。Windowsのセットアップ後に必要に応じてインストールしてください。

Windows XPリカバリCDに登録されているソフトウェア

Windowsを再インストールするためのCDです。

Windows XPリカバリCDに登録されているソフトウェア	購入時の状態
● Windows XP 本機のオペレーティングシステム（OS）です。	

リカバリツールCDに登録されているソフトウェア

リカバリツールを再インストールするためのCDです。

リカバリツールCDに登録されているソフトウェア	購入時の状態
● リカバリツール HDDの消去禁止領域に登録されている本体ドライバやソフトウェアをインストールするためのプログラムです。	

HDDの「消去禁止領域」に登録されているソフトウェア

本体ドライバや本機で使用するソフトウェアは、HDDの「消去禁止領域」に登録されており、リカバリツールからインストールすることができます。
書き込み機能のあるCD/DVDドライブ搭載の場合、リカバリツールを使用して、HDDの消去禁止領域に登録されているソフトウェアをCDにバックアップすることができます。

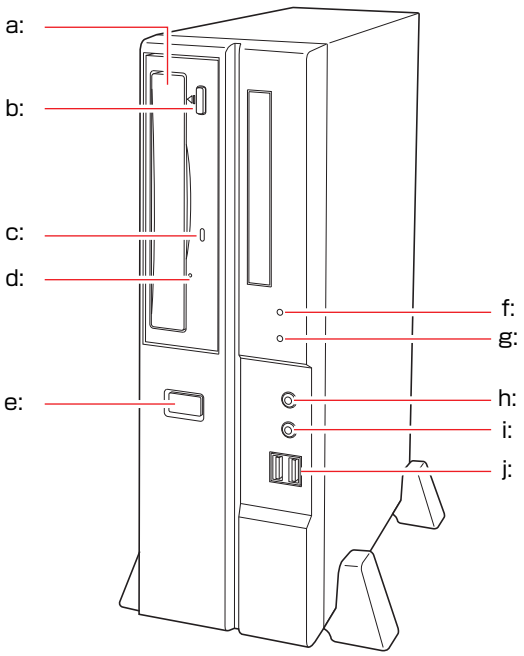
p.213 「バックアップCDの作成」

HDDの消去禁止領域に登録されているソフトウェア	購入時の状態
● ATI Radeon® Xpress 200 Chipset（RC410+IXP450）用ドライバ メインボード上のデバイスを使用するためのドライバです。	
● ビデオドライバ メインボード上のディスプレイ機能を使用するためのドライバです。	
● サウンドドライバ メインボード上のサウンド機能を使用するためのドライバです。	
● ネットワークドライバ メインボード上のネットワーク機能を使用するためのドライバです。	

HDDの消去禁止領域に登録されているソフトウェア	購入時の状態
● マルチカードリーダドライバ（マルチカードリーダ搭載時のみ） マルチカードリーダの各ドライバに、名前とアイコンを設定するためのドライバです。	
● セキュリティチップドライバ メインボード上のセキュリティチップを使用するためのドライバです。	
● セキュリティチップユーティリティ セキュリティチップのセキュリティ機能の設定を行うためのユーティリティです。	
● PhishWall フィッシング対策ソフトウェアです。	
● Norton Internet Security 90日版 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能、フィッシング詐欺検出機能などを備えたセキュリティソフトウェアです。	
● Windows Media Player 10 動画や音声を再生するためのソフトウェアです。	
● Java2 Runtime Environment Javaアプリケーションを実行するためのソフトウェアです。	
● Microsoft .NET Framework .NET Frameworkの開発環境で作成されたアプリケーションなどを使用するためのプログラムです。	
● インフォメーションメニュー 「マニュアルびゅーわ」や「とらぶる解決ナビ」などのマニュアル・サポートツールの一覧を表示するユーティリティです。	
● マニュアルびゅーわ 本機に添付されているマニュアルやお知らせを見るためのソフトウェアです。	
● Adobe Reader PDF（Portable Document Format）形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。	
● JWord Plugin Internet Explorerのアドレスバーから日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。	
● gooスティック Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するソフトウェアです。	
● Nero 7 Essentials（書き込み機能のあるCD/DVDドライブ搭載時のみ） CD/DVDドライブの書き込み機能を使用するためのソフトウェアです。CD/DVDメディアにデータ、音楽、画像などを書き込むことができます。また、メディアのコピーもできます。	
● WinDVD（DVD再生機能のあるCD/DVDドライブ搭載時のみ） DVD VIDEO再生のためのソフトウェアです。	

各部の名称と働き

▶本体前面



a: CD/DVDドライブ
本機購入時に、CD/DVDドライブを選択された場合、搭載されています。CD/DVDドライブの種類は、購入時の選択により異なります。

b: CD/DVDドライブイジェクトボタン
ディスクトレイの開閉を行います。

c: CD/DVDドライブアクセスランプ
CD/DVDドライブへのアクセス中に点灯します。

d: CD/DVDドライブイジェクトホール
ディスクトレイが開閉しなくなったときに使用します。

e: 電源スイッチ
コンピュータ本体の電源の入/切を行います。

f: 電源ランプ
電源を入れると点灯します。
スタンバイ中は点滅します（購入時の設定）。

g: HDDアクセスランプ
HDDへのアクセス中に点灯します。

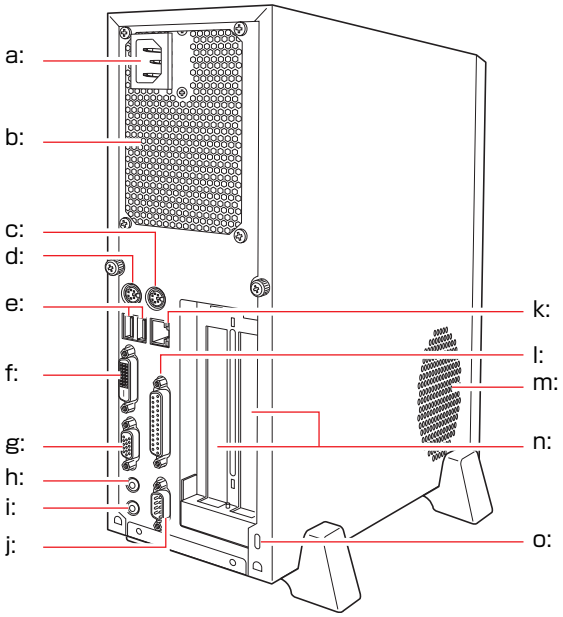
h: ヘッドフォン出力コネクタ
ヘッドフォンを接続します。

i: マイク入力コネクタ
マイクを接続します。

j: USB2.0コネクタ
USB対応の周辺機器を接続します。

＊ b. c. dの位置は、CD/DVDドライブの種類によって異なります。

▶本体背面



a: **電源コネクタ**
添付の電源コードを接続して電気を供給します。

b: **通風孔**
本機の内部で発生する熱を逃がします。

c: **マウスコネクタ**
マウスを接続します。

d: **キーボードコネクタ**
キーボードを接続します。

e: **USB2.0コネクタ**
USB対応の周辺機器を接続します。

f: **DVI-Dコネクタ**
デジタル方式のディスプレイとDVI-D（デジタル）ケーブルで接続します。
DVI-I（アナログ・デジタル両用）ケーブルは接続できません。

g: **VGAコネクタ**
アナログ方式のディスプレイとVGA（アナログ）ケーブルで接続します。

h: **ライン入力コネクタ**
カセットデッキなどのオーディオ機器の出力信号線を接続します。

i: **ライン出力コネクタ**
アンプ内蔵スピーカやヘッドフォンなどを接続します。

j: **シリアルコネクタ**
TAや外付けモデムなど、RS-232Cインタフェースに対応した装置を接続します。

k: **LANコネクタ**
LANケーブルを接続します。

l: **パラレルコネクタ**
プリンタや、スキャナなど、パラレルコネクタに対応した装置を接続します。

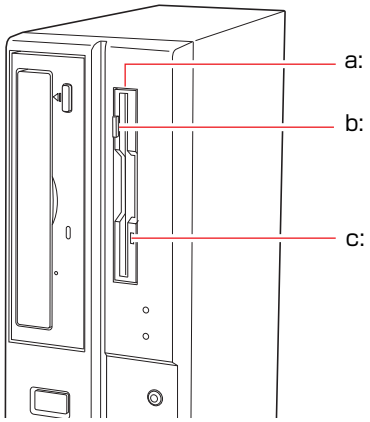
m: **通風孔**
本機内部に外気を取り入れます。

n: **拡張スロット**
拡張ボードを装着します。

o: **セキュリティロック スロット**
市販の盗難抑止用ケーブル（ワイヤー）を取り付けます。

▶FDD（オプション）

購入時にオプション選択された場合、本体にFDDが搭載されています。



a: 3.5型FDD
3.5型FDのデータの読み込み、書き込みを行います。

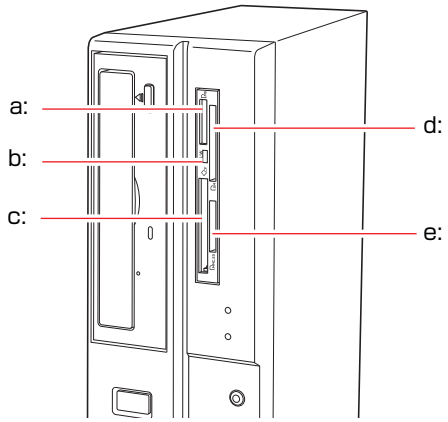
b: FDDイジェクトボタン
FDDにセットしたFDを取り出すときに押します。

c: FDDアクセスランプ
FDDへのアクセス中に点灯します。

USB FDDをオプション選択された場合は、USB FDDに添付のマニュアルをご覧ください。

▶マルチカードリーダ（オプション）

購入時にオプション選択された場合、本体にマルチカードリーダが搭載されています。



a: メモリースティックスロット MS
メモリースティックをセットします。

b: アクセスランプ R/W
ドライブの状態を表示します。
点灯：メモリカードセット時
点滅：メモリカードアクセス時

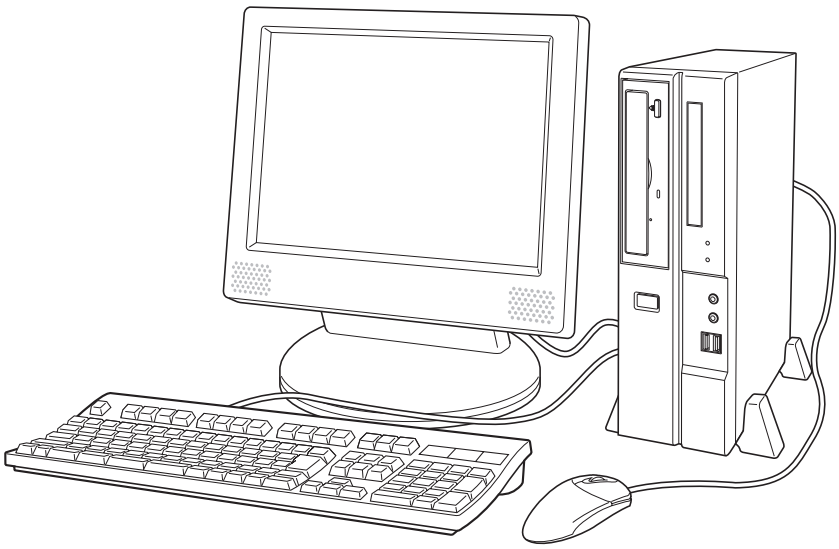
c: コンパクトフラッシュスロット CF
コンパクトフラッシュをセットします。

d: スマートメディアスロット SM
スマートメディアをセットします。

e: SDカードスロット MMC.SD
SDメモリーカードやマルチメディアカードをセットします。

コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。
ここでの説明は標準的なシステム構成で行っています。プリンタなどの周辺機器の接続は、Windowsのセットアップ終了後に、周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。



設置における注意

注意

- 不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置する際は、次の点を守ってください。
  - ・ 押し入れや本箱などの風通しの悪いところに設置しない。
  - ・ じゅうたんや布団の上に設置しない。
  - ・ 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、p.7「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード（ケーブル）接続時の注意

警告

- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
  - ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
  - ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。

注意

- 各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。
- ヘッドフォンやスピーカを使用するときは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。ボリュームの調節が大きくなっていると思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

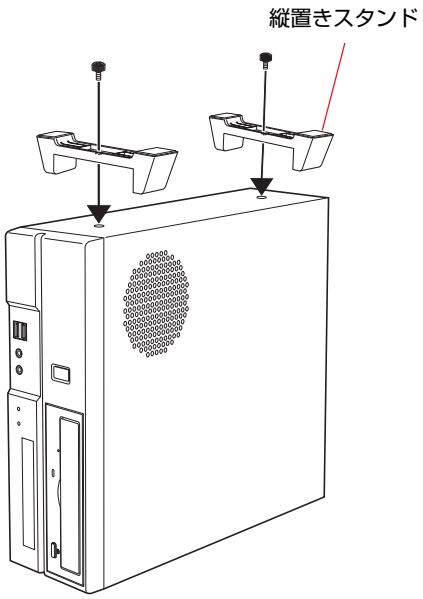
設置

1 **設置場所に応じて、本機を縦置きまたは横置きのどちらにするか決め、設置準備を行います。**

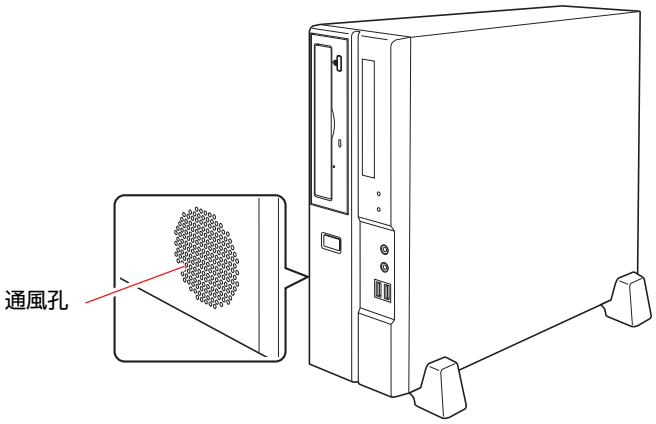
縦置きにする場合

転倒防止のため、必ず縦置きスタンドをセットしてください。

(1) 縦置きスタンドの取り付け穴のある面を上にして置き、縦置きスタンド2個を添付のネジで固定します。

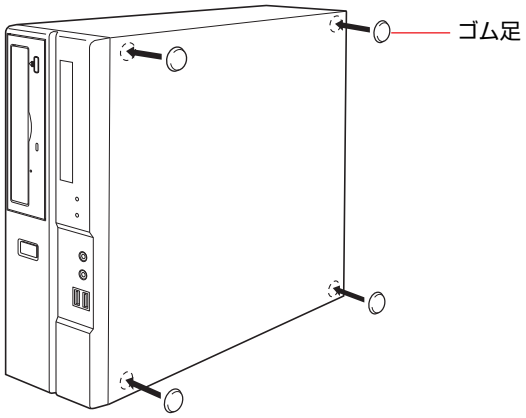


(2) 縦置きスタンドを下にして置きます。
設置した際に、側面の通風孔をふさがないようにしてください。

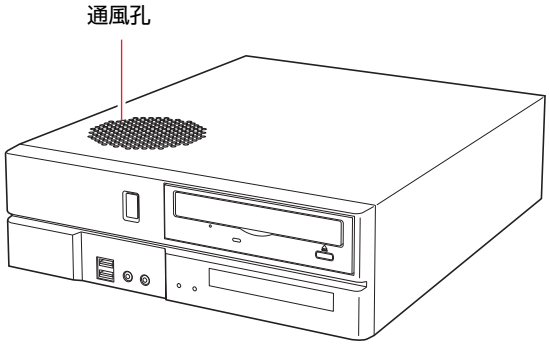


横置きにする場合

(1) 添付のゴム足（4個）を、通風孔のない面の四隅に付けます。



(2) ゴム足を下にして本機を横置きにします。

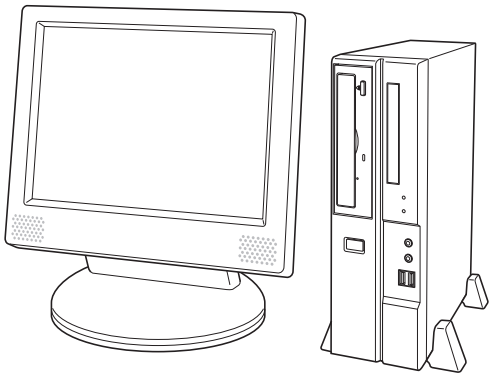


ディスプレイのスタンド部分や物などで、通風孔をふさがないでください。

制限

本機の上に載せられるディスプレイの重さは 18kg までです。18kg より重いディスプレイは載せないでください。

2 本機とディスプレイを設置場所（机などの丈夫で水平な台の上）に置きます。



以降の各ケーブルを接続する手順は、本機を縦置きにした状態で説明しています。本機を横置きにして使用する場合も、手順は同様です。

ディスプレイの接続

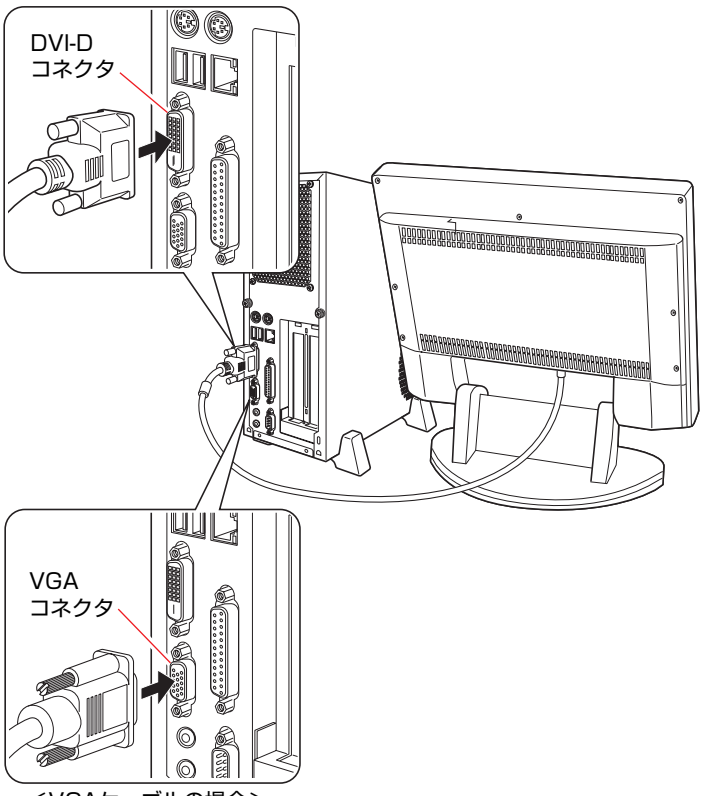
本機には、デジタル出力とアナログ出力の2つのコネクタが装備されています。ディスプレイ側の接続方法や注意事項などの詳細については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

3　使用するディスプレイがデジタル表示かアナログ表示かを確認し、ディスプレイのケーブルを本機背面の該当するコネクタに接続します。

DVI-D（デジタル）ケーブルの場合　　：DVI-Dコネクタ
VGA（アナログ）ケーブルの場合　　：VGAコネクタ

DVI-DケーブルとVGAケーブルの両方が使用できるディスプレイの場合は、DVI-Dケーブルで接続してください。

＜DVI-Dケーブルの場合＞

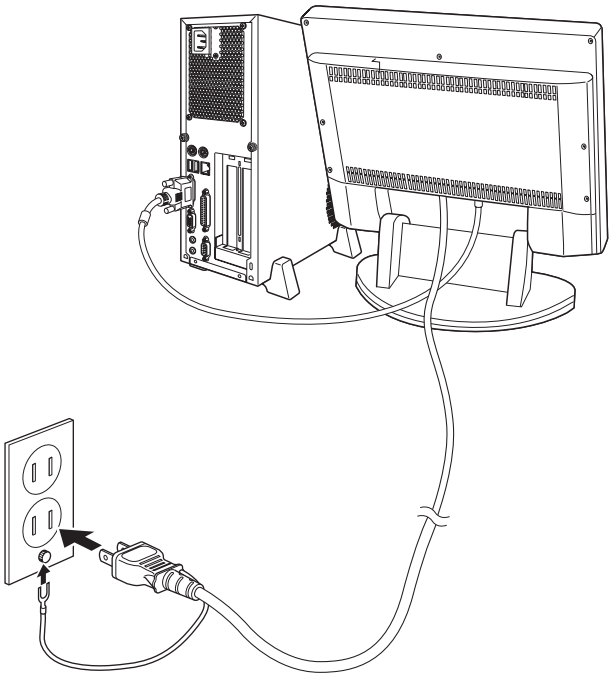


＜VGAケーブルの場合＞

制限　DVI-I（アナログ・デジタル両用）ケーブルは、DVI-D コネクタに接続できません。

4 **ディスプレイの電源コードを家庭用電源コンセントに接続します。**

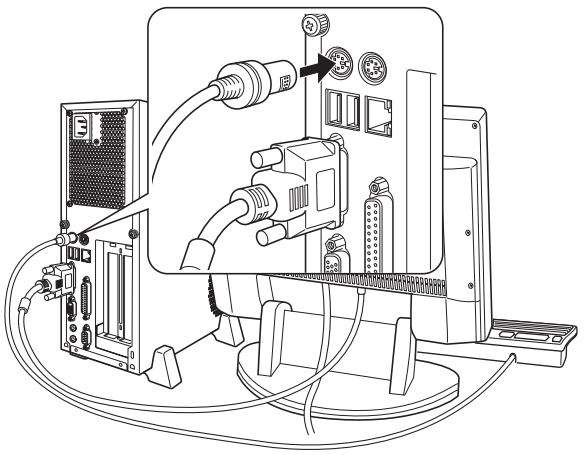
接続方法はディスプレイにより異なります。詳しくは、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。



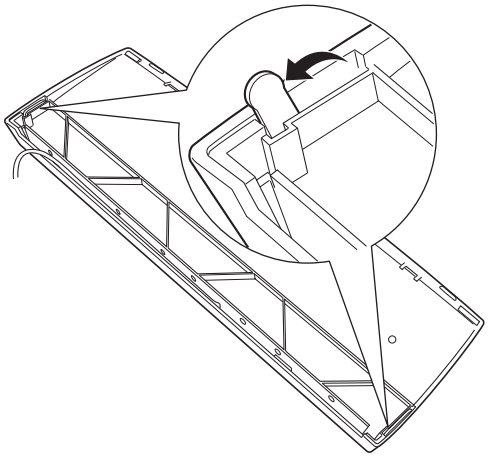
キーボードの接続

5 **キーボードケーブルのコネクタを本機背面のキーボードコネクタ（紫色）に接続します。**

109PS/2キーボード以外のキーボードをお使いの場合は、お使いになるキーボードに添付のマニュアルをご覧ください。



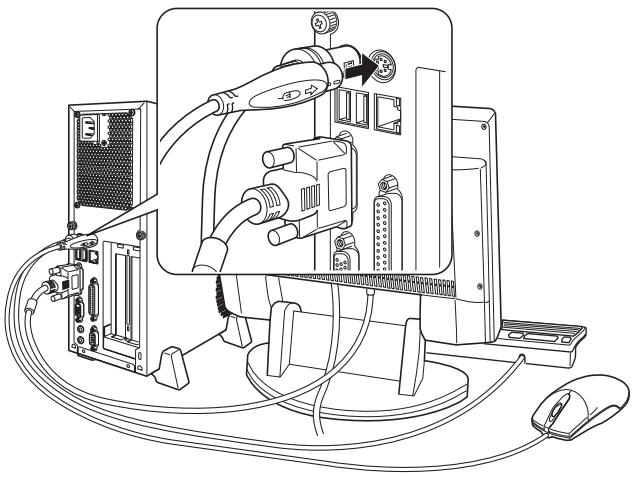
キーボードは操作しやすい位置に置き、傾斜させるときは、両端の脚を起こします。



マウスの接続

6 **マウスケーブルのコネクタを本機のマウスコネクタ（緑色）に接続します。**

ホイール付PS/2マウス以外のマウスをお使いの場合は、お使いになるマウスに添付のマニュアルをご覧ください。



マウスを左利き用で使用する場合は、Windowsのセットアップ終了後に設定を変更してください。

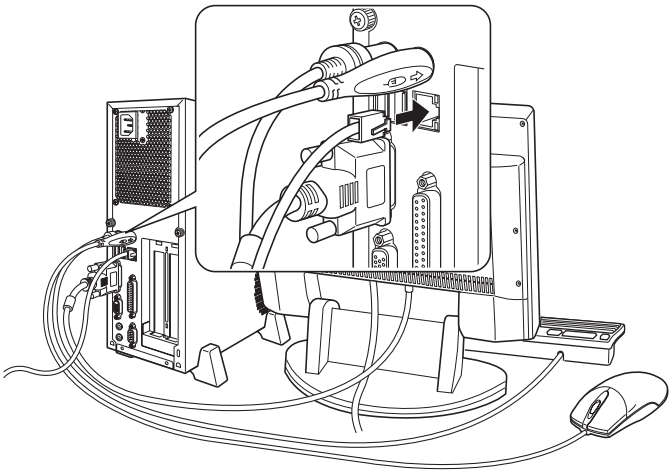
p.59 「マウスの設定変更」

ネットワークへの接続

7 ネットワークに接続できる環境で、メインボード上のネットワーク機能を使用する場合は、市販のLANケーブルをLANコネクタに接続します。

ネットワークボード使用時は、ネットワークボード上のLANコネクタに接続します。

インターネットに接続する場合は、通信サービス会社やプロバイダから提供されたマニュアルをご覧ください。



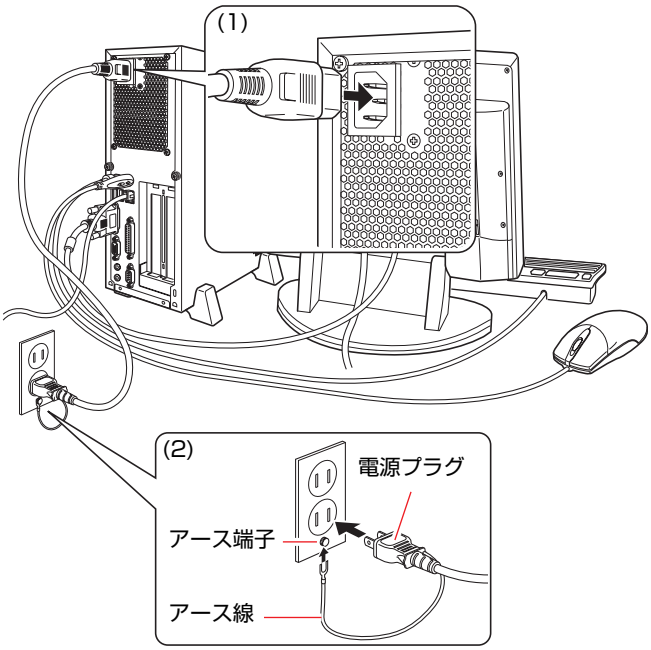
電源コードの接続

8 **電源コードを接続します。**

(1) 電源コードを本機の電源コネクタに接続します。

(2) 電源プラグを、家庭用電源コンセントに差し込みます。

アース線は、必ずコンセントのアース端子に接続してください。



これでコンピュータの設置は終了です。

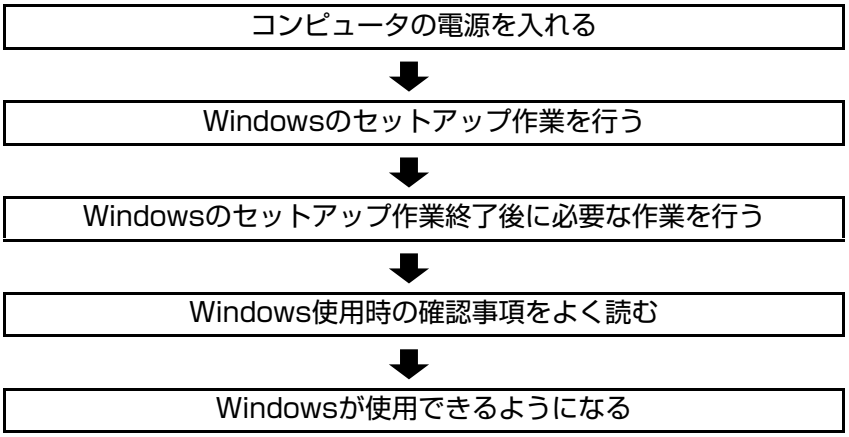
続いてWindowsのセットアップを行います。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

ここでは、コンピュータを購入後にはじめて電源を入れてから、Windowsを使用できる状態にするまでの作業について説明します。

▶Windowsが使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。詳細は、p.41 「電源を入れる前に」以降の手順に従って作業を行ってください。



▶電源を入れる前に

Windowsのセットアップ

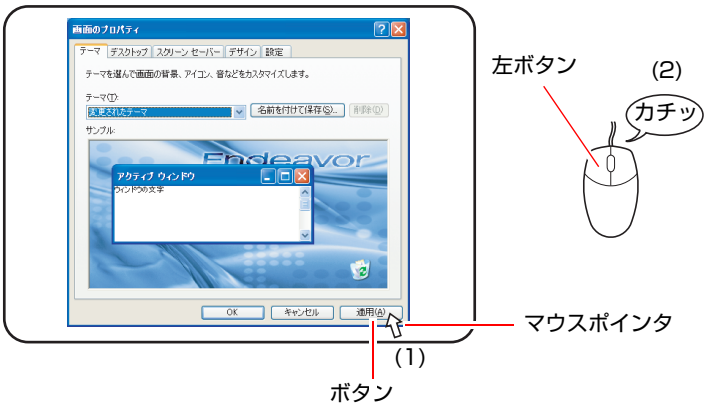
「Windowsのセットアップ」は、コンピュータが届いてから、初めて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。セットアップは画面に表示されるメッセージに従って簡単に行うことができます。

マウスの使い方

Windowsのセットアップは、マウスを使用して行います。
セットアップで必要なマウスの基本操作は、次のとおりです。

- **マウスポインタを動かす**
  マウスを前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているマウスポインタもマウスを動かした方向に動きます。

- **ボタンをクリックする**
  (1) マウスを動かして、マウスポインタを画面のボタンの上に重ねます。
  (2) マウスの左ボタンを、1回「カチッ」と押して離します。
  この動作を「クリック」と言います。
  画面のボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。

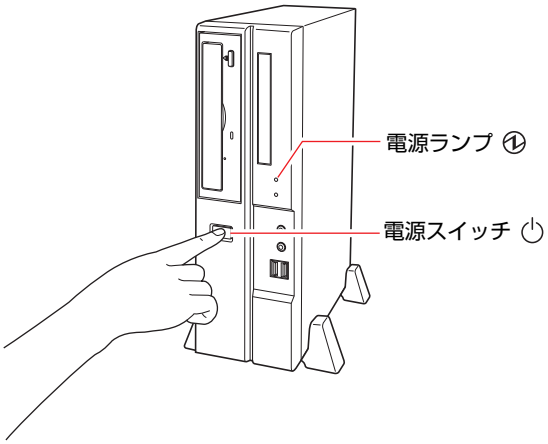


▶電源の入れ方とWindowsの起動

本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

1 **ディスプレイやスピーカなど周辺機器の電源を入れます。**

2 **本機の電源スイッチ（⏻）を押します。**
電源ランプ（⏻）が点灯します。



3 **黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、しばらくするとWindowsが起動します。**
電源を入れたときに、次のような現象が発生した場合は、下記の内容を確認してください。

- **電源ランプが点灯しない場合**
  電源コードが正しく接続されているか確認してください。

- **画面に何も表示されない場合**
  ディスプレイが正しく接続されているか、ディスプレイの電源が入っているか確認してください。

続けてWindowsのセットアップを行います。
p.43 「Windowsのセットアップ」

▶Windowsのセットアップ

セットアップ中に入力する項目について

Windowsのセットアップ中に入力する項目のなかで、特に注意が必要な内容について記載しています。入力の際に参考にしてください。

● コンピュータ名

「コンピュータ名」は、本機をネットワークに接続して使用する場合などに必要です。セットアップ時は、すでに任意のコンピュータ名が入力されています。

- ネットワークに接続しない場合

  セットアップ時にコンピュータ名を変更する必要はありません。

- ネットワークに接続する場合

  ネットワーク上にあるほかのコンピュータ名と重複しないように、コンピュータ名を入力します。

● パスワード（Windows XP Professionalのみ）

本機を個人で使用/管理する場合は、任意のパスワードを設定します（設定しなくても問題はありません）。企業などで、使用者とは別に本機を管理する方がいる場合は、管理者の指示に従って入力します。

このパスワードは、「Administrator」（アカウント）のパスワードです。「Administrator」（アカウント）でログオンする際に、このパスワードを入力しログオンします。

パスワードを設定した場合は、絶対に忘れないようにしてください。

● ユーザー名

ユーザー名は少なくとも1つ入力します。本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザー名をいくつか入力すると、Windows XPをユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で使用することができます。

参考

「Administrator」（アカウント）について

「Administrator」（アカウント）とは、すべての機能にアクセスできるシステム管理用のユーザーアカウント権限のことです。

Windows XPのセットアップ

Windows XPのセットアップは、次の手順で行います。

1 電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows XPセットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Microsoft Windowsへようこそ

セットアップを続行するには、［次へ］をクリックします。

↓

使用許諾契約

画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
※「同意しません」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

↓

コンピュータ名

「このコンピュータの名前」にコンピュータ名を入力します。
p.43 「セットアップ中に入力する項目について」

↓

パスワードの設定

Windows XP Professionalをお使いの場合のみ、Administratorのパスワードを入力します。
p.43 「セットアップ中に入力する項目について」

↓

インターネットへの接続

ここでは接続を行いませんので［省略］をクリックします。

↓

ユーザー登録

「いいえ、今回はユーザー登録しません」を選択し、［次へ］をクリックします。
このユーザー登録は、Microsoft社からWindowsに関するサポートを受けるためのものではありません。本機のサポートは当社で行っていますので、ユーザー登録の必要はありません。

↓

コンピュータを使用するユーザーの指定

ここで入力するユーザー名には、コンピュータの管理者と同等の権限が与えられます。少なくともユーザー名を1つ入力してください。
p.43 「セットアップ中に入力する項目について」

↓

セットアップの完了

設定が完了しました。［完了］をクリックするとコンピュータが再起動します。

2 **Windows XPが再起動すると、Windowsのデスクトップが表示されます。**

セットアップの際にユーザー名を2つ以上入力した場合は、Windows XPの再起動後に「ようこそ」画面が表示されます。使用するユーザー名をクリックすると下記の画面が表示されます。

＜壁紙は予告なく変更する場合があります＞

これでWindows XPのセットアップは終了です。

続けて、p.46 「セットアップ終了後の作業」に移ります。

参考

ユーザー登録とライセンス認証（アクティベーション）について

- セットアップ中にスキップしたユーザー登録を行う場合は、［スタート］－「ファイル名を指定して実行」－「REGWIZ □/R」（□はスペース）を実行します。ウィザード画面の指示に従ってください。
- 当社より提供されたWindows XP（購入時にコンピュータにインストールされているもの、および「Windows XPリカバリCD」より再インストールを行ったもの）は、ライセンス認証を行う必要はありません。

▶セットアップ終了後の作業

Windows のセットアップが終了したら、次の作業を行います。

初期設定ツール

Windowsのセットアップが終了すると、「初期設定ツール」が自動的に起動します。「初期設定ツール」は、本機を使用する前に必要な設定を行うためのツールです。画面に従って設定を行ってください。

セキュリティソフトウェアのインストール

購入時、本機にセキュリティソフトウェアはインストールされていません。「初期設定ツール」の「セキュリティ設定」画面の指示に従ってインストールしてください。

＜通常の場合＞

通常は、本機に標準添付の「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。インストール方法は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。

＜セキュリティソフトウェアをオプション購入された場合＞

本機購入時にオプション選択でセキュリティソフトウェアの製品版を購入された場合は、「セキュリティ設定」画面で製品版を選択してインストールしてください。

セキュリティソフトウェアによっては、「初期設定ツール」からインストールができない場合があります。初期設定ツールの終了後、CDからインストールを行ってください。

ネットワークに接続する

ネットワークへの接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

Windows Updateを行う

はじめてインターネットに接続する場合は、はじめに「Windows Update」を行ってください。

「Windows Update」を行うと、本機の状態を診断して、コンピュータウイルスに感染することを防ぐためのプログラムや最新の機能などがインストールされ、Windowsを快適に使用することができるようになります。

p.96 「Windows Update」

そのほかの設定

購入時にFAXモデムボードなどを選択している場合は、設定や接続を行います。
詳しくは各機器に添付のマニュアルをご覧ください。

Windows使用時の確認事項

「セットアップ終了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用の前に次の事項を確認してください。
Windowsの使用方法は、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

▶2回目以降に電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータの電源を入れる際は、次の点に注意してください。

● **電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。**
Windowsが省電力モードに移行すると、コンピュータが動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまわないように注意してください。
p.105 「省電力機能を使う」

● **電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れる。**
電気回路に与える電気的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

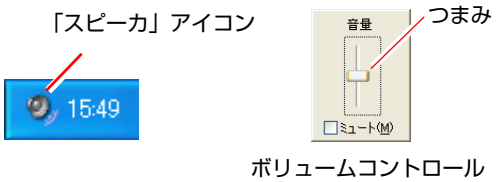
● **周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。**
コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。

制限

USB フラッシュや、USB HDD などの記憶装置を接続した状態で電源を入れると、Windows が起動しないことがあります。電源を入れる際は、USB 記憶装置を取り外した状態で行い、Windows 起動後に接続してください。

▶音量の調節

Windows起動時に音が鳴らなかったり、音が小さすぎる場合には、「ボリュームコントロール」機能で音量を調節します。
画面右下のタスクトレイに表示されている「スピーカ」アイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして音量を調節してください。



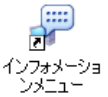
インフォメーションメニューを使う

本機には、本機に添付されているマニュアルを見たり、サポートページに簡単にリンクしたりすることができる「インフォメーションメニュー」が搭載されています。

起動方法

「インフォメーションメニュー」は、次の方法で起動します。

- デスクトップ上の次のアイコンをダブルクリックする。



- タスクトレイの次のアイコンから起動する。

- スタートメニューから起動する。

「インフォメーションメニュー」が起動すると次の画面が表示されます。

インフォメーションメニューの項目

「インフォメーションメニュー」には、次の6つの項目があります。

● マニュアルびゅーわ

マニュアルびゅーわでは、ユーザーズマニュアル（本書）のHTMLマニュアルやCD/DVDドライブのPDFマニュアル、「Nero 7 Essentials」などのソフトウェアに添付されているマニュアルを見ることができます。

参考

「警告」が表示された場合は

電子マニュアルを閲覧しようとすると、情報バーと呼ばれるInternet Explorerのアドレスバーの下方に「セキュリティ保護のため、コンピュータにアクセスできるアクティブコンテンツは表示されないよう・・・」と警告が表示される場合があります。

この場合は、情報バーをクリックし、「ブロックされているコンテンツを許可」をクリックしてください。

● PCお役立ち情報

「PCお役立ち情報」には、コンピュータに関するちょっと便利で役立つ情報を掲載しています。マニュアルとあわせてご覧になり、コンピュータを使用する際の参考にしてください。

● とらぶる解決ナビ

技術的な情報やトラブルの解決方法を収録しています。本機の調子が悪い場合に、本書の「困ったときに」とあわせてご覧ください。

p.175 「困ったときに」

● ユーザーサポートページ（Web）

インターネットに接続できる環境の場合、Internet Explorerを起動して当社ユーザーサポートページに接続します。ユーザーサポートページでは、技術的な情報やトラブルの解決方法、保証サービスなどについてご案内しています。ドライバやBIOSの最新バージョンや、当社作成の電子マニュアルもダウンロードできます。

p.215 「電子マニュアルのダウンロード」

● サポート情報検索（Web）

インターネットに接続できる環境の場合、Internet Explorerを起動して当社のサポート情報検索ページに接続します。サポート情報検索ページでは、「とらぶる解決ナビ」に収録されていない最新のサポート情報を掲載しています。「とらぶる解決ナビ」で本機の不具合が解決できなかった場合にご覧ください。

● トラブルが解決しなかったら

マニュアルや当社のユーザーサポートページを参照しても、トラブルが解決しない場合にご覧ください。
お問い合わせ先やメールサポートの方法などを掲載しています。

▶復元ポイントを作成する

Windowsの「システムの復元」機能で「復元ポイント」を作成しておくと、本機の動作が不安定になった場合、「システムの復元」機能を使用して、作成しておいた「復元ポイント」までシステムの状態を戻すことができます。
「復元ポイント」は通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。「復元ポイント」の作成方法は次をご覧ください。

p.202 「復元ポイントを手動で作成する」

▶セキュリティ対策を行う

コンピュータを外部と接続することで高まる危険から、コンピュータを守るための設定や確認を行います。
インターネットなどに接続する場合は、セキュリティ対策を行ってください。

p.96 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」

▶画面表示が消えたときは（省電力機能）

本機は、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えるよう、設定されています。画面表示が消えて、コンピュータの電源ランプが点滅している場合は、スタンバイになっています（購入時の設定）。この場合は、電源ボタンを押すと元に戻ります。

p.109 「省電力モードから復帰する」

▶Windows CD-ROMを要求されたときは

本体ドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」を要求されることがあります。このような場合は、添付の「Windows XPリカバリCD」をセットしてください。

▶コントロールパネルの表示

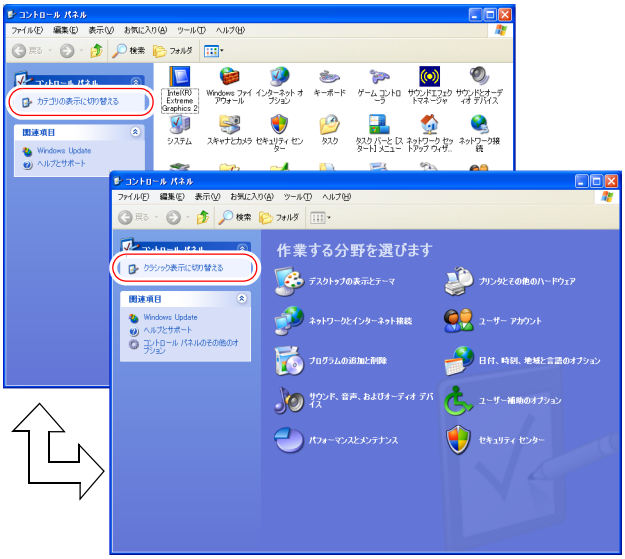
Windows XPのコントロールパネルの表示には、次の2種類があります。

- ●「カテゴリの表示」：項目をカテゴリごとにまとめて表示します（初期設定）。
- ●「クラシック表示」：項目をすべて表示します。

表示の切り替えは、画面左側にある、「クラシック表示に切り替える」、「カテゴリの表示に切り替える」をクリックして行います。

本書では、「カテゴリの表示」形式を前提に記載しています。

＜クラシック表示＞



＜カテゴリの表示＞

電源の切り方

ここでは、電源の切り方について説明します。

- 電源を切って、もう一度入れなおす場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電気的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を空けてください。
- HDDなどのアクセスランプ点灯中に本機の電源を切ると、登録されているデータが破損するおそれがあります。
- 本機は、電源を切っていても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

▶Windowsの終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows XPを終了させてから電源を切ります。

1 **［スタート］－［終了オプション］をクリックします。**

2 **「コンピュータの電源を切る」画面で［電源を切る］をクリックします。**
Windows XPが終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。

3 **ディスプレイなど、接続している周辺機器の電源を切ります。**

Windows終了時の注意

Windows XPを複数のユーザーが使用している状態で電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、［いいえ］をクリックし、ログオンしているすべてのユーザーの画面に切り替えて、それぞれログオフを行ってから、電源を切ってください。

▶再起動

電源が入っている状態で、コンピュータを起動しなおすことを「再起動」と言います。

Windowsの再起動方法

Windowsの再起動方法は、次のとおりです。

［スタート］－「終了オプション」－「再起動」をクリック

次のような場合には、コンピュータを再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windowsの動作が不安定になった場合

再起動しても状態が改善されない場合は、コンピュータの電源を切り、しばらくしてから再度電源を入れなおしてみてください。

▶ハングアップしたときは

アプリケーションやWindowsがキーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態をハングアップと言います。
ハングアップした場合は、強制終了を行います。強制終了の方法は、アプリケーションの場合とWindowsの場合で異なります。

アプリケーションの強制終了

アプリケーションの強制終了は、次の手順で行います。

1. **Ctrl＋Alt＋Deleteを押し、「Windows タスクマネージャ」を起動します。**
2. **「アプリケーション」タブからハングアップしているアプリケーションを選択して［タスクの終了］をクリックします。**
3. **「プログラムの終了」画面が表示されたら、［すぐに終了］をクリックします。**

Windowsの強制終了

Ctrl＋Alt＋Deleteを押しても反応がない場合は、Windowsを強制終了します。

コンピュータの電源スイッチを押す

コンピュータの電源が切れないときは...

⬇

コンピュータの電源スイッチを5秒以上押し続ける

これでコンピュータの電源が切れます。

第2章
コンピュータの基本操作

キーボードやマウス、CD/DVDドライブの使い方など、本機の基本的な操作方法について説明します。

「キーボードを使う」 56
「マウスを使う」 59
「FDDを使う（オプション）」 60
「マルチカードリーダを使う（オプション）」 64
「HDDを使う」 69
「CD/DVDドライブを使う」 71
「USB機器を使う」 80
「画面表示機能を使う」 82
「サウンド機能を使う」 87
「ネットワーク機能を使う」 91
「インターネットに接続するには」 93
「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」 96
「インターネットや電子メールを利用する」 99
「省電力機能を使う」 105
「そのほかの機能」 111

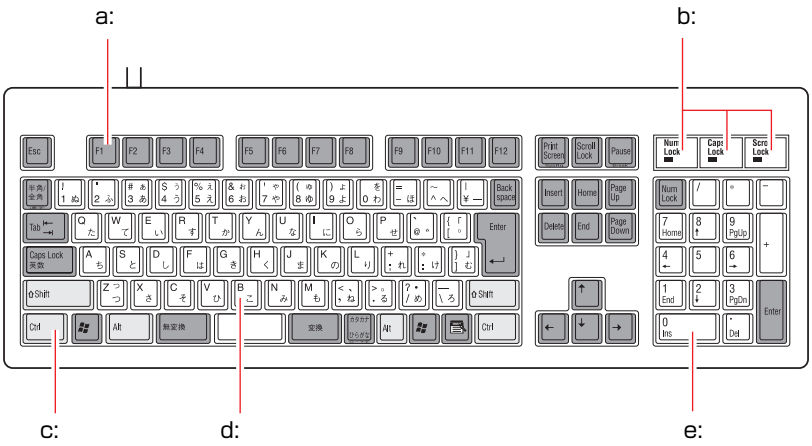
キーボードを使う

ここでは、日本語対応109PS/2キーボードについて説明します。
キーボードの接続方法は、p.31 「コンピュータの設置」をご覧ください。
このほかのキーボードを選択され、キーボードにマニュアルが添付されている場合は、キーボードに添付のマニュアルで使用方法をご確認ください。

▶キーの種類と役割

109個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。

入力キー



a: **機能キー**
文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割はソフトウェアによって異なります。具体的な働きなどについては使用するソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

b: **キーロック表示ランプ**
p.58「キーロック表示ランプ」

c: **制御キー**
文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

d: **文字キー**
英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して漢字やひらがなどの日本語を入力します。

e: **数値キー**
数字、演算子などを入力します。Num Lockの状態によりキーの機能が変わります。

▶文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字された文字が入力されます。入力モードによって入力される文字は異なります。

直接入力モード	キートップのアルファベットをそのまま入力します。	
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やひらがなに変換します。

入力モードの切り替え

半角/全角を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。
日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は、日本語入力システムで行います。

▶日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語入力は、日本語入力システムを使用します。本機には日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは、次のとおりです。
ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。

a:　b:　c:

a: 入力モード
　入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。
b: ヘルプ
　日本語入力方法の詳しい説明を見ることができます。
c: かなキーロック
　日本語入力モードの切り替えを行います。
　ボタンが押されていない状態：ローマ字入力
　ボタンが押されている状態　：かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

▶キーロック表示ランプ

キーボード右上の3つのランプはキーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割	数値キーの状態を切り替え
	切り替え	Num Lock を押します。
	点灯時	数値を入力
	消灯時	カーソルの位置を制御 数値キーの ← ↑ Home などが使えます。
Caps Lock	役割	アルファベットの大文字/小文字の切り替え
	切り替え	Shift + Caps Lock を押します。
	点灯時	大文字を入力
	消灯時	小文字を入力
Scroll Lock	役割	ソフトウェアによって異なります。
	切り替え	Scroll Lock を押します。

▶Windowsキーとアプリケーションキー

Windowsキー、アプリケーションキーを使うことにより、Windowsをより効率的に使用することができます。

キー	機　能
(Windowsキー)	画面左下の［スタート］をクリックするのと同じ働きをします。
(アプリケーションキー)	マウスの右クリックと同じ働きをします。(ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。)

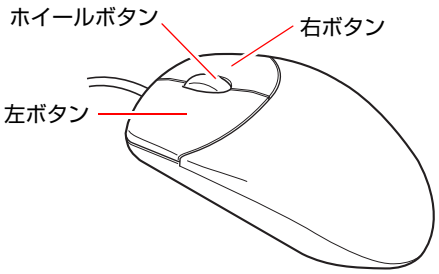
マウスを使う

ここでは、ホイール付PS/2マウスの使い方について説明します。
マウスの接続方法は、p.31 「コンピュータの設置」をご覧ください。
このほかのマウスを選択され、マウスにマニュアルが添付されている場合は、マウスに添付のマニュアルで使用方法をご確認ください。

▶マウスの操作

制限

アプリケーションソフトによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせ、左ボタンを 1 回カチッと押します。
ダブルクリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせ、左ボタンを 2 回続けてカチカチッと押します。
右クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせ、右ボタンを 1 回カチッと押します。
ドラッグアンドドロップ	マウスカーソルを画面上の対象に合わせ、左ボタンを押したままの状態でマウスを移動し、離します。
スクロール	ホイールボタンを指先で前後に動かすと、縦スクロール操作を行うことができます。 ホイールボタンをクリックすると、マウスを動かしてオートスクロールを行うこともできます。

▶マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境を変更するときは、[スタート]－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「マウス」をクリックし、「マウスのプロパティ」で設定変更します。詳しくは、ヘルプをご覧ください。

FDDを使う（オプション）

FDD（フロッピーディスクドライブ）は、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。
本機購入時にFDDをオプション選択された場合、本体にはFDDが搭載されています。
FDDでは、次のFDが使用できます。

- 3.5型2HD
  1.44MBの記憶容量のメディアとして使用できます。
- 3.5型2DD
  720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。

制限

FD は消耗品です。読み書きを繰り返すと、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しい FD と交換してください。

参考

FDDの3モードについて
本機のFDDは3モードに対応していますが、FDDを3モードで動作させるためのドライバは添付されていません。
3モードドライバは当社ホームページからダウンロードが可能です。必要に応じてダウンロードしてご利用ください。
http://epsondirect.jp/support/pc.asp

▶FDのセットと取り出し

FDのセットと取り出し方法について説明します。

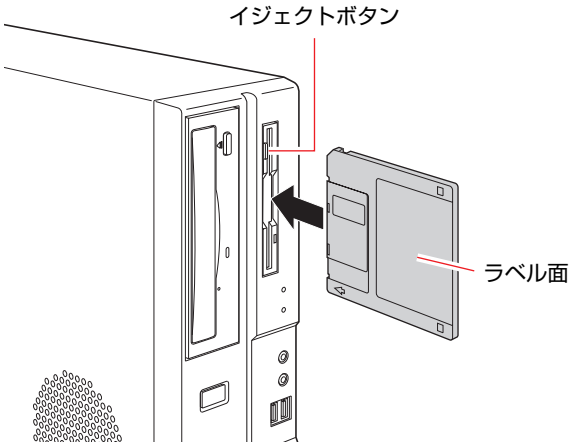
制限

- FDDアクセスランプ点灯中に、FDを取り出したり、コンピュータの電源を切ったり、再起動したりしないでください。FD内のデータが破損するおそれがあります。
- コンピュータの再起動や電源切断は、必ずFDを取り出した後に行ってください。

セット方法

1 **ラベル面をCD/DVDドライブ側に向け、FDをFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。**

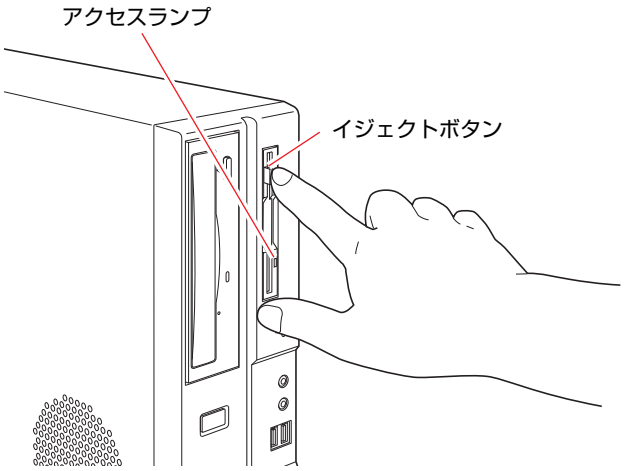
本機が横置きの場合は、ラベル面を上側に向けて押し込みます。



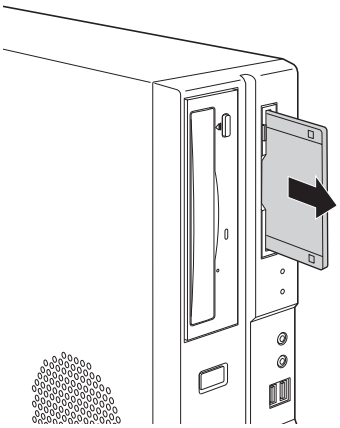
2 **正しくセットされると、イジェクトボタンが押し出されます。**

取り出し方法

1 **アクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。**



2 FDが飛び出したら、静かに引き抜きます。



▶FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することです。新しいFDを使用する場合や、登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットを行います。

制限

- FDをフォーマットすると、FD内のデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。
- Windows XPでは、720KBのFDをフォーマットすることはできません。

フォーマット方法

Windowsのフォーマットユーティリティを使った通常のフォーマット方法は、次のとおりです。

1 FDDにFDをセットします。

2 [スタート] −「マイコンピュータ」をクリックします。

3 「3.5インチFD」を右クリックし、「フォーマット」をクリックします。

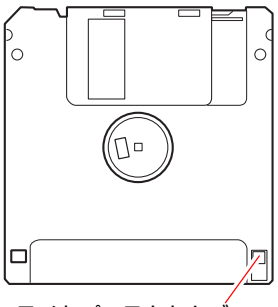
4 [開始] をクリックします。「警告」が表示された場合は、[OK] をクリックします。

5 「フォーマットが完了しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。
続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れ替えて手順4〜5を繰り返します。

6 [閉じる] をクリックし、フォーマットユーティリティを閉じます。
これでFDのフォーマットは完了です。

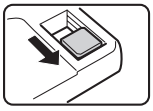
▶ライトプロテクト（書き込み禁止）

ライトプロテクトとは、データを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDには、データの書き込み、削除、フォーマットができません。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておくと安心です。ライトプロテクトは、FD裏面のライトプロテクトタブで行います。



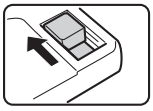
ライトプロテクトタブ

・書き込み禁止状態



窓が開いているとライトプロテクト状態です。

・書き込み可能状態



窓が閉じているとデータを書き込むことができる状態です。

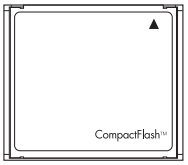
マルチカードリーダを使う（オプション）

マルチカードリーダは、コンパクトフラッシュやメモリースティックなどのメディア（メモリカード）を使用する装置です。
本機購入時にマルチカードリーダをオプション選択された場合、本体にはマルチカードリーダが搭載されています。

▶使用可能なメモリカード

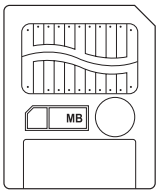
本機で使用できるメモリカードの種類は次の5種類です。イラストは、各メディアのイメージです。表面のデザインは、メディアの種類やメーカーによって異なります。

● コンパクトフラッシュ（CompactFlash）



モデム、LAN、PHS カードなどのI/Oカードは使用できません。

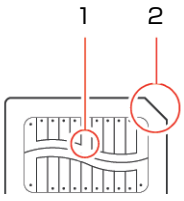
● スマートメディア（SmartMedia）



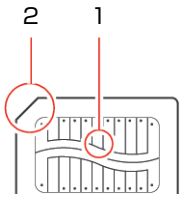
3.3Vタイプ（3Vと表示されているものも可）のみサポートしています。5Vタイプのカードは使用できません。

使用できるスマートメディアの見分け方

1 端子の模様に、一部切れているところがある。
2 切り欠きが右にある。



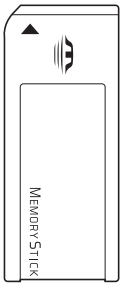
＜使用できる（3.3Vタイプ）＞



＜使用不可（5Vタイプ）＞

スマートメディアの端子部が汚れていると、読み取りエラーが発生する原因になります。端子部を指で触れたりしないようにしてください。
ID付きのスマートメディアも使用できますが、ID機能には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
また、ROMカードには対応していません。

● メモリースティック（Memory Stick）



マジックゲート付きのカード（白色）も使用できますが、マジックゲート機能には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
メモリ以外のI/O カード（GPS用など）は使用できません。

● SDメモリーカード（SD Memory Card）

Secure Digital 機能には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
SD I/OカードおよびSD Comboカードは使用できません。
SDHCメモリカードは使用できません。

● マルチメディアカード（MultiMediaCard）

Keitaide-Music対応カードも使用できますが、Keitaide-Music機能（UDAC-MBプロトコル）には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
また、マルチメディアカードは、読み取り速度や書き込み速度が、ほかのカードに比べて遅くなります。これはカードの規格による制限です。

▶マルチカードリーダ使用時の注意

マルチカードリーダを使用する場合は、次の点に注意してください。

- メモリカードへのアクセス中（アクセスランプの点滅中）は、コンピュータの電源を切ったり、メモリカードを抜いたりしないでください。メモリカード内のデータが破損するおそれがあります。
- 記録されているデータによっては、読み込み時に専用のソフトウェアが必要になる場合があります。詳しくは、データを作成した周辺機器またはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
- データをメモリカードに書き込み途中に、コンピュータが省電力モードに移行するなどして電源の供給が停止すると、メモリカードに不具合が発生する可能性があります。メモリカードを使用するときは、省電力機能を時間が経過して移行しないように設定してください。

p.108 「時間経過で移行させない」

メモリカードのフォーマット

メモリカードのフォーマットは必ず、メモリカードを使用する、デジタルカメラなどの周辺機器側で行ってください。本機でフォーマットを行うと、周辺機器でメモリカードが認識されなくなる場合があります。
フォーマットの方法は、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

▶メモリカードのセットと取り出し

メモリカードのセットと割り当てられるドライブ、取り出し方法について説明します。

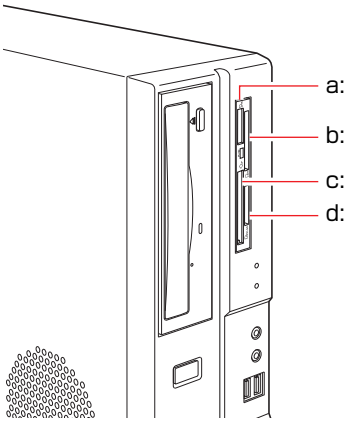
制限

- 本機にメモリカードをセットした状態で電源を入れたり、再起動したりすると、Windows が起動しないことがあります。メモリカードはWindows 起動後にセットしてください。
- Windows が起動した状態でのメモリカードの取り出しは、「マイコンピュータ」から行ってください。タスクトレイの「取り外し」アイコンから終了処理を行うと、Windowsを再起動するまでマルチカードリーダが認識されなくなります。

セット方法

メモリカードのセット方法は次のとおりです。

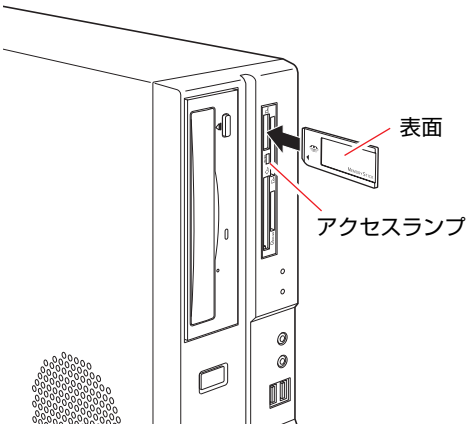
1　使用するメモリカードのスロット位置を確認します。



a: メモリースティックスロット MS
b: スマートメディアスロット SM
c: コンパクトフラッシュスロット CF
d: SDカードスロット SD MMC
SDカードスロットは、SDメモリーカードとマルチメディアカード用です。

2　メモリカードの表面をCD/DVDドライブ側に向け、対応するスロットにカードが止まるまで押し込みます。

メモリカードの表面は、p.64 「使用可能なメモリカード」のイラストで確認してください。
正しくセットされるとアクセスランプが点灯します。



メモリカードによっては、セットしたカードがスロットから数cm出ているものもあります。

メモリカードのドライブ

メモリカードの各ドライブは、CD/DVDドライブがDドライブの場合、E～Hドライブに割り当てられます。

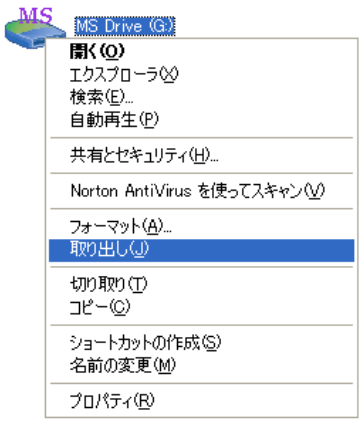
- Eドライブ：コンパクトフラッシュ
- Fドライブ：スマートメディア
- Gドライブ：メモリースティック
- Hドライブ：SDメモリーカード/マルチメディアカード

「マイコンピュータ」には、次のように表示されます。

取り出し方法

メモリカードの取り出し方法は、次のとおりです。

1 **［スタート］－「マイコンピュータ」－「メモリカードアイコン（リムーバブルディスク）」を右クリックし、「取り出し」をクリックします。**



2 **メモリカードを引き抜きます。**

HDDを使う

HDD（ハードディスクドライブ）は、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。
本機には、Serial ATA（以降、S-ATA）仕様のHDDが内蔵されています。

制限

- 誤った操作で重要なデータが破損しないように次の点に注意してください。
  - ・ HDDを分解しないでください。
  - ・ HDD アクセスランプ点灯中に、コンピュータの電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破損するおそれがあります。
- HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが破壊されるおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。
- Ultra ATA仕様のHDDは、使用できません。

▶購入時のHDD領域について

購入時のHDDは、お客様の選択により次のように設定されています。

＜通常＞

HDDの台数		ドライブ（領域）	容量
1台の場合		消去禁止領域	約2GB*
		Cドライブ	残り
2台の場合	1台目	消去禁止領域	約2GB*
		Cドライブ	残り
	2台目	Dドライブ	購入されたHDDの容量

＜HDD設定変更サービスを選択した場合＞

HDDの台数		ドライブ（領域）	容量
1台の場合		消去禁止領域	約2GB*
		Cドライブ	購入時に選択された容量
		Dドライブ	残り
2台の場合	1台目	消去禁止領域	約2GB*
		Cドライブ	購入時に選択された容量
		Dドライブ	残り
	2台目	Eドライブ	購入されたHDDの容量

*消去禁止領域の容量は、コンピュータの製品仕様により異なります。

すべてのドライブはNTFSファイルシステムでフォーマットされています。

参考

HDD設定変更サービス

HDD設定変更サービスとは、購入時にあらかじめHDDの領域をCドライブ、Dドライブに分割した状態でコンピュータをお届けするサービスのことです。

消去禁止領域とは

「消去禁止領域」には、本体ドライバやソフトウェアを再インストールするためのデータが登録されています。
この領域は「マイコンピュータ」では表示されませんが、Windowsのインストール時に表示されます。この領域は、絶対に削除しないでください。
削除してしまうと、本体ドライバやソフトウェアのインストールができなくなります。
「消去禁止領域」のデータは、CDにコピー（バックアップ）することもできます。
p.213 「バックアップCDの作成」

▶データのバックアップ

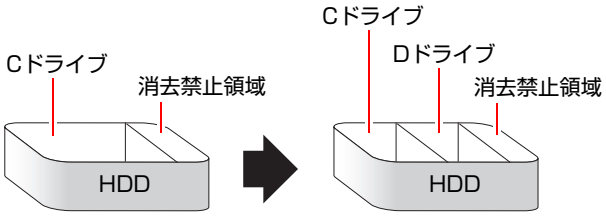
HDDに記録されている重要なデータは、CD/DVDなどのほかのメディアにバックアップしておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。
バックアップの方法は、下記で詳しく紹介しています。

「インフォメーションメニュー」－「ユーザーサポートページ」－「よくある質問」－「操作・設定方法」

▶HDDを分割して使用する

1台のHDDは、いくつかに分割してそれぞれ別々のドライブとして使用することができます。

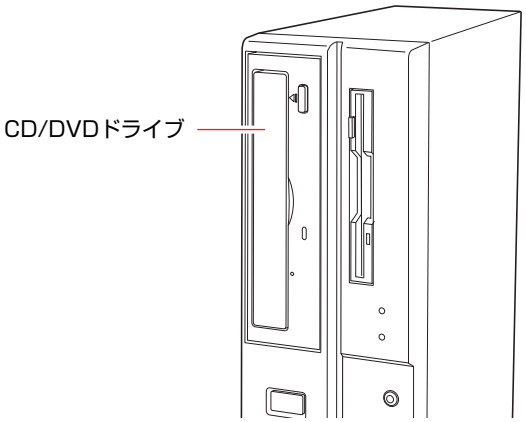
＜1台のHDDを分割する＞
例：1つのHDD領域（Cドライブ）を2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割することができます。



Cドライブを分割する場合は、Windowsの再インストールが必要です。
詳しくは、p.218 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

CD/DVDドライブを使う

CD/DVDドライブは、CD/DVDメディアを使用するための機器です。購入時に選択されたCD/DVDドライブにより、機能や使用できるメディアは異なります。ここでは、CD/DVDドライブの基本的な使い方について説明します。
なお、購入時の選択によっては、CD/DVDドライブがない場合もあります。



注意

- CD/DVDドライブのディスクトレイに手を入れないでください。はさまれると、けがの原因になります。
- CD/DVDドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。内部で飛び散って、故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。

制限

本機では、CD（コンパクトディスク）の規格に準拠しない「コピーコントロールCD」などの特殊ディスクについては、動作保証していません。本機にて動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

▶使用可能なCD/DVDメディア

選択されたCD/DVDドライブで使用できるメディアは、「マニュアルびゅーわ」に登録されているCD/DVDドライブのPDFマニュアルでご確認ください。

p.49 「インフォメーションメニューを使う」

各CD/DVDメディアについての簡単な説明は、「用語集」をご覧ください。

p.234 「用語集」

CD/DVDメディアのセットと取り出し

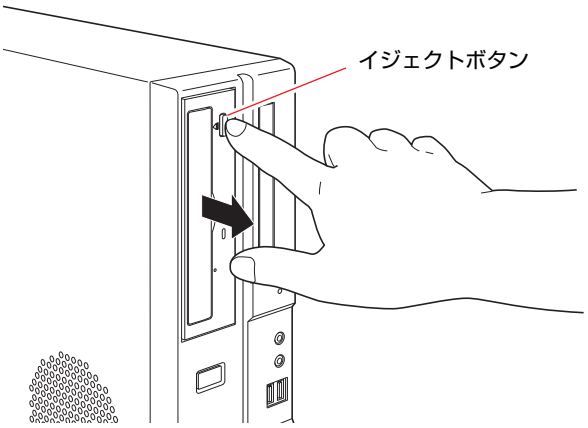
CD/DVDメディアのセットと取り出し方法について説明します。

制限

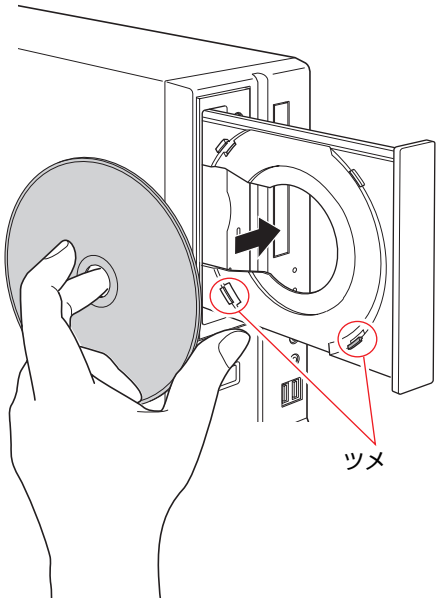
- CD/DVDドライブアクセスランプ点灯中にメディアを取り出したり、コンピュータの電源を切ったり、再起動したりしないでください。
- メディアの出し入れのとき以外は、ディスクトレイの開閉をしないでください。
- 開いているディスクトレイの上に物を置かないでください。また、上から強く押さないでください。
- メディアの再生中や書き込み中に振動や衝撃を与えないでください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。
- 本機を縦置きで使用している場合、8cmのメディアは使用できません。また、縦置き横置きに関係なく、楕円などの通常と異なった形状のメディアは使用できません。

セット方法

1 **イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。**



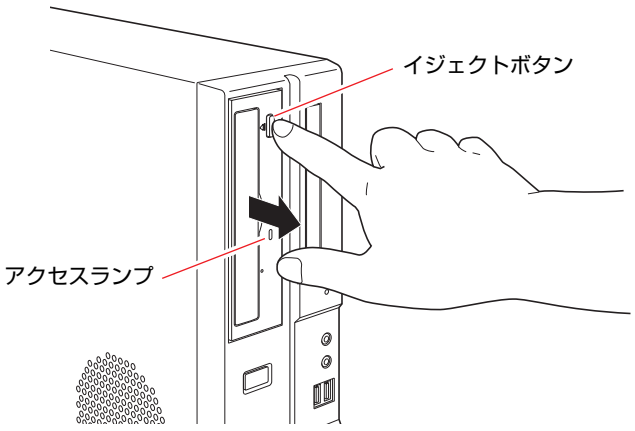
2 **CD/DVD メディアの印刷面を本体の左側に向け、ディスクトレイにある落下防止用のツメ（下側2箇所）にセットします。**
本機が横置きの場合は、メディアの印刷面を上側に向けてセットします。



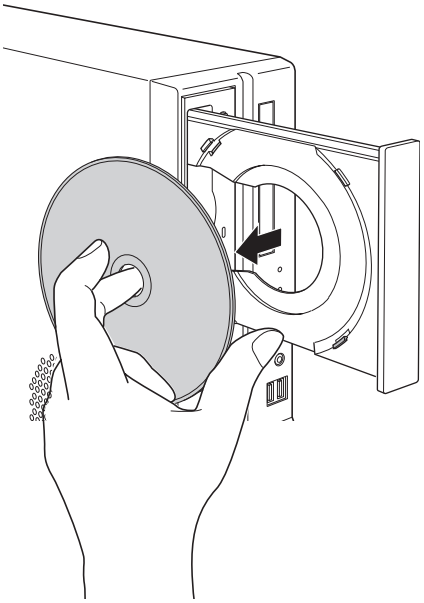
3 **イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。**

取り出し方法

1 **アクセスランプが点灯・点滅していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。**



2 メディアをディスクトレイから取り出します。



3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

参考

イジェクトボタンを押してもメディアが取り出せない場合

セットしたCD/DVDメディアをソフトウェアで使用した場合、イジェクトボタンを押してもメディアが取り出せないことがあります。

ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくはお使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

▶強制的なCD/DVDメディアの取り出し

次のような場合、強制的にメディアを取り出す必要があります。

- CD/DVDドライブが故障したり、ドライブの動作が不安定になったりして、CD/DVDメディアが取り出せない場合
- CD/DVDメディアをセットしたまま、本機の電源を切ってしまった場合

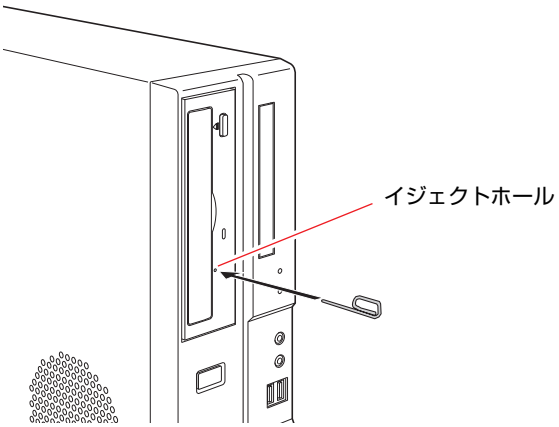
強制的にCD/DVDメディアを取り出す方法は次のとおりです。

1 **本機の電源が入っている場合は、電源を切ります。**

p.53 「電源の切り方」

2 **イジェクトホールに、先が細く丈夫なもの（ゼムクリップを引きのばしたものなど）を差し込みます。**

CD/DVDドライブの種類により、イジェクトホールの位置は異なります。



3 **ディスクトレイが少し飛び出したら、そのまま手でまっすぐディスクトレイを引き出し、メディアを取り出します。**

▶CDメディアの読み込み・再生

CD/DVDドライブでは、データCDを読み込めるほかに、音楽CDやビデオCD、フォトCDなどの再生を行うことができます。これらのメディアのなかには、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

参考

メディアの再生

本機に装着されているCD/DVDドライブは、メディアの認識に時間がかかることがありますが、不具合ではありません。

また、メディアの種類によっては、再生中に振動することがありますが、故障ではありません。

▶DVDメディアの読み込み・再生

DVDメディアに対応しているCD/DVDドライブでは、データが登録されたDVDメディアを読み込めるほかに、ビデオ編集ソフトで作成したDVDなどの再生ができます。再生には、DVD VIDEO再生のためのソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO再生ソフト

DVD再生機能のあるCD/DVDドライブを選択された場合、本機にはDVD VIDEO再生のためのソフトウェア「WinDVD」がインストールされています。

WinDVDの詳しい使用方法は、「マニュアルびゅーわ」に登録されている『WinDVDユーザーズマニュアル』をご覧ください。

DVD VIDEO再生時の制限

「WinDVD」でDVD VIDEOの再生をする場合、解像度や色数、リフレッシュレートの設定により、DVD VIDEOの再生ができないことがあります。

DVD VIDEOの再生ができない場合は、解像度や色数、リフレッシュレートを調節してみてください。

p.83 「解像度や表示色を変更するには」
p.85 「リフレッシュレートの設定」

▶CD/DVDメディアへの書き込み

書き込み機能のあるCD/DVDドライブでは、データ、音楽、画像などをCD/DVDメディアに書き込むことができます。書き込み可能なメディアは、選択されたCD/DVDドライブにより異なります。お使いのCD/DVDドライブで書き込み可能なメディアについては、「マニュアルびゅーわ」に登録されているCD/DVDドライブのPDFマニュアルをご覧ください。

作成した DVD VIDEO は、一部の DVD プレイヤーでは再生できない場合があります。

ライティングソフト

書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。本機にはライティングソフト「Nero 7 Essentials」がインストールされています。

p.78 「Nero 7 Essentialsの使い方」

書き込み時の注意

書き込みを行う場合は、次の点に注意してください。

● **省電力機能を無効にする**

メディアへの書き込み時に、Windowsが省電力モードに切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。

書き込みを始める前に、省電力機能を無効にしてください。

p.108 「時間経過で移行させない」

● **速度に対応したCD/DVDメディアを選ぶ**

書き込みを行う場合は、お使いのCD/DVDドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。

CD/DVDドライブの書き込み速度は、CD/DVDドライブのPDFマニュアルで確認できます。

▶Nero 7 Essentialsの使い方

ライティングソフト「Nero 7 Essentials」を使用すると、CDメディアやDVDメディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。

使い方

Nero 7 Essentialsの起動方法は次のとおりです。

1 **デスクトップ上の次の「Nero」アイコンをダブルクリックします。**

＜Neroアイコン＞

2 **Nero 7 Essentials画面が表示されます。**

Nero 7 Essentialsの詳しい使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「Neroユーザーガイド」

InCD

メディアをパケットライトソフト「InCD」でフォーマットすると、ドラッグアンドドロップするだけでデータの書き込みを行うことができます。
「InCD」の詳しい使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「Neroユーザーガイド」

制限

- 「InCD」で使用できるCD/DVDメディアは、CD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。
- 「InCD」でフォーマットしたメディアは「Nero 7 Essentials」で書き込みを行うことはできません。書き込みを行う場合は、「Nero 7 Essentials」で「ディスクの消去」を行ってください。

有償アップグレードについて

本機にインストールされている「Nero 7 Essentials」は、Nero製品版「Nero 7 Premium」に特別優待価格でアップグレードすることができます。アップグレードをご希望の方は、デスクトップ上の「Neroオンラインアップグレード」から申し込みを行ってください。

USB機器を使う

本機にはUSB2.0に対応したUSBコネクタが、前面に2個、背面に2個用意されています。USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。4個のUSBコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用してもかまいません。

制限

- USBフラッシュメモリやUSB HDDなどのUSB記憶装置を接続した状態で本機の電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。電源を入れる際は、USB記憶装置を抜いた状態で行い、Windows起動後に接続してください。
- コンピュータの電源コードが接続されている状態では、USBポートに5Vの電力が常に供給されています。お使いのUSB機器などによっては、コンピュータの電源を切った状態でも、USB機器のランプが光り続けます。これは、お使いのUSB機器の仕様で、故障ではありません。

USB2.0の転送速度

USB2.0のデータの転送速度は、最大480Mbpsです。USB2.0コントローラは、USB2.0コネクタに接続するすべての周辺機器で共用します。そのため、転送速度は接続する周辺機器が増えると低下します。

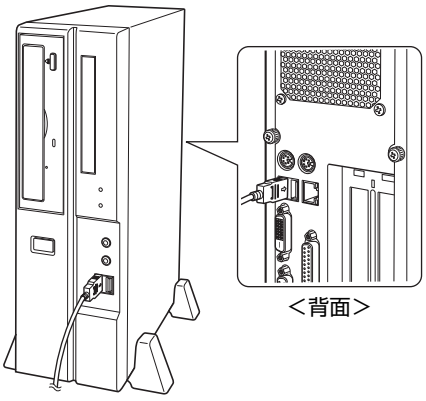
▶USB機器の接続と取り外し

USB機器は、本機の電源が入っている状態でも、接続や取り外しができます。接続するUSB機器によっては、デバイスドライバが必要です。

接続

USB機器の接続は、次のとおりです。

1 **USB機器のUSBコネクタを、本機前面、または背面のUSB2.0コネクタに接続します。**



＜背面＞

2 **USB機器によっては、タスクトレイに「取り外し」アイコンが表示されます。**

＜「取り外し」アイコン＞

取り外し

タスクトレイに「取り外し」アイコンが表示された場合、USB機器の取り外しは、一般的に次の2つの方法で行います。

- Windows上でUSB機器終了処理をした後に取り外す。
- 本機の電源を切った後に取り外す。

USB機器終了処理は、次の手順で行います。

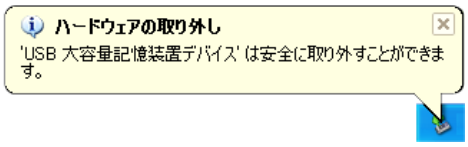
1　タスクトレイの「取り外し」アイコンをクリックします。

＜「取り外し」アイコン＞

2　表示されるメニューから、取り外したいUSB機器のデバイス名をクリックします。

オプションのマルチカードリーダをお使いの場合は、誤ってマルチカードリーダを停止させないよう注意してください。

3　次のメッセージが表示されたら、USB機器を本機から取り外します。



画面表示機能を使う

本機のメインボード上には画面表示機能が搭載されています。
ここでは、表示するディスプレイや解像度などの設定方法について説明します。

参考

セーフモードでの起動

接続しているディスプレイの設定が正しくない場合や、本機の画面表示機能では表示できない解像度を選択した場合、Windowsが再起動したときに画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで再起動して再設定を行ってください。

p.201 「セーフモードでの起動」

▶使用できるディスプレイ

本機にはDVI-Dコネクタ とVGAコネクタを装備しているため、デジタル方式ディスプレイ（以降、デジタルディスプレイ）とアナログ方式ディスプレイ（以降、アナログディスプレイ）を接続することができます。
ディスプレイの接続は、次の3とおりが可能です。

- デジタルディスプレイのみ
- アナログディスプレイのみ
- デジタルディスプレイ+アナログディスプレイ

p.85 「2台のディスプレイに表示する」

ディスプレイの接続

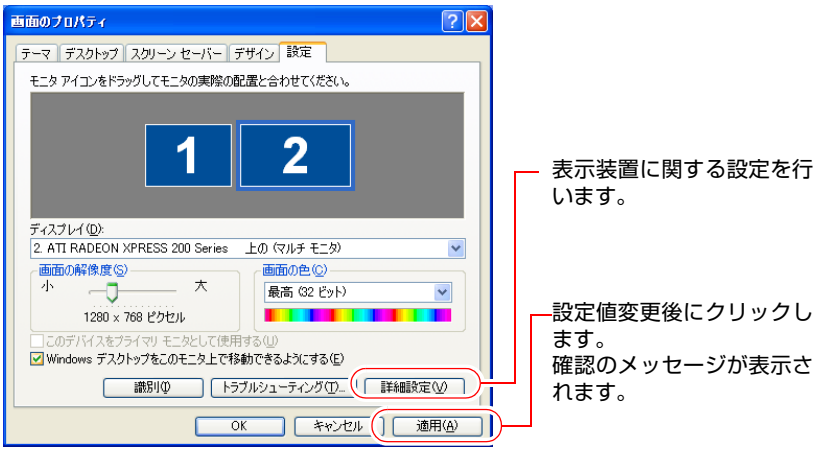
ディスプレイの仕様に合わせて、ディスプレイと本機をDVI-D（デジタル）ケーブル、またはVGA（アナログ）ケーブルで接続します。ディスプレイの接続は、本機およびディスプレイの電源を切ってから行ってください。

p.35 「ディスプレイの接続」

▶表示に関する各種設定

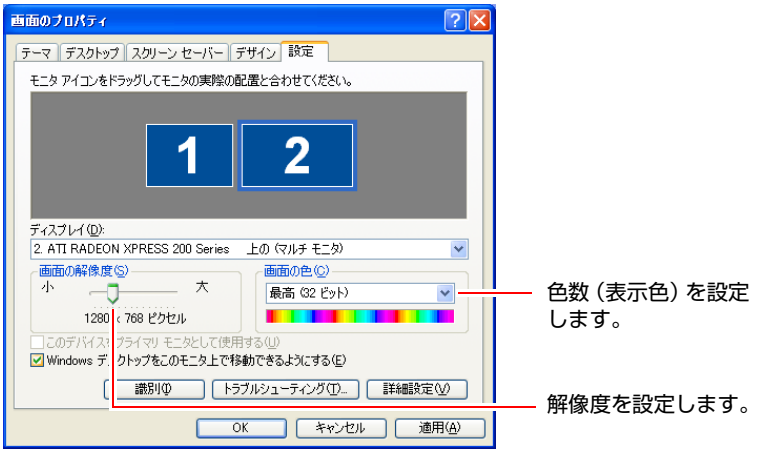
画面表示に関する設定は、「画面のプロパティ」の「設定」タブで行います。
設定画面は、次の場所から表示できます。

［スタート］－「コントロールパネル」－「デスクトップの表示とテーマ」－「画面解像度を変更する」



▶解像度や表示色を変更するには

解像度と表示色は「設定」タブで変更します。



▶表示できる解像度と表示色

本機の画面表示機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

- 本機では、次の解像度以外の解像度を選択することもできますが、それらの設定に関しては保証していません。
- 接続しているディスプレイによっては正常に表示できない解像度や表示色もあります。
- 解像度や表示色が高いと、動画ソフトなどを再生するときに正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。
- ワイドディスプレイをお使いの場合は、画面の解像度を1280×768ピクセルに設定してください。ワイドディスプレイは画面の縦横比が通常のディスプレイと異なるため、1280×768ピクセル以外の解像度に設定すると、画像が正常に表示されません。

解像度（ピクセル）

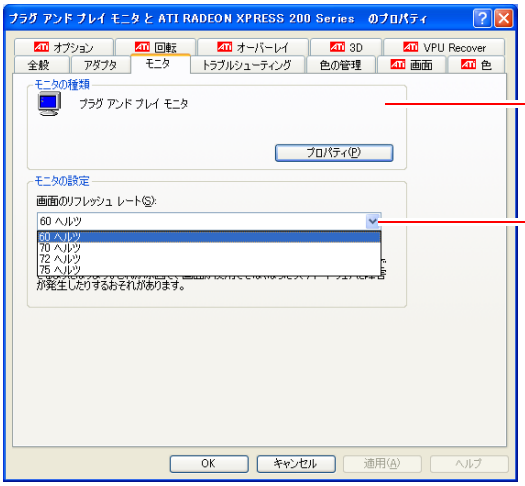
- 800×600
- 1024×768
- 1280×768（ワイドディスプレイ接続時のみ）
- 1280×1024
- 1600×1200（アナログディスプレイ接続時のみ）

表示色

- 中（16ビット）
- 最高（32ビット）

▶表示装置に関する設定

画面のプロパティの「設定」タブー［詳細設定］ー「モニタ」タブでは次の設定を行うことができます。



ディスプレイの設定

通常、接続しているディスプレイは自動的に検出されて設定されますが、接続しているディスプレイによっては正しく設定されない場合があります。その場合は［プロパティ］をクリックして設定を行ってください。詳しくは、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

リフレッシュレートの設定

画面がちらつく、文字がにじむといった現象が起こるときは、リフレッシュレートを変更すると問題が解決することがあります。
ディスプレイによっては、リフレッシュレートの変更ができない場合もあります。

▶2台のディスプレイに表示する

本機にデジタルとアナログの2台のディスプレイを接続した状態で電源を入れた場合、通常は1台のディスプレイのみに表示されます。2台のディスプレイに表示させるには、次のような設定が必要です。

マルチモニタ機能

マルチモニタ機能を使用すると、本機と接続した2台のディスプレイ上に、大きな1つの画面を仮想的に表示することができます。このため、2台のディスプレイで別々のアプリケーションの画面を表示することができます。

マルチモニタ機能の設定手順は、次のとおりです。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「デスクトップの表示とテーマ」－「画面解像度を変更する」をクリックします。**

「画面のプロパティ」画面が表示されます。

2 **マルチモニタ機能を有効にします。**

(1) **モニタアイコン「2」を選択します。**

モニタアイコン「1」はプライマリディスプレイ、モニタアイコン「2」はセカンダリディスプレイです。

(2) **「Windowsデスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」にチェックを付けます。**

マルチモニタ機能を無効にするときは、このチェックを外します。

モニタアイコン「1」「2」は、分割した画面を表示する位置を示しています。モニタアイコン「2」をドラッグして、表示位置を変更できます。

3 **セカンダリディスプレイ（モニタアイコン「2」）の解像度を設定します。**

セカンダリディスプレイが表示できる範囲内の解像度を設定してください。

4 **項目を変更したら、［適応］をクリックし（このとき画面が乱れる場合があります）、画面のメッセージに従って操作します。**

マルチモニタ機能を無効にするには

マルチモニタ機能を無効にするには、設定手順に従って、手順2で「Windowsデスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」のチェックを外し、［適応］をクリックします（このとき画面が乱れる場合があります）。

マルチモニタ機能を無効にすると、プライマリディスプレイのみでの表示になります。

サウンド機能を使う

本機のメインボード上には、サウンド機能が搭載されています。

注意

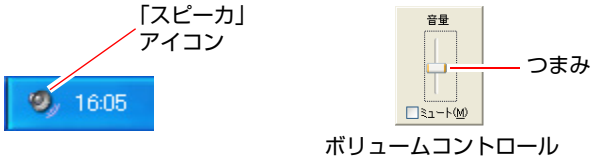
ヘッドフォンやスピーカを使用する場合は、ボリュームを最小にしてから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

内蔵モノラルスピーカ

本機には、モノラルスピーカが内蔵されています。このため、外部スピーカなどを接続しなくても、音源からの音声を出力することができます。

音量の調節

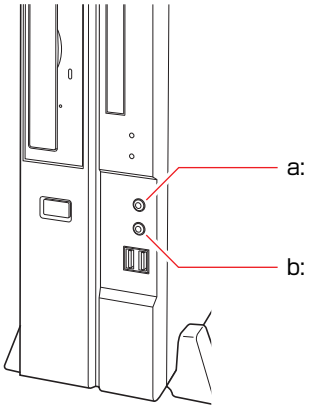
画面右下のタスクトレイに表示されている「スピーカ」アイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。音量は、つまみをドラッグして上げると大きく、下げると小さくなります。
「ミュート」にチェックを付けると消音になります。



▶外部スピーカなどの接続

本機の前面と背面には、オーディオ機器や外部スピーカ、マイクなどを接続するためのコネクタが標準で装備されています。
各コネクタの位置と使い方は、次のとおりです。

前面側



a: ヘッドフォン出力コネクタ
ヘッドフォンを接続して、本機からの音声をステレオ出力するためのコネクタです。
ヘッドフォンなどを接続すると、本機の内蔵モノラルスピーカは自動的に無効になります。

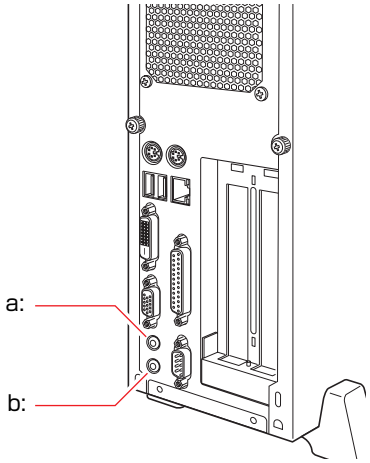
b: マイク入力コネクタ
マイクと接続して、音声を本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能を使って、録音や再生を行うことができます。

参考

使用できるマイク
マイク入力コネクタに接続して使用できるマイクは、電源を必要とするコンデンサーマイクです。
コンデンサーマイクには、次の2種類があります。

- コンセントなどから、電源供給するタイプ
- 乾電池やコンピュータから、電源供給するタイプ

背面側



a: ライン入力コネクタ
カセットデッキなどのオーディオ機器の音声出力端子と接続して、音声を本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能を使って、録音や再生を行うことができます。

b: ライン出力コネクタ
外部接続用のアンプ内蔵スピーカなどを接続して、音声を出力するためのコネクタです。
スピーカなどを接続すると、本機の内蔵モノラルスピーカは自動的に無効になります。

▶音声の再生・録音

Windows標準のサウンドユーティリティを使うと、音声の再生・録音をすることができます。

音声の再生

音声の再生は「Windows Media Player」を使用します。「Windows Media Player」は次の場所から起動します。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「Windows Media Player」

音声の録音

音声の録音は「サウンドレコーダー」を使用します。「サウンドレコーダー」は次の場所から起動します。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「エンターテイメント」

「サウンドレコーダー」では、最長60秒しか録音することができません。
長時間の録音を行うには、別途アプリケーションが必要です。

マイク使用時の注意

マイクで録音した音声を再生すると、録音した音が小さいことがあります。その場合は、次の手順で設定を変更し、録音してみてください。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」－「サウンドとオーディオ デバイス」をクリックします。**

2 **「サウンドとオーディオ デバイス」画面の「オーディオ」タブ－「音の再生」項目の［音量］をクリックします。**

3 **「マスタ音量」画面の「オプション」メニュー－「プロパティ」をクリックします。**

4 **「プロパティ」画面の「マイク」にチェックを付け、［OK］をクリックします。**

5 **「マスタ音量」画面の「オプション」メニュー－「トーン調整」をクリックします。**

6 **「マイク」項目の［トーン］をクリックします。**

7 **「マイクの詳細設定」画面の「そのほかの調整」項目で、「1_マイク ブースト」にチェックを付け、［閉じる］をクリックします。**
これで設定は終了です。

Windowsを再インストールした場合は、再度この設定が必要です。

ネットワーク機能を使う

本機のメインボード上には、ネットワーク機能（LAN機能）が搭載されています。ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、LANケーブルやハブ（サーバ）などが必要です。ほかにも、Windows上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定なども必要になります。
ネットワークの構築は、お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

- NetWareサーバを利用している場合や NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  - ・ 切断後に再度ログオンする。（NetWareのみ）
  - ・ 再起動する。
  - ・ 省電力モードを無効にする。
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。

▶主な機能について

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、Wakeup On LANやリモートブートなどの機能を使用できます。

Wakeup On LAN

Wakeup On LANとは、電源切断時にネットワークからの信号により本機を復帰させることができる機能です。この機能はWindowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。

Wakeup On LANを設定している場合

BIOSの設定で、Wakeup On LAN（Power on By PCI Devices）が有効に設定されているときに、電源コードを抜き、再び接続するとコンピュータが一瞬起動する場合があります。これは、不具合ではありません。

リモートブート

リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバ上からWindowsなどのOSをインストールすることができます。

▶ネットワーク機能を無効にする

搭載されているネットワーク機能を使用せずに、ネットワークボードなど、ほかのネットワーク機能を使用する場合、メインボード上のネットワーク機能を無効にする必要があります。「BIOS Setupユーティリティ」で「Onboard LAN」を無効「Disabled」に設定してください。

購入時にネットワークボードが装着されている場合、「Onboard LAN」はあらかじめ「Disabled」に設定されています。

p.146 「Advancedメニュー画面」－「Onboard Devices Configuration」－「Onboard LAN」

インターネットに接続するには

ホームページを見たり、電子メールをやり取りしたりするためには、インターネットへの接続が必要です。ここではインターネットへの接続方法やインターネットを利用する上での注意事項について説明します。

▶接続するまでの流れ

インターネット接続までの流れは次のとおりです。

接続方法の選択
↓
プロバイダとの契約
↓
インターネットに接続

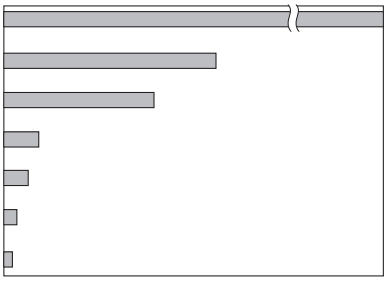
▶接続方法の選択とプロバイダとの契約

インターネットへ接続するには、接続方法を決め、その接続方法でサービスを提供しているプロバイダ（インターネットサービスプロバイダ、ISP）と契約します。
接続方法は、目的や使い方に合わせて選択しましょう。また、同じ接続方法でも、通信速度や料金、サポート内容はプロバイダによって異なります。詳しい内容はプロバイダに確認してください。

接続方法の種類

高速なインターネット接続をブロードバンドと呼び、光ファイバー、ADSL、CATVなどでの接続がそれにあたります。また、アナログ電話回線、ISDNなどでの低速な接続をナローバンドと呼びます。

接続方法	接続環境	インターネットでの通信速度イメージ
光ファイバー	ブロードバンド	
ADSL		
CATV		
ISDN	ナローバンド	
PHS		
携帯		
アナログ		



インターネット接続の方法には、主に次のようなものがあります。

- **光ファイバー**
  ほかのブロードバンド接続と比べても、数段に速く安定しているため、映像などの大量のデータ転送も無理なくできます。また、インターネットと合わせてテレビや電話も利用することができます。
  ただし、接続料金が高く、非対応の地域があります。
- **ADSL**
  電話回線を利用します。インターネットをストレスなく使えます。通信速度は、プロバイダのプランから使い方に合わせて選ぶことができます。
  利用電話局からの距離が遠くなるにつれ速度が遅くなってしまうので、事前に速さの確認をする必要があります。
- **CATV**
  ケーブルテレビのケーブルを利用します。インターネットをストレスなく使えます。
- **そのほかの接続方法（ナローバンド）**
  ほかにもアナログ電話回線やISDN回線を使った低速な接続方法があります。

参考

ダイヤルアップ接続
ブロードバンドは常時接続が一般的ですが、ナローバンドでは、必要時に電話回線を通じてインターネットに接続します。この作業をダイヤルアップ接続と呼びます。

必要な機器

インターネット接続に必要な機器は接続方法によって異なります。詳しくは各プロバイダにお問い合わせください。

▶インターネットに接続する

プロバイダと契約すると、メールアドレスやパスワードなどインターネットへの接続に必要な情報と、接続手順を記載した説明書がプロバイダより提供されます。説明書に従って接続作業を行ってください。

参考

再インストール後のインターネット接続
Windowsを再インストールした場合は、インターネットに接続するための設定作業が再度必要になります。プロバイダからの説明書は失くさないように大切に保管してください。

▶インターネットを使う上での注意

インターネットを使用すると、簡単に情報を得ることができたり、手軽にメッセージを送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないことがあります。次の点に気をつけてインターネットを使用してください。

- 電子メールは途中経路の障害などにより、届かない場合もあります。
- 電子メールは世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、第三者に内容を見られる可能性があります。
- インターネット上の情報は、必ずしも正しいとは限りません。正しい情報であるかどうかを十分に見極めて、有効に活用する必要があります。
- 安易に個人情報をホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると、悪用されることがあります。また、他人の個人情報を断りなくホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると法律で罰せられます。
- ホームページからダウンロードするデータによっては、コンピュータが障害を被ることがあります。
- コンピュータウイルスに感染すると、コンピュータが障害を被る可能性があります。また、無許可のユーザーにインターネットを介して本機にアクセスされる可能性もあります。

  ウイルスに感染する主な原因は次のとおりです。

  • ウイルスが添付されたメールを受信する

  • 悪質なプログラムが起動するホームページを閲覧する

  これらの危険から本機を守る方法については、p.96「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」をご覧ください。

インターネットを使用する際のセキュリティ対策

本機には、コンピュータウイルス感染や不正アクセスなど、インターネットに接続した場合の危険に対するセキュリティ機能が備えられています。
ここでは、このセキュリティ機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピュータの安全を守るため、必ずセキュリティ対策を行ってください。

▶Windows Update

「Windows Update」は、本機のWindowsの状態を診断し、更新が必要な内容があった場合、インターネット上から更新内容をインストールし、本機を最新の状態にする機能です。

はじめてインターネットに接続したときは

はじめてインターネットに接続した場合や、Windowsの再インストールをした場合は、まず、次の場所から手動で「Windows Update」を実行してください。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「Windows Update」

その後は定期的に自動でWindows Updateを実行してください。

定期的に自動でWindows Updateを実行する

本機の状態を最新に保ち、安全に使用するため、「Windows Update」は必ず定期的に実行してください。
定期的に自動でWindows Updateを実行する方法は、次のとおりです。

［スタート］－「コントロールパネル」－「セキュリティセンター」－「自動更新」－「自動（推奨）」にチェック

購入時、「自動更新」は有効に設定されています。本機のセキュリティを最新に保つため、有効のままお使いください。

セキュリティソフトウェア

コンピュータウイルスは、インターネット上やメールの添付ファイルなどから感染する悪意のあるプログラムです。
コンピュータウイルスに感染すると、本機の動作が不安定になったり、保存してあるファイルが破壊されるなどの被害が発生します。
ウイルス感染を防ぐために、セキュリティソフトウェアをインストールしてウイルス対策を行ってください。

Norton Internet Security 90日版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能、フィッシング詐欺検出機能を備えたセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」が添付されています。購入時に「Norton Internet Security 90日版」はインストールされていませんので、必要に応じてインストールを行ってください。詳しくは、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。

更新サービスの有効期限

本機に添付の「Norton Internet Security 90日版」は、製品版ではありません。更新サービスの有効期限は、セットアップ後90日間です。90日経過後は、更新サービスの延長キー（有償）を購入すると、1年間使用可能です。更新サービスの詳細は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

市販のセキュリティソフトウェアを使う

市販のセキュリティソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、「Norton Internet Security 90日版」はインストールしないでください。
インストールしていた場合は、アンインストール（削除）してください。アンインストール方法は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

▶ファイアウォール

インターネットに接続していると、不正なアクセスにより、本機のデータやプログラムを勝手に見られたり、改ざんや破壊されたりする可能性があります。「ファイアウォール」は、これらの不正アクセスを検出し、遮断する機能です。不正アクセスを遮断するため、必ずファイアウォール機能を使用してください。

Norton AntiVirusのファイアウォール機能

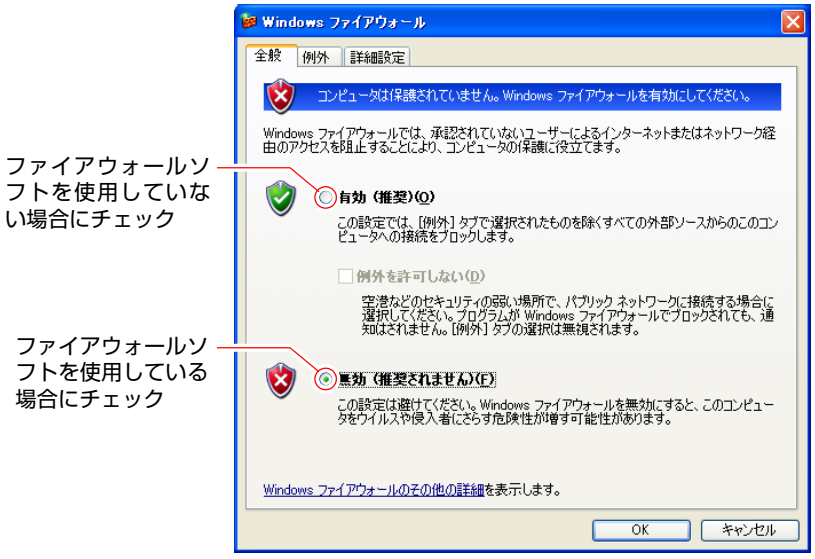
本機に添付の「Norton Internet Security 90日版」には、ファイアウォール機能が備えられています。「Norton Internet Security 90日版」のセットアップを行うと、自動的にファイアウォール機能が有効になりますのでそのままお使いください。

Windowsファイアウォールの設定

本機には、Windowsのファイアウォール機能が備えられています。
ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用している場合は、ファイアウォール同士の競合を防ぐため、Windowsファイアウォールを「無効」に設定してください。
ファイアウォール機能を持つソフトウェアなどを使用しない場合は、Windowsファイアウォールを「有効」に設定してください。

Windowsファイアウォールの有効/無効の設定は、次の場所から行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「セキュリティセンター」－「Windowsファイアウォール」



インターネットや電子メールを利用する

ここでは、インターネットを利用するための、次のソフトウェアの使い方について簡単に説明しています。詳しい使い方は、各ソフトウェアのオンラインヘルプをご覧ください。

- Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）
  インターネットのホームページを閲覧するためのソフトウェアです。

- Outlook Express（アウトルックエクスプレス）
  電子メールを書いたり、送受信するためのソフトウェアです。

Internet Explorer、Outlook Expressを使用するには、インターネットへの接続が必要です。インターネットに接続するために、プロバイダと契約し、プロバイダから提示された資料に基づいて各種設定を行ってください。
p.93 「インターネットに接続するには」

Internet Explorerの使い方

起動と終了

終了方法は次のとおりです。
ダイアルアップ接続の場合は、接続/切断の確認画面が表示されます。

起動

［スタート］－「すべてのプログラム」－「Internet Explorer」をクリックします。
Internet Explorerが起動します。

終了

画面右上の をクリックします。
Internet Explorerが終了します。

画面の説明

※画面の内容は予告なく変更する場合があります。

- **見たいホームページを開くには**
  - アドレスバーにアドレス（URL）を入力して［↵］を押します。
  - キーワードを使って検索します。［検索］をクリックして、検索画面でキーワードを入力します。
- **「お気に入り」にページを登録する**

  よく見るページは「お気に入り」に登録しておくと、すぐにアクセスできます。「お気に入り」－「お気に入りに追加」をクリックして登録します。
- **リンクしているページにジャンプする**

  ホームページの画面上でマウスポインタが から に変わる場所があります。 に変わる場所をクリックすると、リンク先のページ（ステータスバーに表示されているアドレス）にアクセスできます。
- **以前に見たページを開く**

  ［履歴］をクリックすると、以前に見たページの一覧が表示されます。
- **起動時に表示されるページを設定する**

  Internet Explorerを起動した際に表示されるページ（ホームページ）を設定するには、「ツール」－「インターネットオプション」－「全般」タブ－「ホームページ」で、表示したいページのアドレスを入力し、設定します。

● 文字のサイズを変更する

表示される文字のサイズを変更する場合は、「表示」－「文字のサイズ」から変更します。初期設定は「中」になっています。

参考

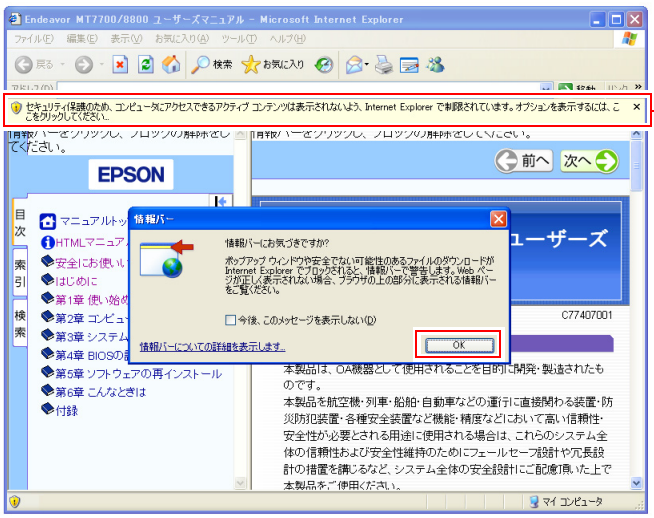
「お気に入り」のバックアップ

Windowsを再インストールする場合は、必要に応じて「お気に入り」のバックアップを行ってください。

p.208 「データのバックアップ方法」

情報バーが表示されたら

購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時に「警告」（情報バー）が表示されたら、［OK］をクリックして画面を閉じ、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処をしてください。



便利な追加機能について

● JWord

「JWord」を使うと、アドレスバーを利用して、簡単に検索ができます。

JWordの詳しい使い方については、デスクトップ上にあるアイコンをダブルクリックしてください。

● gooスティック
Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスが設定されています。「gooスティック」を使うと、検索機能や辞書機能をいつでも利用することができます。

▶Outlook Expressの使い方

起動と終了

起動、終了方法は次のとおりです。
ダイアルアップ接続の場合は、接続/切断の確認画面が表示されます。

起動

［スタート］－「すべてのプログラム」－「Outlook Express」をクリックします。
Outlook Expressが起動します。

終了

画面右上の ❌ をクリックします。
Outlook Expressが終了します。

参考

ダイアルアップ接続時の電子メールの送受信
電子メールの送受信には、インターネット接続が必要ですが、電子メール作成時や、受信した電子メールを読むときは、インターネット接続の必要はありません。

Outlook Expressの初期設定

Outlook Expressをはじめて起動した際に「インターネット接続ウィザード」画面が表示された場合は、初期設定が必要です。
初期設定では、メールアドレスなどの接続に必要な情報を入力します。これらの情報は、プロバイダから提供された説明書をご覧ください。

初期設定は、次の手順で行います。

1 **［スタート］－「すべてのプログラム」－「Outlook Express」をクリックします。**

2 **「インターネット接続ウィザード」画面で「名前」と表示されたら、名前を入力して［次へ］をクリックします。**

3 「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダから取得したメールアドレスを入力して［次へ］をクリックします。

4 「電子メールサーバー名」と表示されたら、プロバイダから指定されている受信メールサーバと送信メールサーバを入力して［次へ］をクリックします。

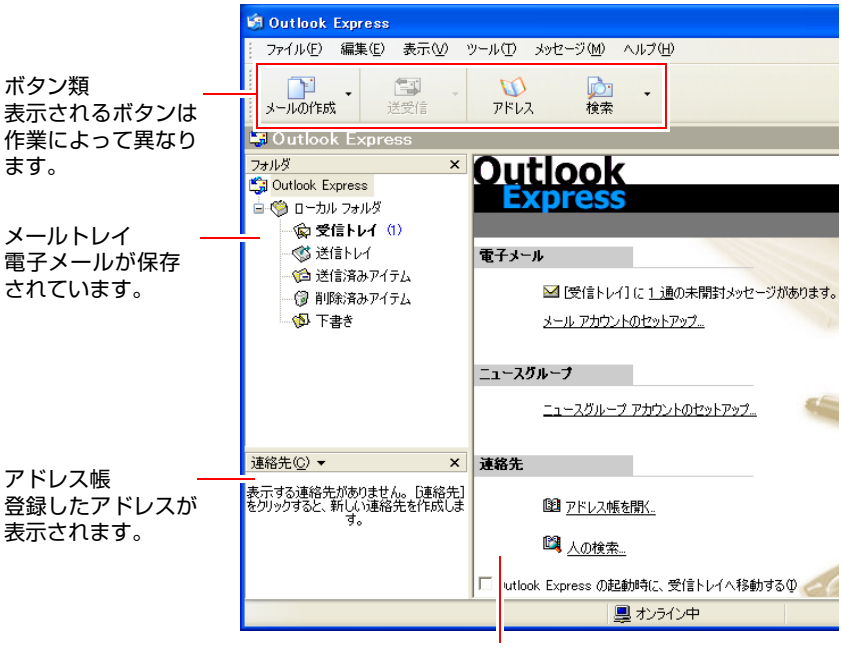
5 「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダから指定されているメールアカウントとメールパスワードを入力して［次へ］をクリックします。

6 「設定完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。

参考

初期設定の画面を表示するには
「Outlook Express」の次の場所から「インターネット接続ウィザード」画面を表示することができます。
「ツール」メニュー－「アカウント」－［追加］－「メール」

画面の説明



参考

プレビュー表示

電子メールの一覧を表示すると、画面の下部に電子メールの内容が表示（プレビュー表示）されますが、受信トレイをプレビュー表示で使用するとウイルスに感染する危険があるので、無効にすることをおすすめします。
設定変更は「表示」メニュー－「レイアウト」で行います。

● 電子メールを受信する

Outlook Expressを起動時にインターネットに接続すると、自動的に電子メールを受信します。
受信していない場合や、再度受信したい場合は、［送受信］を押します。

● 受信した電子メールを見る

「受信トレイ」をクリックして電子メールの一覧を表示し、見たい電子メールを開きます。

● 電子メールを作成する

［メールの作成］を押すと、メッセージ作成画面が表示されます。

● 電子メールを送信する

メッセージ作成画面の［送信］を押すと指定した「宛先」に電子メールが送信されます。
送信されずに、「送信トレイ」に一時保存される場合は、［送受信］を押します。

● メールアドレスを登録する

［アドレス］を押して［新規作成］で登録します。

参考

「アドレス帳」「メールデータ」のバックアップ

Windowsを再インストールする場合は、必要に応じて「アドレス帳」や「メールデータ」のバックアップを行ってください。
p.208 「データのバックアップ方法」

省電力機能を使う

省電力機能を使うと、コンピュータを使用していない間、コンピュータ本体が省電力モードに移行して、消費電力を抑えることができます。
ここでは、Windowsの省電力機能について説明します。

制限

- NetWare サーバを利用している場合や、NetBEUI を使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合には、次のいずれかの方法をとってください。
  ・ 切断後に再度ログオンする。（NetWareのみ）
  ・ 再起動する。
  ・ 省電力モードを無効にする。
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。
- CD/DVDメディアなどへの書き込み中に省電力モードに移行すると、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを行う場合は、省電力モードを無効にしてください。
  p.108 「時間経過で移行させない」
- 省電力モードに移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- サウンド機能を使って録音・再生している場合に、省電力モードに移行するとサウンド機能が正常に動作しない可能性があります。
- 周辺機器を接続している場合や、アプリケーションを起動している場合などに、省電力機能が動作しないことがあります。

▶省電力モードの種類

省電力機能には、次の3つのモードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

● HDD/ディスプレイの電源を切る

HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。

● スタンバイ

作業内容をメモリに保存した状態でコンピュータの動作を中断します。
設定により、消費する電力量は異なります。

設定値	省電力の効果
「S1 (POS) only」	モニタなど最低限の不必要な電源が切れます。電力消費は通常より若干抑えられる程度です。
「S3 only」	メモリ以外の電源が切れるため、電力消費はほとんどありません。

購入時は「S3 only」に設定されています。
スタンバイの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」の「Power」メニュー画面－「Suspend Mode」で行います。

● 休止状態

作業内容をHDDに保存して電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。
購入時の休止状態は、「有効」に設定されています（購入時のシステム構成により、「無効」の場合もあります）。
休止状態の設定は、次をご覧ください。
p.107 「休止状態を有効にする」

制限

- スタンバイを実行しているときに電源コードが抜けたりすると、メモリへの電源供給が切れてしまい、次に本機の電源を入れたときに正常に起動しません。この場合は、本機の電源を切ってからもう一度入れなおしてください。
- 周辺機器との相性によっては、スタンバイが正常に動作しない場合があります。その場合は、「BIOS Setupユーティリティ」の「Power」メニュー画面－「Suspend Mode」を「S1(POS) only」に設定してください。

電源ランプの表示

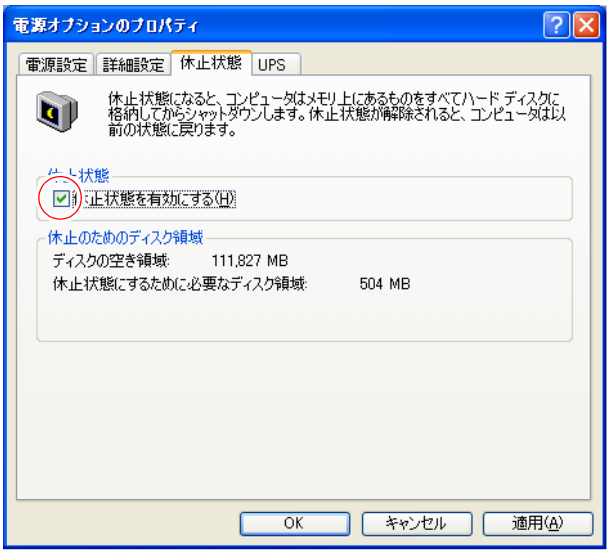
省電力モードの状態によって、電源ランプの表示も異なります。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード	緑点灯
HDD/ディスプレイの電源切断	緑点灯
スタンバイ（S1 (POS) only）	緑点灯
スタンバイ（S3 only）	緑点滅
休止状態	消　灯
電源切断時	消　灯

休止状態を有効にする

省電力モードの「休止状態」を有効にすると、電源スイッチを切った状態と同様に、電力の消費を抑えることができます。
「休止状態」を有効にする手順は次のとおりです。

［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「休止状態」タブ－「休止状態を有効にする」にチェック



▶省電力モードに移行する

省電力モードに移行するには、大きく分けて2つの方法があります。省電力モードに移行する場合は、万一正常に復帰できない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書など）は保存しておいてください。

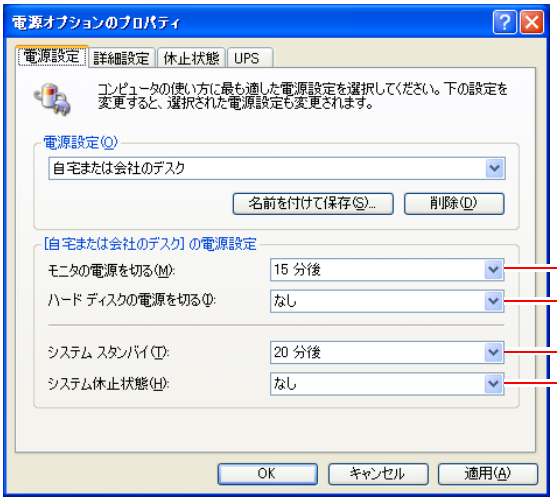
- **時間経過で実行**
  設定した時間を超えてコンピュータを使用しないとディスプレイの電源が切れたり、省電力モードに移行したりします。
- **直ちに実行**
  席を外すときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

省電力モードに関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」

時間経過で移行する

省電力モードに移行する時間の設定は、「電源設定」タブの画面で行います。



設定した時間を超えて何も操作しないと、各モードに移行します。

時間経過で移行させない

CD/DVDメディアへ書き込みを行う場合などは、時間経過による省電力モードへの移行を無効に設定します。

時間経過による省電力モードへの移行を無効にするには、「モニタの電源を切る」などすべての項目の時間設定を「なし」に設定します。

直ちに移行する

次の方法で、スタンバイ、または休止状態に強制的に移行します。

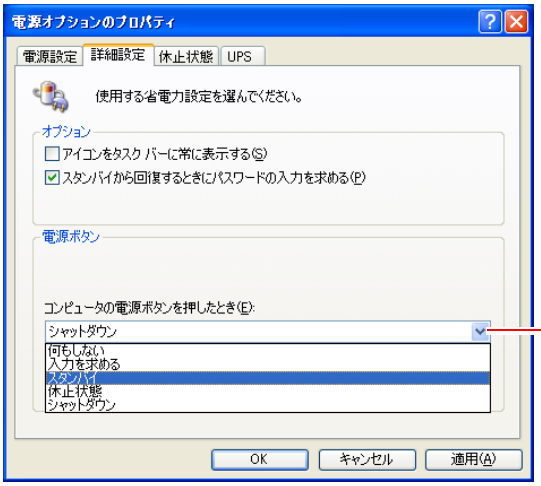
- スタートボタンから移行する

- [スタート] −「終了オプション」から選択し、移行する

  「コンピュータの電源を切る」画面で Shift を押すと、「スタンバイ」ではなく「休止状態」を選択できるようになります。

- 電源スイッチを押して移行する

  電源スイッチを押したときにどのモードに入るかを、あらかじめ「詳細設定」タブの画面で設定しておきます。



電源スイッチを押したときの動作を設定します。

▶省電力モードから復帰する

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

省電力モード	電源ランプ	復帰方法
HDD/ディスプレイの電源が切れている状態	緑点灯	キーボードやマウスを操作します(誤って電源スイッチを押さないでください)。
スタンバイ（S1 (POS) only）	緑点灯	キーボードやマウスを操作します(誤って電源スイッチを押さないでください)。
スタンバイ（S3 only）	緑点滅	電源スイッチを押します。
休止状態	消　灯	電源スイッチを押します。

▶スピードステップ機能

スピードステップ機能「EIST」に対応したCPUを搭載しているモデルの場合、スピードステップ機能「EIST」を使用することができます。
「EIST」とは、Enhanced Intel Speedstep Technologyの略で、使用時のCPUの使用率に合わせて、自動的にCPUの処理速度を調整し、本機を省電力で動作させる機能です。

EISTの設定

「EIST」を使用するには、BIOSと「電源設定」で「EIST」が有効に設定されている必要があります。

BIOS

「EIST」に対応したプロセッサを搭載している場合、購入時、BIOSで「EIST」は「Auto」(有効) に設定されています。「Auto」(有効) のまま使用してください。
p.146 「Advancedメニュー画面」－「CPU Configuration」－「Enhanced C1 Control」

スピードステップ機能「EIST」に対応したCPUを搭載している場合のみ、BIOSの「Enhanced C1 Control」が表示されます。

電源設定

購入時の「電源設定」では、「EIST」が無効に設定されています。「EIST」を使用するには、設定を有効にしてください。
「電源設定」での「EIST」の設定は、次の項目から行います。

[スタート]－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「電源設定」タブの「電源設定」

● EISTを有効にする場合

「最小の電源管理」を選択します。
CPUの使用率が低いときは、CPUの処理速度を抑えて消費電力を少なくします。CPUの使用率が高いときには、CPUの処理速度の最速で動作します。

● EISTを無効にする場合

「自宅または会社のデスク」を選択します。
CPUの処理速度の最速で動作します。

そのほかの機能

ここでは、そのほかの機能について説明します。

▶パラレルコネクタ

本機背面にはパラレルコネクタが1個用意されています。パラレルコネクタには、パラレルコネクタに対応した機器（プリンタやスキャナなど）を接続します。

本機ではパラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

p.146 「Advancedメニュー画面」－「Onboard Devices Configuration」

▶シリアルコネクタ

本機背面にはシリアルコネクタが1個用意されています。シリアルコネクタには、シリアルコネクタに対応したシリアルマウスや外付けのFAXモデム、TA（ターミナルアダプタ）などを接続します。

本機ではシリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

p.146 「Advancedメニュー画面」－「Onboard Devices Configuration」

▶ハイパースレッディング機能

ハイパースレッディング機能を持つプロセッサを搭載しているモデルの場合、Windowsに1つのコア（CPU）を仮想的に2つに見せかけることで、異なる2つの命令を同時に実行することができます。ハイパースレッディング機能に対応したアプリケーションでは、処理性能が向上します。

購入時、ハイパースレッディング機能は「有効」に設定されています。

p.146「Advancedメニュー画面」－「CPU Configuration」－「Hyper Threading Function」

▶データ実行防止機能（DEP機能）

本機は、データ実行防止機能（以降、DEP機能）に対応しています。DEP機能とは、メモリを利用して拡大する種類のコンピュータウイルスに感染してしまったアプリケーションやプログラムを停止する機能です。
DEP機能は、ウイルスの活動を阻止するもので、検索・駆除を行うものではありません。ウイルスの検索・駆除はセキュリティソフトウェアで行ってください。

DEP機能がこれらのウイルスを検出した場合、感染してしまったアプリケーションやプログラムの実行を停止し、次の画面を表示します。

上の画面が表示された場合は、セキュリティソフトウェアでウイルスの検索・駆除を行ってください。それでも問題が解決しない場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

安全なアプリケーションでエラーが表示された場合

DEP機能では、安全なアプリケーションを実行した場合でも、メモリの状態によっては、アプリケーションを停止してしまう場合があります。このような場合は、アプリケーションの製造元へお問い合わせください。

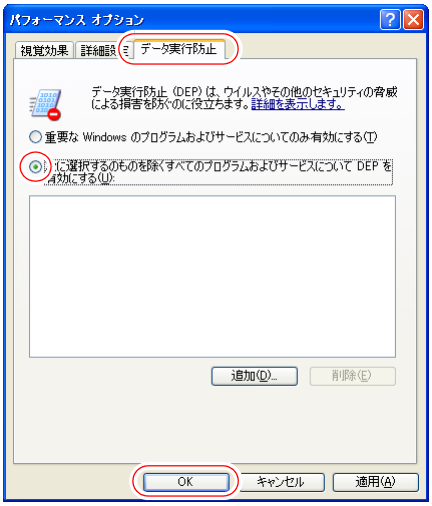
さらにセキュリティを強化する

DEP機能を次のように設定すると、セキュリティがさらに強化されます。
Windowsを再インストールした場合は、再度設定が必要です。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「システム」をクリックします。**

2 **「システムのプロパティ」画面が表示されたら、「詳細設定」タブをクリックし、「パフォーマンス」欄にある［設定］をクリックします。**

3 「データ実行防止」タブをクリックし、「次に選択するものを除く・・・」にチェックを付けて［OK］をクリックします。

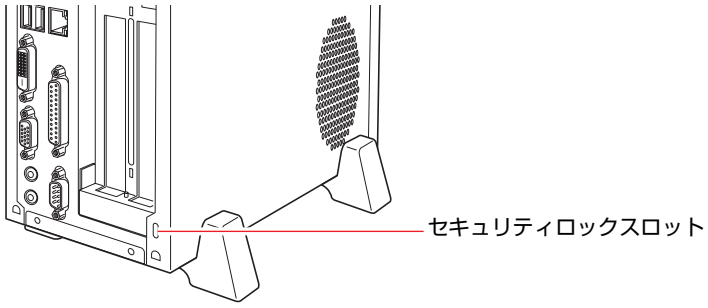


4 「システムのプロパティ」画面が表示されたら、［OK］をクリックします。

5 ［スタート］－「終了オプション」－［再起動］をクリックし、コンピュータを再起動します。
コンピュータが再起動したら、設定は終了です。

▶セキュリティロックスロット

本機背面には、「セキュリティロックスロット」が装備されています。ここには、専用の盗難抑止ワイヤーを取り付けます。
専用の盗難抑止ワイヤーは、当社ホームページで購入することができます。
http://epsondirect.jp



第3章
システムの拡張

本機にメモリや拡張ボードを装着して、機能を拡張する方法を説明します。

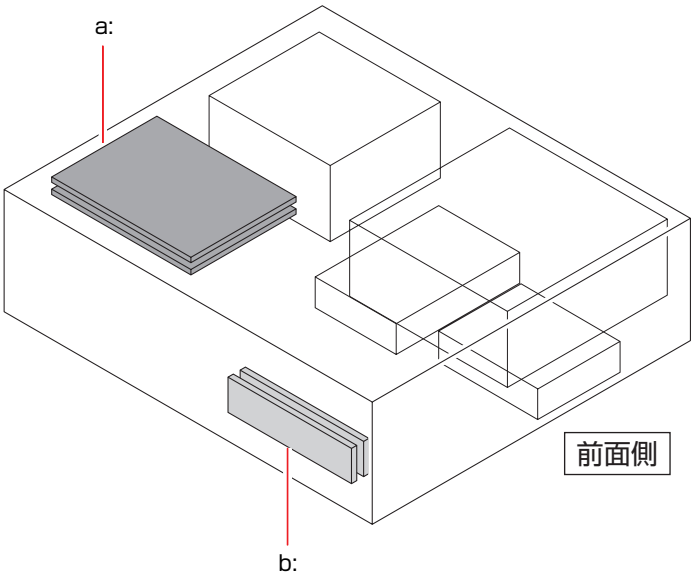
「拡張できる装置」 116
「作業時の注意」 118
「本体カバーの脱着」 119
「拡張ボードの装着」 122
「メモリの増設」 128

拡張できる装置

本機は、メモリや拡張ボードを増設・交換して機能を拡張することができます。購入時のシステム構成により、実際に拡張できるメモリや拡張ボードの数は異なります。

制限

メモリと拡張ボード以外の装置をご自身で増設・交換することはできません。



a: 拡張スロット

PCI仕様の拡張ボードを2枚装着できます。

p.122 「拡張ボードの装着」

b: メモリスロット

メモリスロットが2本用意されています。メモリを最大2GBまで拡張することができます。

p.128 「メモリの増設」

アップグレードサービスについて

当社では、次の装置のアップグレードサービス（増設・交換）を有償で行っています。購入時のシステム構成により、増設できる装置は異なります。

- メモリ　：　増設・交換
- HDD　：　増設・交換
- CD/DVDドライブ　：　交換
- FDD　：　増設
- マルチカードリーダ　：　増設

アップグレードサービスをご希望の場合は、カスタマーサービスセンターにご相談ください。連絡先は、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

ご自身での装置の増設・交換（メモリ、拡張ボードを除く）は、故障の原因となりますので行わないでください。

作業時の注意

コンピュータ内部に装置を装着する場合は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。

- 電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。

- 拡張ボードやメモリの交換、増設は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

- 本機の電源を切っていても電源プラグがコンセントに接続されていると微少な電流が流れています。作業を始める前に必ずコンセントから電源プラグを外してください。
- 取り付けを行う際は、取り付ける装置に添付されているマニュアルを必ず参照してください。
- 本機および接続している周辺機器の電源は必ず切ってください。電源を切ったら、本機から周辺機器を取り外してください。
- コンピュータ内部のケースや基板には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリや拡張ボード、コンピュータに静電気が流れると、基板上の部品が壊れるおそれがあります。
- コンピュータ内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリや拡張ボードを持つときは、端子部や素子に触れないでください。破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装着する方向を間違えないでください。メモリや拡張ボードが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- メモリや拡張ボードは落とさないように注意してください。強い衝撃を与えると、破損の原因になります。
- メモリや拡張ボードの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

本体カバーの脱着

メモリや拡張ボードを増設・交換する場合は、本体カバーを外す必要があります。

警告

コンセントに電源プラグを接続したまま作業をしないでください。
感電・火傷の原因となります。

▶本体カバーの取り外しと取り付け

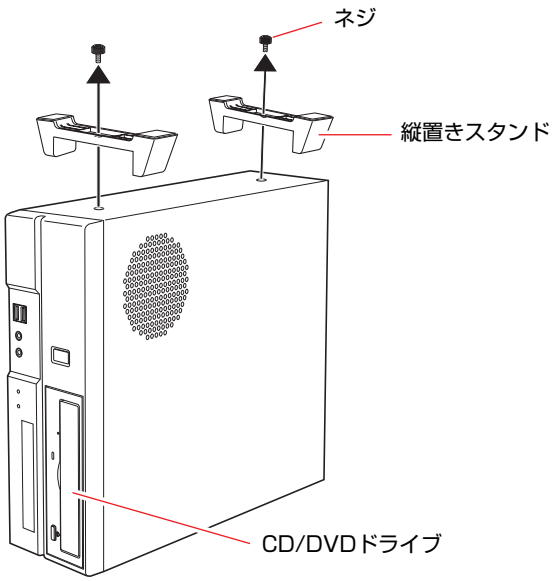
取り外し

本体カバーの取り外し方法は、次のとおりです。

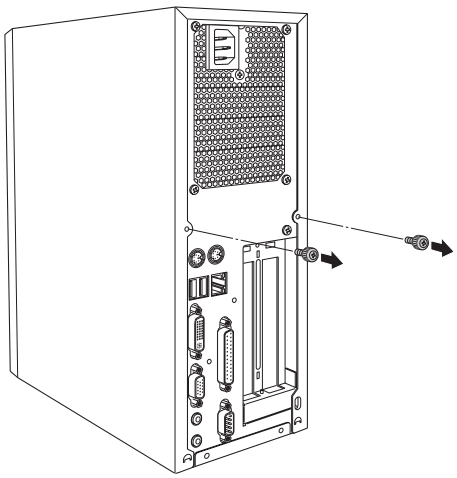
1 **コンピュータ本体、および接続している周辺機器の電源を切ります。**
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。

2 **コンピュータ本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。**

3 **本機を縦置きで使用している場合、CD/DVD ドライブ側を下にして置き、ネジを外してから縦置きスタンドを取り外します。**
取り外したら、CD/DVDドライブ側を上にして縦置きします。

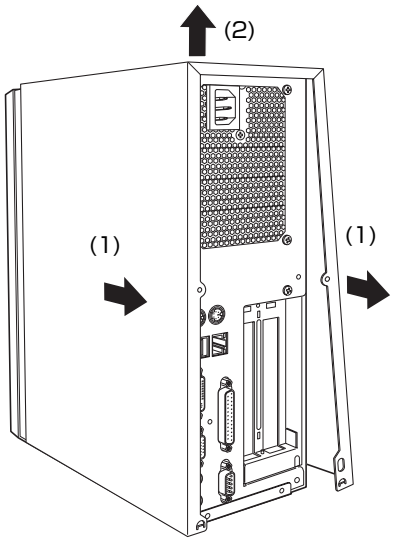


4 本機背面のネジ(2本)を外します。



5 本体カバーを取り外します。

(1) 本体カバーを背面側にずらします。
(2) 本体カバーを持ち上げます。



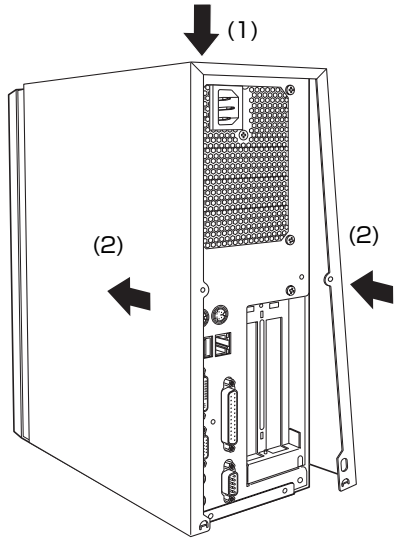
取り付け

本体カバーの取り付け方法は次のとおりです。

1 **本体カバーを取り付けます。**

(1) 本体カバーを本体側面の両側にはめ込みます。

(2) 本体背面から本体前面側に向けてスライドさせます。



2 **ネジ（2本）で本体カバーを固定します。**

3 **本機を縦置きで使用する場合は、CD/DVDドライブを下にして置き、2個の縦置きスタンドを取り付けます。**

縦置きスタンドを取り付けたら、CD/DVDドライブを上にして置きます。

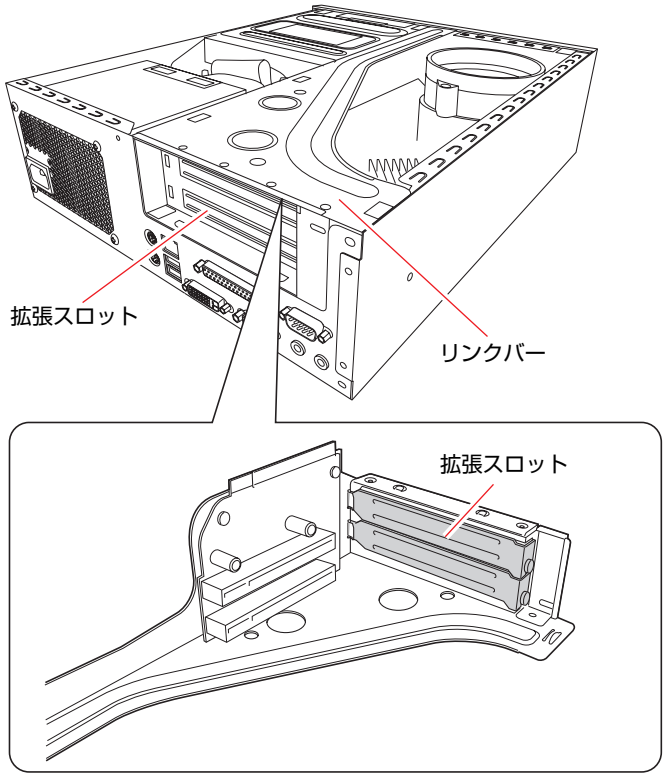
4 **本機を使用できる状態にするため、接続する周辺機器や電源コードなどのケーブル類をコンピュータ本体に取り付けます。**

拡張ボードの装着

拡張スロットの仕様と拡張ボードの取り付け方法について説明します。

▶拡張スロットの仕様

本機のリンクバーには、拡張スロットが2つあります。拡張スロットの仕様は、次のとおりです。



＜リンクバーの内側＞

コネクタ仕様	装着可能な拡張ボードサイズ
PCI	ボード長：178mm　ボード幅：108mm

▶拡張ボードの取り付け・取り外し

作業を始める前に「拡張ボードに添付のマニュアル」とp.118 「作業時の注意」を必ずお読みください。

取り付け

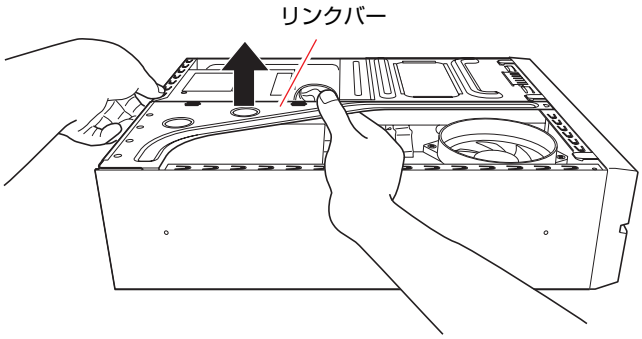
拡張ボードの取り付け方法は、次のとおりです。

1 **本体カバーを取り外します。**

p.119 「本体カバーの取り外しと取り付け」ー「取り外し」

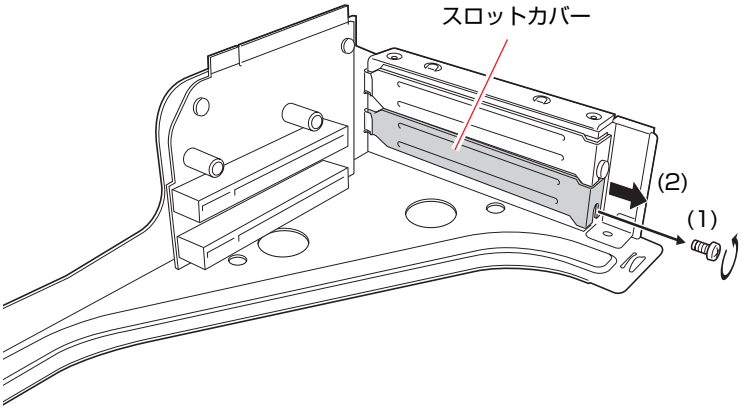
2 **本体を横置きにし、リンクバーを取り外します。**

下図のとおりに手をかけて、リンクバーを持ち上げます。このとき、周辺の部品やケースの角など、とがった部分で手などを切らないよう注意してください。



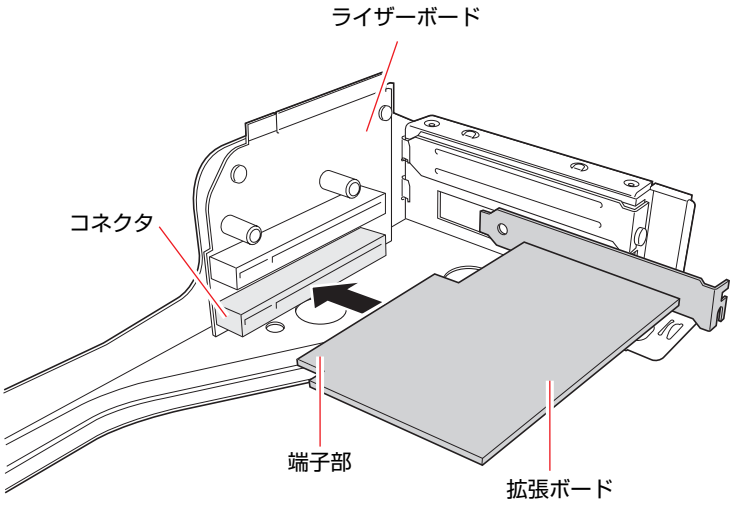
3 **リンクバーを裏返しに置き、増設するスロットのスロットカバーを取り外します。**

(1) スロットカバーを固定しているネジを外します。
(2) スロットカバーを矢印の方向に引き抜きます。
外したスロットカバーは、大切に保管しておいてください。

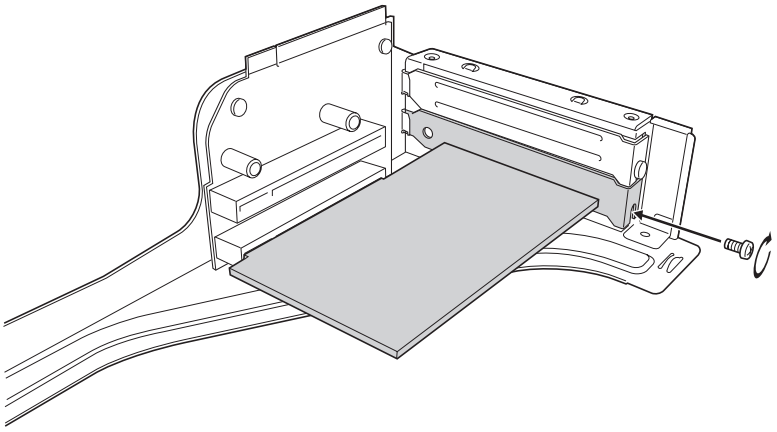


4 **拡張ボードを拡張スロットに差し込みます。**

拡張ボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認し、ライザーボードを手で軽く押さえながら拡張ボードをゆっくり押し込みます。

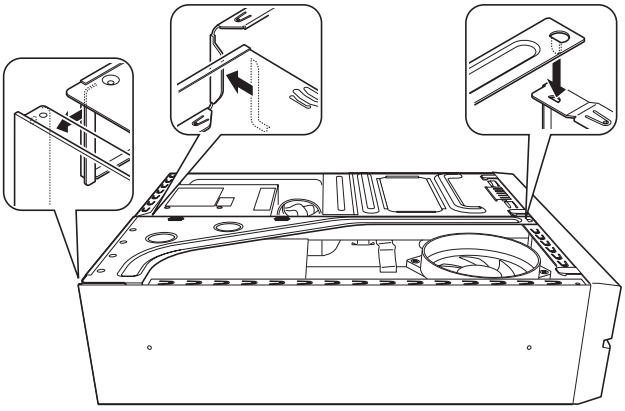


5 **拡張ボードをネジで固定します。**

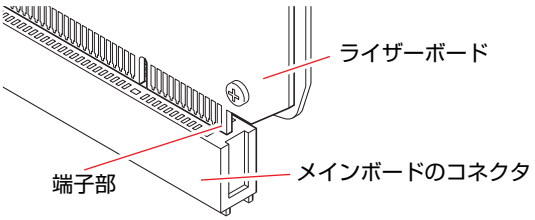


6 リンクバーを元の位置に取り付けます。

(1) 下図のとおりにリンクバーの3箇所が合っているかを確認します。



(2) ライザーボードの端子部分が、メインボードのコネクタの位置にあっているか確認します。



(3) リンクバーを押し込みます。

7 本体カバーを取り付けます。

p.119 「本体カバーの取り外しと取り付け」ー「取り付け」

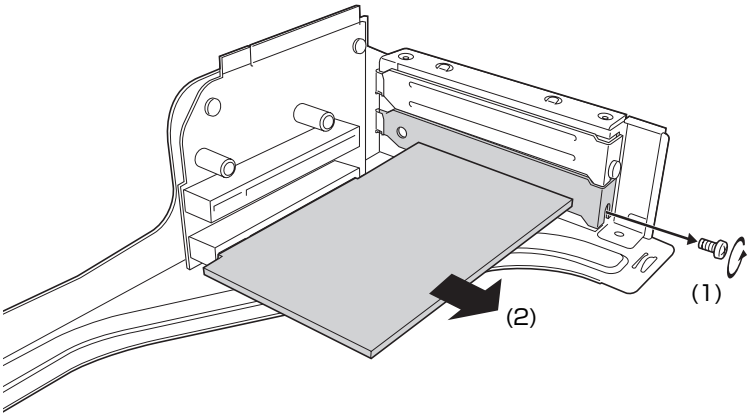
取り外し

拡張ボードの取り外し方法は、次のとおりです。

1 **p.123「取り付け」の手順1～2を参照し、本体カバーとリンクバーを取り外します。**

2 **リンクバーを裏返しに置き、拡張ボードを取り外します。**

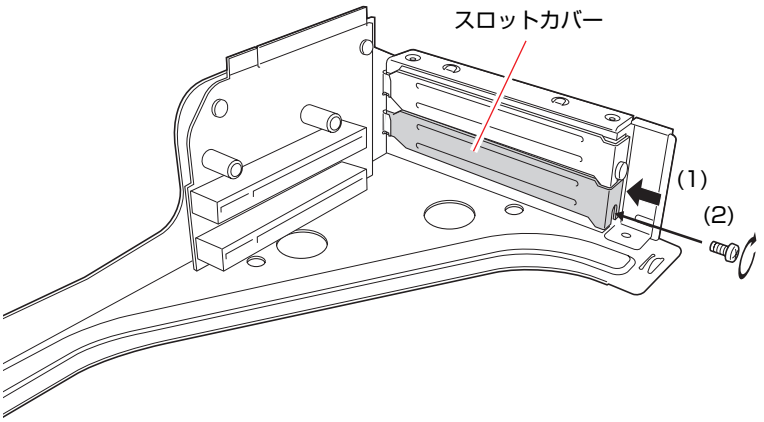
(1) 拡張ボードを固定しているネジを外します。
(2) 拡張ボードを引き抜きます。



3 **拡張ボードを取り付けない場合は、スロットカバーを取り付けておきます。**

(1) スロットカバーをスロットに差し込みます。
(2) スロットカバーをネジで固定します。

空いたスロットにほかの拡張ボードを取り付ける場合は、p.123「取り付け」の手順4～5を参照してください。



4 **p.123「取り付け」の手順6～7を参照し、リンクバーと本体カバーを取り付けます。**

これで拡張ボードの取り外しは終了です。

▶拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業

拡張ボードの取り付け・取り外しをしたら、次の作業を行ってください。

● ネットワークボードの場合

「BIOS Setupユーティリティ」でメインボード上のネットワーク機能を、次のように設定します。

ボード	メインボード上のネットワーク機能
取り付けた場合	Disabled（無効）
取り外した場合	Enabled（有効）

ネットワーク機能は、「BIOS Setupユーティリティ」の「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Configuration」－「Onboard LAN」で設定します。ボードによってはドライバのインストール、アンインストールが必要な場合もあります。詳しくはボードに添付のマニュアルをご覧ください。

● そのほかのボードの場合

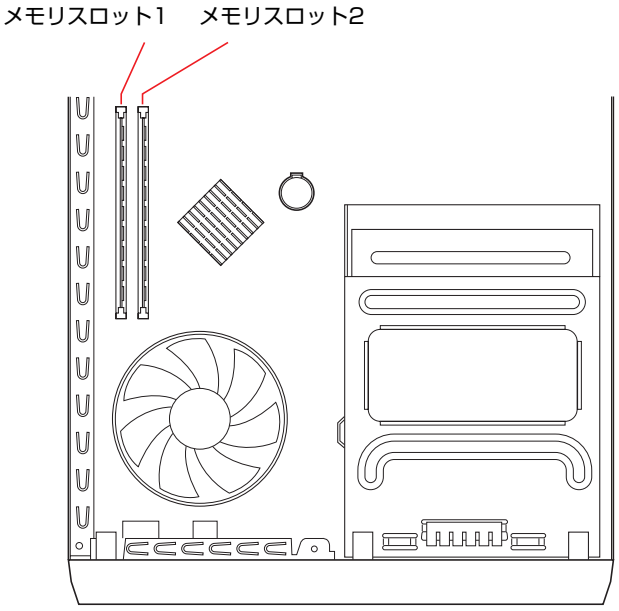
そのほか、拡張ボードによっては作業が必要な場合があります。拡張ボードに添付のマニュアルをご覧になり、必要な作業を行ってください。

メモリの増設

本機で使用可能なメモリの仕様とメモリの取り付け方法について説明します。

▶メモリの仕様

本機には、2つのメモリスロットが用意されており、メモリを交換・増設することにより最大2GBまで拡張できます。
メモリはメモリスロット1から取り付けます。購入時には、あらかじめメモリが取り付けられています（購入時のシステム構成により、メモリの数や容量は異なります）。



本体前面側

メモリを増設する場合は、下記仕様と一致するメモリを、当社のオプション一覧より選択してください。
本機で使用可能なメモリは、次のとおりです。

- PC2-4200（DDR2-533 SDRAM使用、240ピン）
- メモリ容量　256MB、512MB、1024MB
- Non ECC

最新メモリ情報

今後、新しいメモリを取り扱う場合があります。
本機で使用可能な最新のメモリは、当社ホームページの「純正オプション」でご確認ください。

http://epsondirect.jp

▶メモリの取り付け・取り外し

作業を始める前にp.118「作業時の注意」を必ずお読みください。メモリの取り付け、取り外し方法は次のとおりです。

取り付け

1 **本体カバーを取り外します。**

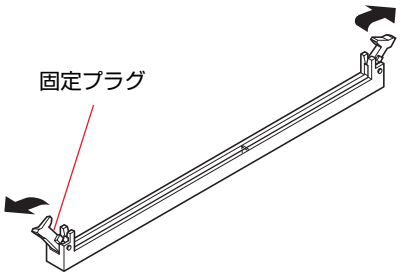
p.119「本体カバーの取り外しと取り付け」－「取り外し」

2 **本体を横置きにします。**

3 **拡張ボードを装着している場合は、リンクバーを取り外します。**

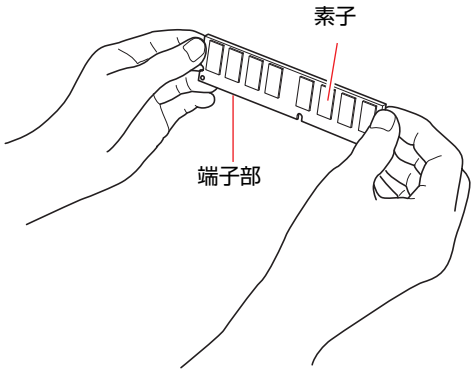
p.123「拡張ボードの取り付け・取り外し」－「取り付け」手順2

4 **メモリスロットの固定プラグを開きます。**



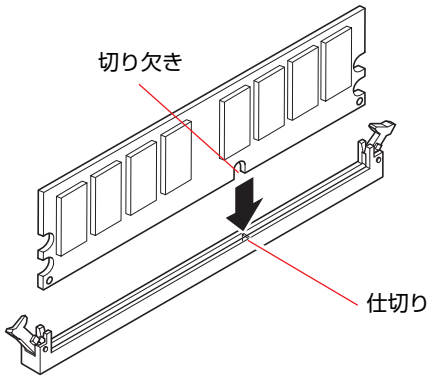
5 **メモリを静電気防止袋から取り出します。**

メモリの端子部や素子に触れないように注意してください。



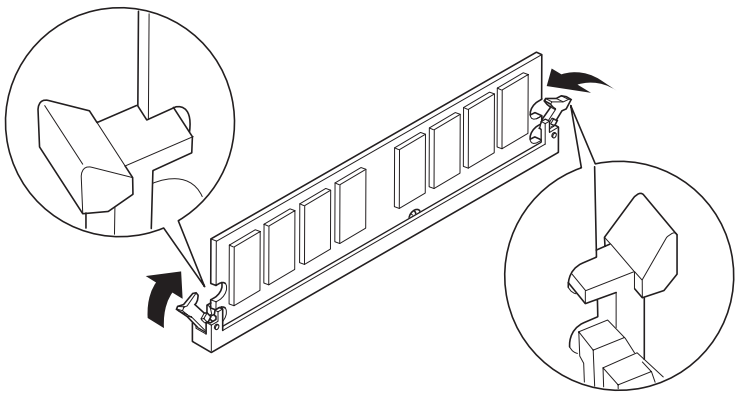
6 **メモリスロットにメモリを差し込みます。**

(1) メモリの切り欠きをメモリスロット内の仕切りに合わせます。



(2) さらに押し込むと、カチッと自動的に固定プラグが閉じて、メモリが固定されます。

メモリが固定されたことを、必ず確認してください。



7 **リンクバーを取り外していた場合は、リンクバーを取り付けます。**

p.123 「拡張ボードの取り付け・取り外し」ー「取り付け」手順6

8 **本体カバーを取り付けます。**

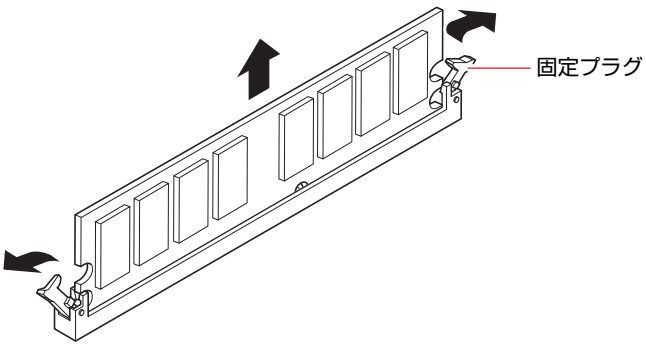
p.119 「本体カバーの取り外しと取り付け」ー「取り付け」

9 **コンピュータの電源を入れて、メモリの容量を確認します。**

p.131 「メモリの増設・交換後の作業」

取り外し

1 **メモリの両端を固定している固定プラグを開き、メモリを静かに取り外します。**



2 **取り外したメモリは、静電気防止袋に入れて大切に保管してください。**

▶メモリの増設・交換後の作業

メモリの増設・交換をしたら、メモリが正しく取り付けられているかどうか、メモリの容量を必ず確認します。
メモリ容量の確認方法は次のとおりです。

1 **コンピュータの電源を入れたら、Delete を押して「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。**

p.135 「BIOS Setupユーティリティの操作」

2 **「Main」メニュー画面－「System Information」－「Size」に表示されている総メモリ容量を確認します。**

総メモリ容量が正しく表示されない場合は、メモリが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付けなおしてください。

参考

総メモリ容量の表示

本機では、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。そのため、メモリ容量は、メインメモリからビデオメモリ（初期値は32MB）を引いた値が表示されます。

第4章
BIOSの設定

本機の基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

「BIOSの設定を始める前に」..... 134
「BIOS Setupユーティリティの操作」..... 135
「BIOS Setupユーティリティの設定項目」..... 144

BIOSの設定を始める前に

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。
BIOSの設定は「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合
- メインボード上の機能を有効/無効にする場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。
BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。

参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況によって異なりますが、本機のリチウム電池の寿命は約3年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

p.227 「リチウム電池の交換」

制限

- 設定値を変更して、動作が不安定になったり、リチウム電池の寿命で内容を保持できなくなった場合に備えて、必ず購入時の設定と変更後の設定値を記録しておいてください。
  p.152 「BIOSの設定値」
- 設定を変更後に、万一動作が不安定になった場合は、「Load Setup Defaults」（初期値に戻す）で、元の値に戻すことができます。
  p.139 「設定値を元に戻すには」
- 当社製以外のBIOSを使用すると、Windowsが正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外のBIOSへのアップグレードは絶対に行わないでください。

BIOS Setupユーティリティの操作

▶BIOS Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの Delete の位置を確認してください。手順2ではすばやく Delete を押す必要があります。

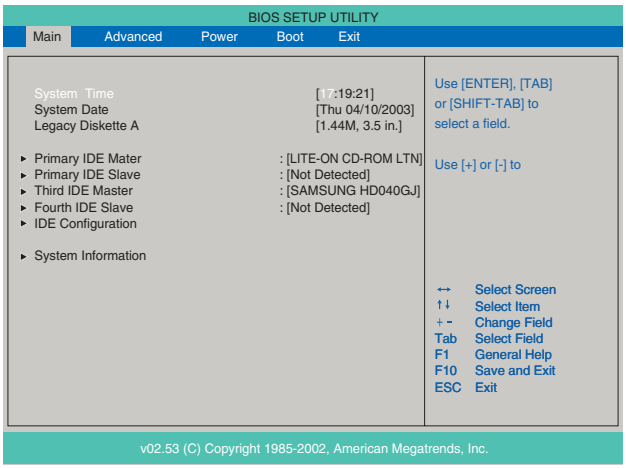
1 **本機の電源を入れます。**

すでに起動している場合は再起動します。

2 **起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの Delete を押します。**

Windowsが起動してしまった場合は、Windowsを再起動し、再度 Delete を押してください。

3 **「BIOS Setupユーティリティ」が起動してMainメニュー画面が表示されます。**



BIOS Setupユーティリティ画面（イメージ）

仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合は、本機の電源を入れると、次のメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to Run SETUP

このメッセージが表示されたら F1 を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常は、そのまま「Exit & Save Changes」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

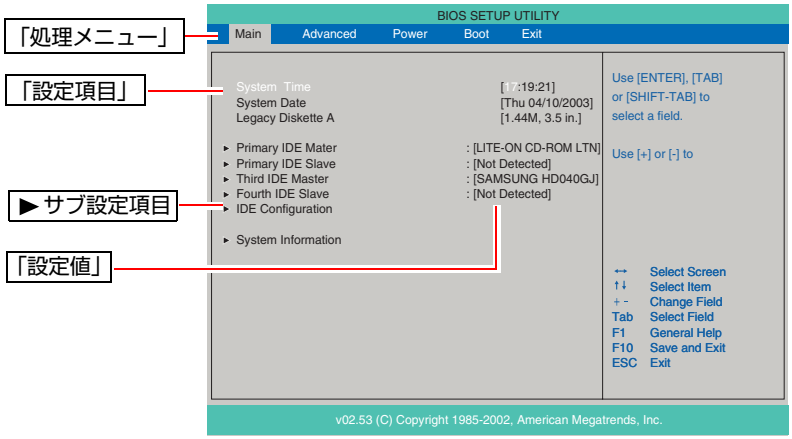
p.143 「BIOS Setupユーティリティの終了」

▶BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

画面の構成

BIOSセットアップユーティリティを起動すると次の画面が表示されます。この画面で設定値を変更することができます。



＜メニュー画面＞

各メニュー画面と設定項目の説明は、p.144「BIOS Setupユーティリティの設定項目」をご覧ください。

設定値の変更方法

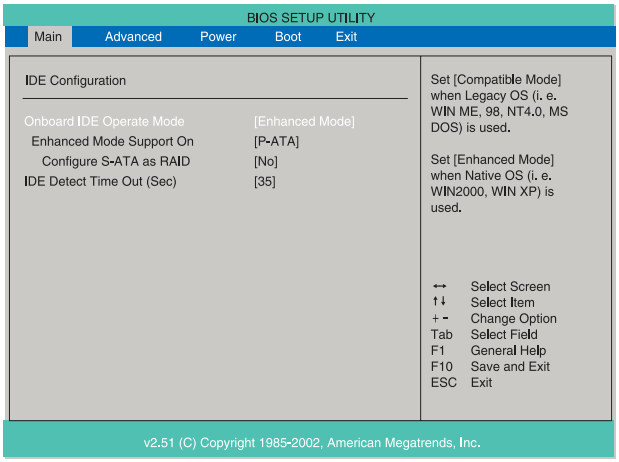
「BIOS Setupユーティリティ」の設定値を変更する方法は次のとおりです。

1 処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

[→] [←]でメニュー間を移動します。
[↑] [↓]で設定値を変更したい項目まで移動します。

＜▶のある項目の場合＞

▶のある項目の場合、[↵]を押すとサブメニュー画面が表示されます。[↑][↓]で設定値を変更したい項目まで移動します。

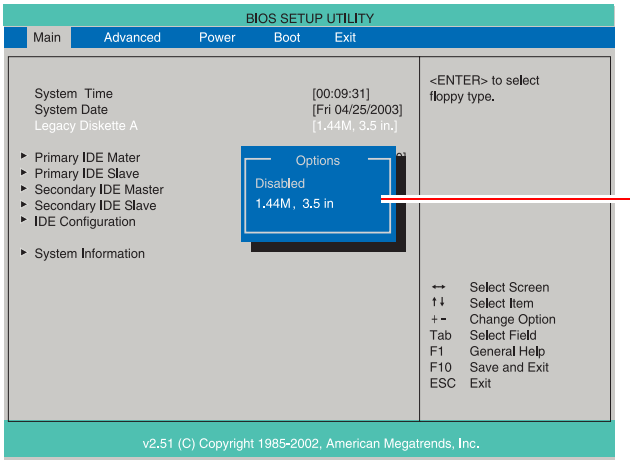


＜サブメニュー画面＞

サブメニュー画面から戻るには[Esc]を押します。

2 設定値を変更します。

[↵]を押して選択ウィンドウを表示し、[↑][↓]で値を選択し[↵]で決定します。



キー操作

キー	操作できる内容
F1	ヘルプを表示します。
Esc	● 変更した内容を破棄し、終了するかどうかを確認するメッセージを表示します。 ●「サブメニュー画面」から「メニュー画面」に戻ります。
↑, ↓	設定を変更する項目を選択します。
←, →	処理メニューを選択します。
-, +	項目の値を変更します。
↵	● メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ● 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ● 設定値を選択します。
F5	全設定項目の値を、初期値に変更できます。
F7	変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。
PgUp + Home	メニュー画面中の最初の項目に移動します。
PgDn + End	メニュー画面中の最後の項目に移動します。

▶設定値を元に戻すには

「BIOS Setupユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一コンピュータの動作が不安定になってしまった場合などには、「BIOS Setupユーティリティ」の設定を前回保存した値や初期値に戻すことができます。

Load Setup Defaults（初期値に戻す）

「BIOS Setupユーティリティ」の設定を、BIOSの初期値に変更します。

1　F5を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

2　［Ok］を選択して↵を押します。

Load Setup Defaults 実行後の作業

次のような場合は、Load Setup Defaultsを実行した後に、BIOSの設定値を設定しなおしてください。

- **セキュリティチップのセキュリティ機能をお使いの場合**
  メインボード上のセキュリティチップの機能を有効にするため、「Boot」メニュー画面－「TPM Function」－「TPM Device」を「Enabled」に設定します。
- **ネットワークボードをお使いの場合**
  メインボード上のネットワーク機能を無効にするため、「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Confugiration」－「Onboard LAN」を「Disabled」に設定します。
- **FDDを搭載しているモデルをお使いの場合**
  コンピュータを正常に起動させるため、次の設定を行います。
  「Main」メニュー画面－「Legacy Diskette A」を「1.44M, 3.5 in.」に設定する。
  「1.44M, 3.5 in.」に設定しないと、コンピュータが正常に起動しません。

設定を行ったら、変更した内容を保存して終了します。

p.143 「Exit & Save Chages（変更した内容を保存し終了する）」

Discard Changes（前回保存した設定値に戻す）

「BIOS Setupユーティリティ」を終了することなく、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。

1 **F7を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。**

Discard Changes ?
［Ok］　　［Cancel］

2 **［Ok］を選択して↵を押します。**

▶Passwordの設定

本機のBIOSでパスワードを設定すると、BIOSやシステム、HDDへのアクセス時にパスワードが要求され、アクセスするユーザーを制限することができます。パスワードの設定は、「Bootメニュー画面」－「Security」で行います。

パスワードの種類

パスワードには次の2種類があります。

- Supervisor Password
  コンピュータの管理者用のパスワードです。このパスワードでBIOSにログインした場合、BIOSのすべての項目を変更することができます。
- User Password
  そのほかのユーザー用のパスワードです。このパスワードでBIOSにログインした場合、BIOSで変更できる項目が制限されます。

アクセス制限の設定

パスワードを設定すると、BIOSやシステムHDDなどへのアクセスを制限することができます。

BIOSやシステムへのアクセス制限

BIOSやシステムへアクセスする際に、設定した管理者パスワードやユーザーパスワードの入力を要求して、アクセスを制限することができます。
BIOSやシステムへのアクセス制限は、次の2つから選択できます。

- Setup
  BIOS起動時にパスワードの入力が必要になります。
- Always
  BIOS起動時とシステム起動時、休止状態からの復帰時にパスワードの入力が必要になります。

アクセス制限の選択は、次の項目で行います。

p.149 「Bootメニュー画面」－「Security」－「Password Check」

HDDへのアクセス制限

管理者パスワードを設定すると、HDDへアクセスする際にパスワードの入力を要求して、HDDへのアクセスを制限することができます。アクセス制限を設定したHDDは、ほかのコンピュータに接続しても認識されなくなります。
HDDへのアクセス制限は、次の項目で設定します。
p.149 「Bootメニュー画面」－「Security」－「Hard Disk Protection」

制限

パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定したHDDは使用できなくなります。
登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。

パスワードの設定・変更

Supervisor Password（管理者パスワード）および、User Password（ユーザーパスワード）の設定・変更方法は次のとおりです。

1 「Change Supervisor Password」または、「Change User Password」を選択して［↵］を押すと、次のメッセージが表示されます。

```
Enter Password:
```

2 パスワードを入力し、［↵］を押します。
「＊」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。

3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、［↵］を押します。

```
Confirm Password:
```

4 「Password installed.」というメッセージが表示されたら、［Ok］が選択された状態で［↵］を押します。

5 パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。

管理者パスワードの削除

1 「Change Supervisor Password」を選択して［↵］を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:

2 何も入力せずに［↵］を押すと、次のメッセージが表示されます。

Password uninstalled. [Ok]

3 [Ok] が選択された状態で［↵］を押します。「Supervisor Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。これでパスワードが削除されます。

管理者パスワードを削除すると、ユーザーパスワードも同時に削除されます。

ユーザーパスワードの削除

1 「Clear User Password」を選択して、［↵］を押すと、次の画面が表示されます。

Clear User Password ? ［Ok］　　［Cancel］

2 [Ok] を選択して、［↵］を押します。「User Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。これでユーザーパスワードが削除されます。

▶BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setupユーティリティ」を終了するには、次の2とおりの方法があります。

Exit & Save Chages（変更した内容を保存し終了する）

変更した設定値を保存して、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

1 **F10を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択すると次のメッセージが表示されます。**

Save configuration changes and exit now?
［Ok］　　［Cancel］

2 **変更した設定値を保存して終了する場合は［Ok］を選択し、↵を押します。**

Exit & Discard Changes（変更した内容を破棄し終了する）

変更した設定値を保存せずに、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

1 **Escを押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。**

Discard configuration changes and exit now?
［Ok］　　［Cancel］

2 **変更した設定値を保存せずに終了する場合は［Ok］を選択し、↵を押します。**

BIOS Setupユーティリティの設定項目

ここでは、「BIOS Setupユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法などについて説明します。「BIOS Setupユーティリティ」のメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- Main メニュー画面　：日付、時間、HDDなどの設定を行います。
- Advancedメニュー画面　：CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。
- Powerメニュー画面　：省電力機能に関する設定を行います。
- Bootメニュー画面　：システムを起動するドライブの順番の設定やコンピュータの動作状態、パスワードの設定などを行います。
- Exitメニュー画面　：BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。

▶Mainメニュー画面

Mainメニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

System Time（hh:mm:ss）時間の設定	時刻を設定します。（時間：分：秒）の順で表示されます。
System Date（mm:dd:yy）日付の設定	日付を設定します。（曜日　月/日/年）の順で表示されます。
Legacy Diskette A（FDDの設定）	接続しているFDDのタイプを選択します。 Disabled　：3.5型FDD未接続の場合（またはUSB FDDをお使いの場合） 1.44M, 3.5 in.　：3.5型FDD接続の場合

Primary IDE Master Primary IDE Slave Serial ATA Port1 Serial ATA Port2 各ドライブの仕様を設定します。 ※表示される詳細項目は、選択するHDDやCD/DVDドライブにより異なります。	*Device	ドライブの名称を表示します。
	*Vendor	ドライブの型番を表示します。
	*Size	HDDの容量を表示します。
	*LBA Mode	LBA（Logical Block Addressing）をサポートしているかどうかを表示します。
	*Block Mode	一度に何セクタ転送できるかを表示します。
	*PIO Mode	ドライブの転送モードを表示します。
	*Async DMA	ドライブのDMA 転送モードとチャンネルを表示します。
	*Ultra DMA	ドライブの転送モードとチャンネルを表示します。
	*SMART Monitoring	S.M.A.R.T（Self Monitoring Analysis and Reporting Technology）をサポートしているかどうかを表示します。
	Type	ドライブの仕様を設定します。 Auto　　: BIOSが自動的にドライブの仕様を設定します。 Not Installed : IDE装置を使用しない場合に選択します。
	LBA / Large Mode	LBA（Logical Block Addressing）を使用するかどうかを表示します。 Auto　: LBAを使用します。 Disabled : 使用しません。
	Block（Multi-Sector Transfer）M	一度に何セクタ転送できるかを表示します。 Auto　: BIOSが自動的に最適な速度に設定します。 Disabled : 使用しません。
	PIO Mode	ドライブの転送モード（PIO）を設定します。 Auto　: BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 0/1/2/3/4 : 転送モードを設定します。
	DMA Mode	ドライブのDMA転送モードを設定します。 Auto：BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 SWDMA0 / SWDMA1 / SWDMA2 / MWDMA0 / MWDMA1 / MWDMA2 / UDMA0 / UDMA1 / UDMA2 / UDMA3 / UDMA4 / UDMA5/ UDMA6
	SMART Monitoring	初期値［Disabled］のまま使用します。
	32Bit Data Transfer	初期値［Disabled］のまま使用します。
System Information 本機の仕様を表示します。	*Version	BIOS のバージョンを表示します。
	*Build Date	BIOS のバージョンの制定日を表示します。
	*Type	本機に搭載されているCPU のタイプを表示します。
	*Speed	本機に搭載されているCPU の周波数を表示します。
	*Count	本機に搭載されているCPU の数です。
	*Size	本機に搭載されているメモリ容量を起動時に自動的に計算して表示します。表示された値は、装着されたメモリ容量からあらかじめ割り当てられているビデオメモリ容量（初期値は32MB）を引いた値です。

▶Advancedメニュー画面

Advancedメニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

CPU Configuration 本機に搭載されているCPUに関する情報を表示します。	*Manufacturer		メーカーを表示します。
	*Brand String		型番を表示します。
	*Frequency		周波数を表示します。
	*FSB Speed		バス・スピードを表示します。
	*Cache L1		CPUのL1キャッシュ容量を表示します。
	*Cache L2		CPUのL2キャッシュ容量を表示します。
	*Cache L3		CPUのL3キャッシュ容量を表示します。
	Enhanced C1 Control		スピードステップ機能（EIST）の設定をします。EIST機能を持つプロセッサを搭載しているモデルで表示されます。 Auto　　: EISTを有効にします。 Disabled : EISTを無効にします。
	Hyper Threading Function		ハイパー・スレッディング機能の有効/無効を設定します。ハイパー・スレッディング機能を持つPentium4プロセッサを搭載しているモデルで表示されます。 Enabled　: 有効にします。 Disabled : 無効にします。
Chipset メインボード上の機能に関する設定をします。	North-Bridge Configu-ration	UMA Frame Buffer Size	メインメモリから使用するビデオメモリの容量を設定します。 32MB, 64MB, 128MB, 256MB
	South-Bridge Configu-ration	HD Au-dio Azalia Device	メインボード上のサウンド機能を使用するかどうかを設定します。 Auto　　: 使用します。 Disabled : 使用しません。

Onboard Devices Configuration メインボード上のデバイスに関する設定をします。	Serial Port1 Address	シリアルポートのアドレスとIRQ 信号を設定します。 Disabled : シリアルポートを使用しません。 3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3
	Parallel Port Address	パラレルポートが使用するアドレスを設定します。 Disabled : パラレルポートを使用しません。 378, 278, 3BC
	Parallel Port Mode	パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺装置で指示がある場合のみ変更します。 Bi-Directional : EPP+ECPモードまたは双方向モードに設定します。 EPP : EPP モードに設定します。 ECP : ECP モードに設定します。 Normal : 標準の設定です。
	EPP Version	「Parallel Port Mode」で［EPP］を選択すると表示されます。 初期値［1.9］のまま使用します。
	ECP Mode DMA Channel	「Parallel Port Mode」で［ECP］を選択すると表示されます。 初期値［DMA3］のまま使用します。
	Parallel Port IRQ	パラレルポートが使用するIRQを設定します。 IRQ7, IRQ5
	Onboard LAN	メインボード上のネットワーク機能を使用するかどうかを設定します。ネットワークボードを使用する場合は、必要に応じて［Disabled］に設定します。 Enabled ：使用します。 Disabled : 使用しません。
	Onboard LAN Boot ROM	リモートブート機能の有効/無効を設定します。 Disabled : リモートブート機能を無効にします。 Enabled ：リモートブート機能を有効にします。
USB Configuration USBコントローラの設定をします。	*Module Version	BIOSに実装しているモジュールのバージョンを表示します。
	*USB Devices Enabled	接続されているUSB機器を表示します。
	USB 1.1 OHCI Controllers	初期値［Enabled］のまま使用します。

▶Power メニュー画面

Powerメニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

Suspend Mode		スタンバイモードを設定します。 S1(POS) only ：モニタなど最低限の不必要な電源が切れます。 S3 only ：メモリ以外の電源を切ります。
ACPI 2.0 Support		初期値［No］のまま使用します。
ACPI APIC support		初期値［Enabled］のまま使用します。
APM Configuration （起動方法の設定） 起動する方法や条件を設定します。	Restore on AC Power Loss	電源スイッチを押さずに、電源供給時に起動するかどうかを設定します。分電盤などによる複数のコンピュータの同時起動を行うと、コンピュータの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。 Power Off：電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 Power On：電源オフ時に、電源が供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。 Last State：コンピュータの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断された後に電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。コンピュータを正常終了させた状態では、電源が供給されてもコンピュータは起動しません。
	RTC Resume	セットした日時に、自動的に起動するかどうかを設定します。ただし、分電盤やOAタップなどにより、本機の電源供給をいったん切断して再度供給した場合は、正常に動作しない場合があります。 Disabled：設定しません。 Enabled ：設定します。
		RTC Alarm Date (Days)： 「RTC Resume」を「Enabled」にすると表示されます。 自動的に起動する日にちを設定します。
		RTC Alarm Time (HH:MM:SS) ： 「RTC Resume」を「Enabled」にすると表示されます。 自動的に起動する時間（時：分：秒）を設定します。
	Power On By PCI Devices	電源切断時、ネットワークからの信号により、起動するかどうかを設定します。この機能は、Windows を正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Disabled：設定しません。 Enabled ：設定します。

▶Bootメニュー画面

Bootメニュー画面には、大別すると、システムの起動（Boot）に関する項目とSecurityの項目があります。Security項目のパスワードについては、「Passwordの設定」を参照してください。

p.140 「Passwordの設定」

Bootメニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

Boot Device Priority システムを起動するドライブの順番を設定します。 p.151 「起動するドライブの順番を変更する」	1st Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。搭載、あるいは接続している機器によって、初期値は次のように表示されます。 1st FLOPPY DRIVE ： FDD搭載時 Removable Dev. ： マルチカードリーダ搭載時、および何も接続していない場合 USB FDD ： USB FDD搭載時
	2nd Boot Device	2番目に起動するドライブを設定します。初期値はCD/DVDドライブで、搭載しているCD/DVDドライブの型番が表示されます。
	3rd Boot Device	3番目に起動するドライブを設定します。初期値はHDDで、搭載しているHDDの型番が表示されます。
	4th Boot Device ※リモートブート機能を有効にすると表示されます。	ネットワークから起動する場合に使用します。 （リモートブート機能を有効にするには、「Advanced」メニュー画面ー「Onboard Devices Configuration」の「Onboard LAN Boot ROM」を［Enabled］に設定し、再起動します。）
Hard Disk Drives	Hard Disk Drives 1st Drive 2nd Drive	HDDを2台装着した場合、型番を自動的に検出して表示します。初期値のまま使用します。
Removable Drives	1st Drive 2nd Drive	外付けの記憶装置（USB FDD など）を接続すると型番を自動的に検出して表示します。接続した記憶装置を使用するかどうかを設定します。 外付けの記憶装置名：外付け記憶装置を使用します。 Disabled ：外付け記憶装置を使用しません。
Boot Settings Configuration システム起動時の設定をします。	Full Screen Logo	コンピュータの起動時に、ロゴを表示するかどうかを設定します。 Disabled：ロゴを表示しません。 Enabled ：ロゴを表示します。
	Bootup Num-Lock	起動時のNumLock の状態を設定します。 Off ：NumLock が押されていない状態にします。 On ：NumLock が押された状態にします。

Security システム起動時や「BIOS Setup ユーティリティ」起動時などのパスワードを設定します。	*Supervisor Password/User Password	Supervisor Password （管理者パスワード）とUser Password（ユーザーパスワード）が設定されているかどうかを表示します。 Installed : パスワードが設定されています。 Not Installed : パスワードが設定されていません。
	Change Supervisor Password	管理者パスワードの設定や変更を行います。設定を行うと、「BIOS Setupユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求されます。[↵]を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
	User Access Level ※管理者パスワードを設定すると表示されます。	「User Password」（ユーザーパスワード）で「BIOS Setup ユーティリティ」にアクセスするときのアクセス制限レベルを4段階で設定します。 No Access : ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setupユーティリティ」を起動することができません。 View Only : ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setupユーティリティ」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。 Limited : 「BIOS Setupユーティリティ」を閲覧できるほかに、一部の設定項目を変更できます。 Full Access : ユーザーパスワード使用者に管理者と同一の権利を許可します。「BIOSセットアップユーティリティ」のすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。ただし、管理者パスワードの変更はできません。
	Change User Password	ユーザーパスワードの設定や変更を行います。「BIOS Setup ユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求します。 [↵]を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
	Clear User Password ※ユーザーパスワードを設定すると表示されます。	ユーザーパスワードを削除します。[↵]を押すと、ユーザーパスワードの削除ウィンドウが表示されます。
	Password Check ※管理者パスワードやユーザーパスワードを設定すると表示されます。	管理者パスワード、ユーザーパスワードを設定している場合に、パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup : 「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。 Always : 「BIOS Setupユーティリティ」起動時、システム起動時、省電力モードから復帰時にパスワード入力を要求します。

	TPM Function	TPM Devices	セキュリティチップ（TPM）を使用するかどうかを設定します。 Disabled：使用しません。 Enabled ：使用します。
		TPM Owner	TPM DeviceをEnabledにすると設定可能になります。 セキュリティチップ（TPM）の設定を初期化します。 初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用することができなくなります。セキュリティチップ（TPM）の初期化を行う際は、十分に注意し、お客様の責任において行ってください。 Don't change ：初期化しません。 Clear ：初期化します。
	Hard Disk Protection ※管理者パスワードを設定すると設定可能になります。		内蔵HDD保護のパスワードの有効・無効を設定します。有効に設定すると、「BIOS Setupユーティリティ」やシステム起動時、省電力モードからの復帰時に管理者パスワードの入力を要求します。 Disabled：パスワード入力を要求しません。 Enabled ：パスワード入力を要求します。

起動するドライブの順番を変更する

「Boot」メニュー画面の「Boot Device Priority」では、システムを起動（boot）するドライブの順番を設定しています。コンピュータは、［1st Boot Device］、［2nd・・・］という順番で、システムを起動するドライブを検出します。
起動するドライブの順番を変更するには、サブメニューに表示される項目を設定しなおします。

▶Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面は、BIOS Setupユーティリティの終了方法などを設定する場合に使用します。Exitメニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

Exit & Save Changes	変更した内容（設定値）を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit & Discard Changes	変更した内容（設定値）を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。

▶BIOSの設定値

BIOS Setupユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Advanced メニュー画面

項　目			購入時の設定	変更内容
CPU Configuration	Enhanced C1 Control		Auto　Disabled	Auto　Disabled
	Hyper Threading Technology		Enabled　Disabled	Enabled　Disabled
Chipset	North-Bridge Configu-ration	UMA Frame Buffer Size	32MB　64MB　128MB　256MB	32MB　64MB　128MB　256MB
	South-Bridge Configu-ration	HD Audio Azalia De-vices	Auto　Disabled	Auto　Disabled
Onboard Devices Configuration	Serial Port Address		Disabled　3F8/IRQ4　2F8/IRQ3 3E8/IRQ4　2E8/IRQ3	Disabled　3F8/IRQ4　2F8/IRQ3 3E8/IRQ4　2E8/IRQ3
	Parallel Port Address		Disabled 378　278　3BC	Disabled 378　278　3BC
	Parallel Port Mode		EPP　Bi-Directional ECP	EPP　Bi-Directional ECP
	Parallel Port IRQ		IRQ5　IRQ7	IRQ5　IRQ7
	Onboard LAN		Enabled　Disabled	Enabled　Disabled
	Onboard LAN Boot ROM		Disabled　Enabled	Disabled　Enabled

Power メニュー画面

項　目		購入時の設定			変更内容		
Suspend Mode		S1 (POS) only	S3 only		S1 (POS) only	S3 only	
ACPI 2.0 Support		No	Yes		No	Yes	
ACPI APIC support		Enabled	Disabled		Enabled	Disabled	
APM Configuration	Restore on AC Power Loss	Power Off	Power On	Last State	Power Off	Power On	Last State
	RTC Resume	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
	Power On By PCI Devices	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	

Boot メニュー画面

項　目			購入時の設定		変更内容	
Boot Device Priority	1st Boot Device		Disabled	( )	Disabled	( )
	2nd Boot Device		Disabled	( )	Disabled	( )
	3rd Boot Device		Disabled	( )	Disabled	( )
	4th Boot Device		Disabled	( )	Disabled	( )
Boot Settings Configuration	Full Screen Logo		Enabled	Disabled	Enabled	Disabled
	Bootup Num-Lock		Off	On	Off	On
Security	Supervisor password		Clear	Set	Clear	Set
	User password		Clear	Set	Clear	Set
	Password Check		Setup	Always	Setup	Always
	TPM Function	TPM Device	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Hard Disk Protection		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

第5章 ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

「再インストールする前に必ずお読みください」..... 156
「ソフトウェアの再インストールを行う」..... 157

再インストールする前に必ずお読みください

ここでは、ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。
HDDをフォーマットして、Windowsや本体ドライバなどをインストールしなおす作業のことを、本書では「再インストール」と記載します。再インストールは「リカバリ」とも言います。

▶再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因でWindowsが起動しなくなり、修復できない場合
- HDD領域の構成を変更したい場合

▶重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外のBIOSへのアップデート禁止

当社製以外のBIOSに、絶対にアップデートしないでください。当社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

セキュリティフトウェアの更新サービス

本機に添付のウイルス対策ソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」で、90日経過後に更新サービスの延長キーを購入して更新サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新サービスの延長が無効になります。更新サービスの延長が無効になってしまった場合は、シマンテックストアまでお問い合わせください。

『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）

消去禁止領域

Windowsのインストール中に、「消去禁止領域」は絶対に削除しないでください。「消去禁止領域」には、本体ドライバやソフトウェアなどが登録されているため、削除すると再インストールができなくなります。

最新の情報

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業を進めてください。

ソフトウェアの再インストールを行う

ここでは、ソフトウェアの再インストール方法について記載しています。

▶必要なメディア

本機では、次のメディアに登録されているデータを使用して再インストールを行います。

- Windows XPリカバリCD
  本機のオペレーティングシステム「Windows XP」が登録されているCD-ROMです。
- リカバリツールCD
  本体ドライバやソフトウェアをインストールするための「リカバリツール」が登録されているCD-ROMです。
- そのほか必要なメディア
  お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

本体ドライバやソフトウェアはHDDの消去禁止領域に登録されています。専用のメディアは添付されていません。

p.25 「添付されているソフトウェア」

HDDの消去禁止領域に登録されているドライバやソフトウェアのインストールは、リカバリツールを使用して行います。

CD/DVDドライブなしでお使いの場合

本機購入時にCD/DVDドライブなしを選択された場合、ソフトウェアの再インストールを行うには、外付けのCD/DVDドライブが必要です。

▶インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。

Windows
p.160 「Windowsのインストール」

↓

リカバリツール
p.165 「リカバリツールのインストール」

↓

本体ドライバ
p.165 「本体ドライバのインストール」

ここでインストールされるドライバ類は、インストール画面で確認できます。

↓

各種ドライバ
p.167 「各種ドライバのインストール」

↓

Adobe Reader
p.167 「Adobe Readerのインストール」

↓

セキュリティソフトウェア
『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）

↓

マニュアルびゅーわ
p.168 「マニュアルびゅーわのインストール」

↓

Nero 7 Essentials（書き込み機能のあるCD/DVDドライブ搭載時のみ）
p.169 「Nero 7 Essentialsのインストール」

↓

WinDVD（DVD再生機能のあるCD/DVDドライブ搭載時のみ）
p.169 「WinDVDのインストール」

↓

JWord Plugin
p.169 「JWord Pluginのインストール」

↓

gooスティック
p.170 「gooスティックのインストール」

↓

そのほかの作業
p.170 「そのほかの作業」

▶インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点をご確認ください。

コンピュータの管理者（Administrator）権限でログオン

インストール作業は、「コンピュータの管理者」（Administrator）権限（または同等の権限を持つユーザーアカウント）でログオンして行ってください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

HDDのファイルシステム

購入時のHDDは、NTFSファイルシステムを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしています。Windowsのインストールでパーティションをフォーマットする際は、必ずNTFSファイルシステムを使用してください。

ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。
CD/DVDドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ　　：FDD（オプション）、またはUSB FDD（オプション）
Cドライブ　　：HDD
Dドライブ　　：CD/DVDドライブ

Windows CD-ROMを要求されたら

ドライバ類のインストール時に「Windows CD-ROM」を要求されることがあります。本書で何も記載がない場合は、「Windows XPリカバリCD」をセットしてください。

メーカー情報

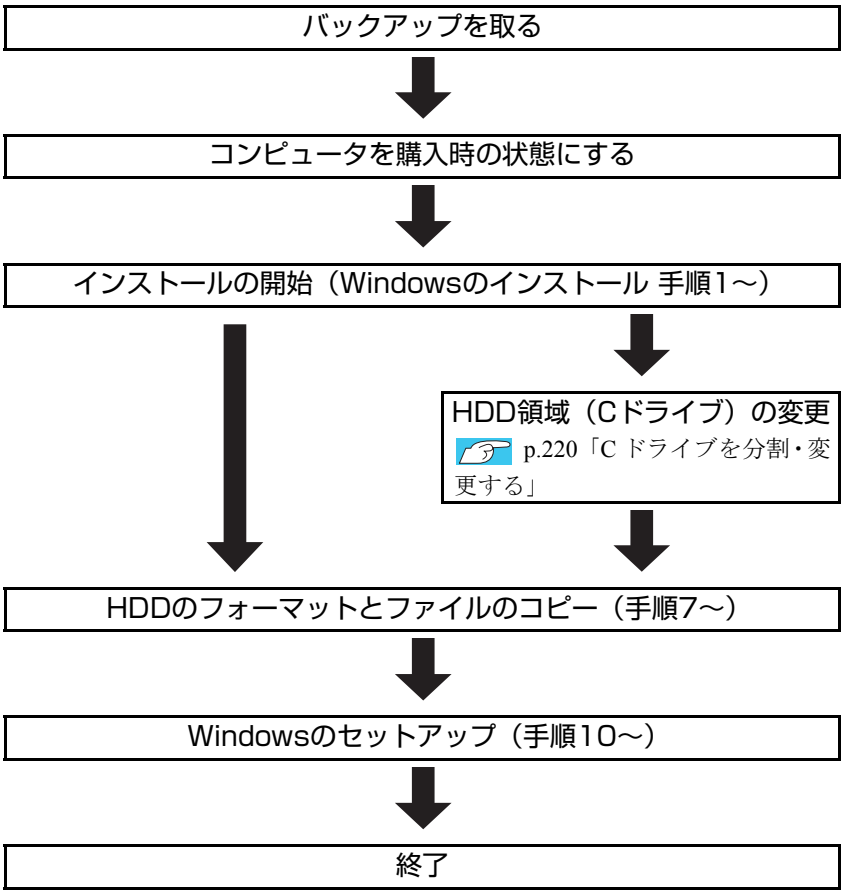
Windowsのインストールを行うと、次の場所に表示されているメーカーロゴとサポート情報は消去されます。あらかじめご了承ください。

［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「システム」

▶Windowsのインストール

インストールの流れ

Windows XPのインストールの流れは次のとおりです。
インストール作業は、p.161 「Windows XPをインストールする」以降の手順に従って行ってください。



HDD領域（Cドライブ）を変更するには

Windowsのインストール中にCドライブ（Windowsがインストールされている領域）のサイズを変更したり、分割したりすることができます。
HDD領域の変更や、分割についての詳しい説明は、p.217 「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」をご覧ください。

▶Windows XPをインストールする

バックアップを取る

次の設定やデータは、Windowsの再インストールを行うと消えてしまいます。必要に応じてバックアップを行ってください。

- **ネットワークやモデムの設定**
  接続に関する設定を書き写しておいてください。
- **Internet Explorerの「お気に入り」・Outlook Expressの「アドレス帳」「メールデータ」**
  p.208 「データのバックアップ方法」
  このほかのWeb閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、それぞれのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
- **セキュリティチップユーティリティの設定**
  セキュリティチップユーティリティを使用している場合は、設定のバックアップを行ってください。
  『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』－「Windowsを再インストールする前に」
- **重要なデータ**
  ほかのメディアなどにコピーしておいてください。
  HDD領域の変更を行わない場合でも、Cドライブ以外のドライブ（HDD領域）のデータのバックアップを念のため行うことをおすすめします。
  バックアップの方法は、下記で詳しく紹介しています。

「インフォメーションメニュー」－「ユーザーサポートページ」－「よくある質問」－「操作・設定方法」

コンピュータを購入時の状態にする

周辺機器が接続されていたり、BIOSの設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。コンピュータを購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

Windows XPのインストール

Windows XPのインストールは、次の手順で行います。

1　Windowsが起動した状態で「Windows　XPリカバリCD」をCD/DVDドライブにセットします。

「実行する操作の選択」画面が表示されたら、画面左下の［終了］をクリックし、画面を閉じてください。画面に「Windows XPをインストールする」とありますが、ここからはインストールを行いません。

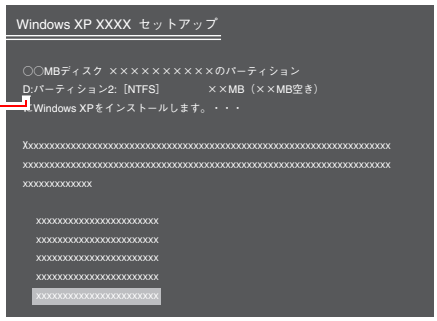
2　［スタート］－［終了オプション］－［再起動］をクリックして、コンピュータを再起動します。

3 **起動時に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。手順4の画面が表示されるまで少し時間がかかります。**

一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。Windowsが起動してしまった場合は、手順2へ戻ります。

HDD領域がCドライブのみの場合は、手順5に進みます。

4 **HDD 領域が複数ある場合は、次の画面が表示されます。この場合は、必ず Esc を押します。**



上の画面では必ず Esc を押して、CドライブにWindowsをインストールしてください。↵ を押してしまうと、Cドライブ以外のドライブにWindowsがインストールされるため、そのドライブに登録されているデータはすべて消えてしまいます。ご注意ください。

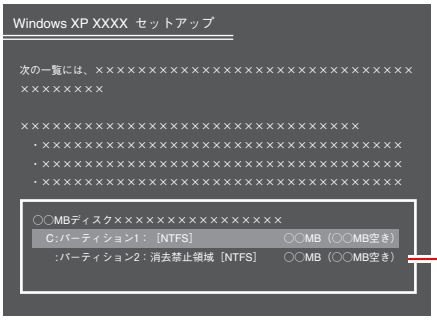
5 **「次の一覧にはこのコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。・・・」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。**

＜領域変更を行う場合＞

p.220 「Cドライブを分割・変更する」の手順に従ってください。

＜領域変更を行わない場合（通常）＞

Cドライブが選択されていることを確認し↵ を押します。



画面下方に、HDD領域の一覧が表示されます。このうち、「消去禁止領域」は、本体ドライバやソフトウェアの再インストールに使用する領域です。絶対に削除しないでください。

6 **HDDの領域が複数ある場合、「別のオペレーティングシステムのあるパーティションに…」と表示されたらC を押します。**
HDDの領域が1つの場合は、上記は表示されませんので手順7に進みます。

7 **「…にWindows XPをインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して↵を押します。**
「現在のファイルシステムをそのまま使用（変更なし）」を選択すると、Cドライブに Windowsが追加登録されてしまいます（Windowsが複数になります）ので注意してください。

8 **「警告：このドライブをフォーマットすると・・・」と表示されたら、F を押します。**

9 **フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると、自動的にコンピュータが再起動します。**
再起動してから「Windows XP ライセンス契約」が表示されるまでに、少し時間がかかります。

10 **「ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するかしないかを設定します。**
「同意しない」を選択するとWindows XPのインストールが中止されます。

11 **「ソフトウェアの個人用設定」と表示されたら、「名前」と「組織名」を入力し、[次へ] をクリックします。**
「名前」は必ず入力してください。

12 **「コンピュータ名…」と表示されたら、必要な項目を入力して[次へ]をクリックします。**
p.43 「セットアップ中に入力する項目について」

13 **「日付と時刻の設定」と表示されたら、表示内容を確認して[次へ]をクリックします。**
コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。

14 **Windows XP Professionalをお使いの場合は、「ワークグループまたはドメイン名」と表示されます。必要な項目を入力して[次へ]をクリックします。**

- **ネットワークに接続する場合**
  「ワークグループ」または、「ドメイン名」を入力します。
- **ネットワークに接続しない場合**
  「このコンピュータはネットワーク上にないか…」に任意の英数字（例：「WORKGROUP」など）を入力する必要があります。

Windows XP Home Editionをお使いの場合や、購入時の構成によっては表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順へ進みます。

15 再起動後に「ディスプレイの設定」画面が表示されたら、[OK]をクリックします。

16 「モニタの設定」画面が表示されたら、[OK]をクリックします。

17 「Microsoft Windowsへようこそ」と表示されたら、画面右下の⇨をクリックします。

18 「コンピュータを保護してください」と表示されたら、自動更新を有効にするかどうかを選択し、画面右下の⇨をクリックします。
インターネットに接続している環境の場合は、自動更新を有効にすることをおすすめします。

19 「インターネットに接続する方法を指定してください。」と表示されたら、画面右下にある⇨(省略)をクリックします。
購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順に進みます。

20 「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」と表示されたら、「いいえ、今回はユーザー登録しません。」にチェックを付けて⇨をクリックします。
購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順に進みます。

21 「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、ユーザー名を入力して⇨をクリックします。
ユーザー名を少なくとも1つ入力してください。

22 「設定が完了しました」と表示されたら、⇨をクリックします。

23 Windows XPのデスクトップ画面が表示されたら、「Windows XPリカバリCD」を取り出します。
これでWindows XPのインストールは終了です。

24 手順5でHDD領域（Cドライブ）を変更した場合は、「未使用の領域」に領域（パーティション）の作成を行います。
領域（パーティション）の作成は、ドライバやソフトウェアのインストールが終了してから行ってもかまいません。
p.221 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

▶リカバリツールのインストール

リカバリツールは、HDDの消去禁止領域に登録されている本体ドライバやソフトウェアをインストールする際に必要なプログラムです。
リカバリツールのインストールは、次の手順で行います。

1 **「リカバリツールCD」をCD/DVDドライブにセットします。正しくセットされると自動的に「リカバリツールセットアップへようこそ」画面が表示されます。**
表示されない場合は、［スタート］－「マイコンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

2 **以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。**
インストールが完了すると、デスクトップ上に次のアイコンが表示されます。
「リカバリツールCD」をCD/DVDドライブから取り出してください。

▶本体ドライバのインストール

本機のデバイスドライバ類を一括してインストールします。
インストールは、次の手順で行います。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「リカバリツール」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。**

3 **本体ドライバやソフトウェアの一覧が表示されたら、一覧から「本体ドライバ」を選択して［インストール］をクリックします。**

手順4の画面が表示されるまでには、数分かかります。

＜イメージ＞

※表示される項目は、システム構成によって異なります。

4 **「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、一覧から［インストール］をクリックします。**

5 **「インストール確認」画面が表示されます。内容をよくお読みになり［OK］をクリックします。**

各ドライバが自動的にインストールされます。インストールには10分程度かかります。

6 **「インストールが完了しました」と表示されたら、［OK］をクリックします。**

7 **「インストール処理」画面が表示されたら、［PC再起動］をクリックします。**

ドライバによっては、Windowsの再起動後に自動的にインストールされます。Windowsが再起動したら本体ドライバのインストールは終了です。

参考

リカバリツールの［ファイル削除］の表示について

リカバリツールからインストールを行う際、ソフトウェアによっては一時的にHDDにインストール用データをコピーします。「リカバリツール」画面で［ファイル削除］が黒字で表示されるときは、コピーされた不要なインストール用データがHDDに残っています。［ファイル削除］をクリックしてデータを削除すると、HDDの容量を節約することができます。

▶各種ドライバのインストール

「本体ドライバ」などではインストールできないオプション製品や、拡張ボードのドライバをインストールします。
インストールにはオプション製品や、拡張ボードなどに添付のディスクが必要です。インストール方法は、オプション製品や拡張ボードに添付のマニュアルをご覧ください。

参考

インストールが必要なドライバの例
お使いのシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

・FAXモデムボードを使用する場合	：FAXモデムドライバ
・USB対応機器を使用する場合	：機器に添付のドライバ
・プリンタを使用する場合	：プリンタに添付のドライバ

▶Adobe Readerのインストール

「Adobe Reader」は、PDF形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。
「Adobe Reader」のインストールは、次の手順で行います。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**

3 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Adobe Reader」を選択して［インストール］をクリックします。**

4 **「Adobe Reader…セットアップ」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。**

5 **「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、［インストール］をクリックします。**
インストールにはしばらく時間がかかります。

6 **「セットアップ完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。**

7 **「使用許諾契約書」が表示されたら、「・・・言語を選択してください。」が「日本語」になっていることを確認します。**

8 **「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。**

同意する場合は、［同意する］をクリックします。［同意しない］を選択すると、「Adobe Reader」は使用できません。

9 **「Adobe Reader操作ガイド」が表示されます。**

内容を確認してください。

以上で、「Adobe Reader」のインストールは終了です。

▶セキュリティソフトウェアのインストール

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。

市販のセキュリティソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧になり、インストールを行ってください。

▶マニュアルびゅーわのインストール

「マニュアルびゅーわ」のインストールは、次の手順で行います。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「リカバリツール」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。**

3 **本体ドライバやソフトウェアの一覧が表示されたら、一覧から「マニュアルびゅーわ」を選択して［インストール］をクリックします。**

4 **「マニュアルびゅーわセットアップへようこそ」画面が表示されたら、［次へ］をクリックします。**

5 **「インストール準備の完了」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。**

6 **「InstallShield Wizardの完了」画面が表示されたら、［完了］をクリックします。**

これで「マニュアルびゅーわ」のインストールは終了です。

▶Nero 7 Essentialsのインストール

Nero 7 Essentialsは書き込み機能のあるCD/DVDドライブ搭載時に添付されています。
Nero 7 Essentialsのインストールは次の手順で行います。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

3 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Nero 7 Essentials」を選択して［インストール］をクリックします。

4 「Neroマルチインストーラ」画面が表示されたら、[Nero 7 Essentials] をクリックします。

5 「・・・インストールウィザードへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶WinDVDのインストール

WinDVDはDVD再生機能のあるCD/DVDドライブ搭載時に添付されています。
WinDVDのインストールは、次の手順で行います。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

3 本体ドライバやソフトウェアの一覧が表示されたら、一覧から「InterVideo WinDVD ･･･」を選択して［インストール］をクリックします。

4 「WinDVD Setupへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶JWord Pluginのインストール

JWord Pluginのインストールは、次の手順で行います。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

3 本体ドライバやソフトウェアの一覧が表示されたら、一覧から「JWord Plugin」を選択して［インストール］をクリックします。

4 「JWord　プラグイン・・・へようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶gooスティックのインストール

gooスティックのインストールは、次の手順で行います。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

3 本体ドライバやソフトウェアの一覧が表示されたら、一覧から「gooスティック」を選択して［インストール］をクリックします。

4 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。
これで、gooスティックのインストールは終了です。

▶そのほかの作業

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、未設定領域はそのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。

p.217 「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」

セキュリティチップユーティリティのインストール

セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）を使用する場合は、BIOSの設定を変更し、セキュリティチップユーティリティをインストールする必要があります。詳しくは、本機に添付の『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』をご覧ください。

バックアップしたデータや設定の復元

再インストールを行う前にバックアップしたデータや設定を元に戻します。

- モデムの設定
  FAXモデムボードの取扱説明書をご覧ください。
- ネットワークの設定
  ネットワーク管理者に確認してください。
- Internet Explorer、Outlook Expressの設定の復元
  p.208 「データのバックアップ方法」
- 重要なデータ
  バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

そのほかのソフトウェアのインストール

そのほかに使用するソフトウェアがある場合は、インストールします。インストール方法についてはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

Windows Update

再インストールを行うと、今までに行った「Windows Update」のプログラムがインストールされていない状態に戻ります。
Windowsの再インストール後にはじめてインターネットに接続する際は、必ず手動で「Windows Update」を行ってください。

p.96 「Windows Update」

DEP機能の設定

DEP機能で、セキュリティを強化する設定をしていた場合は、再度設定を行います。

p.112 「さらにセキュリティを強化する」

第6章
こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

「トラブルが発生したら」..... 174
「困ったときに」..... 175
「トラブル時に役立つ機能」..... 201
「警告メッセージが表示されたら」..... 203

トラブルが発生したら

本機ご使用時にトラブルが発生した場合は、次の場所から対処方法をご確認ください。

● 困ったときに

「困ったときに」にはトラブルが発生した場合の確認事項と対処方法を記載しています。

p.175 「困ったときに」

● とらぶる解決ナビ

「インフォメーションメニュー」の「とらぶる解決ナビ」には、当社ユーザーサポートページの「サポート情報検索」から、技術的なトラブルの解決方法をピックアップして収録しています。

「インフォメーションメニュー」を開き、「とらぶる解決ナビ」をクリックします。

トラブルが起きた場合の対処の流れ

起こったトラブルに関する項目をクリックします。
トラブルの詳細が表示されたら、詳細項目をクリックし、対処方法を確認します。

参考

サポート・サービスのご案内

別冊子『サポート・サービスのご案内』には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。
困ったときや万一の場合に備えてご覧ください。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。対処方法が見つからない場合は、「インフォメーションメニュー」の「とらぶる解決ナビ」や「サポート情報検索」もあわせてご覧ください。

不具合一覧

- p.176 「コンピュータが起動できない場合」
- p.181 「コンピュータ本体の不具合（CPU、メインボード）」
- p.184 「インストール時の不具合」
- p.185 「省電力機能に関する不具合」
- p.186 「キーボードの不具合」
- p.187 「マウスの不具合」
- p.188 「ディスプレイの不具合」
- p.190 「FDD（オプション）の不具合」
- p.191 「マルチカードリーダの不具合」
- p.191 「HDDの不具合」
- p.192 「CD/DVDドライブの不具合」
- p.195 「ソフトウェアの不具合」
- p.198 「メモリの不具合」
- p.199 「拡張ボード、周辺機器の増設に関する不具合」
- p.200 「内蔵スピーカの不具合」
- p.200 「セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）の不具合」

参考

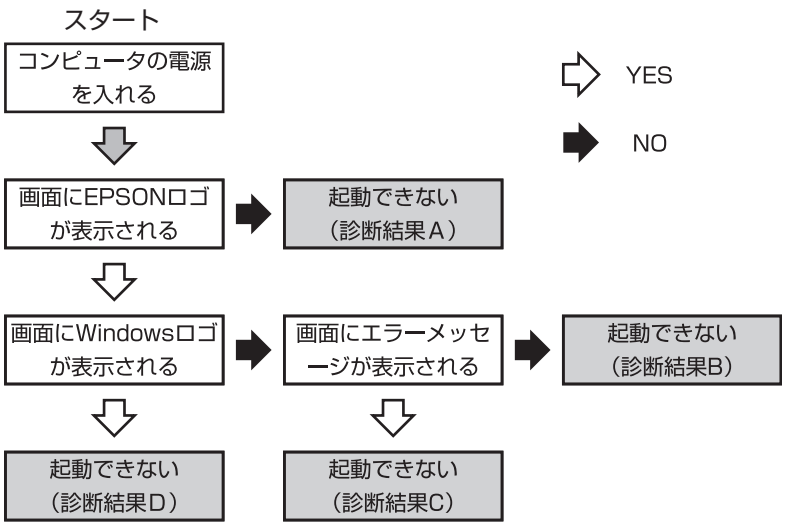
LAN（インターネット接続）の不具合

LAN（インターネット接続）の不具合については 「とらぶる解決ナビ」の「インターネットの不具合」をご覧ください。

p.174 「とらぶる解決ナビ」

▶コンピュータが起動できない場合

コンピュータが起動できない場合は、次の診断表をご覧ください。各問いにお答えいただき、たどりついた結果の指示に従ってください。



診断結果

診断結果A

次の対処を順に行ってみてください。

(1) → (2) → (3) → (4) → (5) → (9) → (15) → (17) → (21)

p.177 「対処方法」

診断結果B

次の対処を順に行ってみてください。

(9) → (10) → (12) → (13) → (14) → (15) → (16) → (21)

p.177 「対処方法」

診断結果C

表示されるメッセージによって対処方法が異なります。次の対処を順に行ってみてください。

C-1

「S.M.A.R.T Failure Predicted on HDD / WARNING: Immediately back-up your data and replace your HDD」というメッセージが表示された場合

(21)

p.177 「対処方法」

C-2

「Hardware Monitor found an error, Enter Power setup menu for details」というメッセージが表示された場合

(18) → (19) → (20) → (21)

p.177 「対処方法」

C-3

「DISK BOOT FAILURE」、「Invalid system disk」、「Missing Operating System」、「Operating System Not Found」などのメッセージが表示された場合

(6) → (7) → (8) → (14) → (16) → (21)

p.177 「対処方法」

C-4

上記以外のメッセージが表示された場合

(6) → (9) → (14) → (15) → (16) → (21)

p.177 「対処方法」

診断結果D

次の対処を順に行ってみてください。

(9) → (10) → (11) → (12) → (13) → (16) → (21)

p.177 「対処方法」

対処方法

(1) コンピュータ本体の電源を入れなおす…A

電源を入れなおす場合は、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

(2) ディスプレイの電源ランプを確認する…A

ディスプレイの取扱説明書をご覧になり、ディスプレイの電源ランプが通常動作時の状態になっているかどうか確認してください。

(3) ディスプレイケーブルを接続しなおす…A

コンピュータ本体とディスプレイの接続に問題がある可能性があります。コンピュータ本体とディスプレイの電源を切ってから、ディスプレイケーブルを接続しなおし、ディスプレイ、コンピュータ本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(4) ディスプレイの電源コードを接続しなおす…A

ディスプレイの電源コードの接続に問題がある可能性があります。コンピュータ本体とディスプレイの電源を切ってから、ディスプレイの電源コードを接続しなおし、ディスプレイ、コンピュータ本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(5) コンピュータ本体の電源コードを接続しなおす…A

コンピュータ本体の電源コードの接続に問題がある可能性があります。コンピュータ本体とディスプレイの電源を切ってからコンピュータ本体の電源コードを接続しなおし、ディスプレイ、コンピュータ本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(6) FD やUSB フラッシュメモリを取り外す…C-3・C-4

FDがセットされていたりUSB 接続のフラッシュメモリなどが装着されていると、FDやUSB 機器からOS を読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDやUSB 機器を取り外してから、コンピュータを起動して問題が解決されるかどうか確認してください。

また、起動に使用するドライブの優先順位の設定でHDD を最優先に設定しておくことで、FDをセットした状態 やUSB 機器を接続した状態でもコンピュータを起動できるようになります。

p.149 「Bootメニュー画面」

(7) しばらく放置する…C-3

急激な温度変化があった場合は、HDDの表面が結露してしまっている可能性があります。結露した水分が自然に蒸発するまで、しばらく放置しておいてから、再度電源を入れなおしてみてください。

(8) 認識と接続を確認する…C-3

BIOSでHDDを認識できていない可能性があります。次の手順でBIOSを確認してください。

1. BIOS Setupユーティリティを起動します。

p.135 「BIOS Setupユーティリティの起動」

2. 「Main」メニュー画面ー「Serial ATA Port1」の設定を確認します。

BIOSでは、正常に認識されている場合、HDDの型番が表示されます。

正常に認識できていない場合、「Not Detected」、「None」などと表示されます。

正常に認識できていない場合は、対処方法の（11）や（12）を行ってみてください。

(9) 周辺機器および増設した装置を取り外す…A・B・C-4・D

プリンタやスキャナなどの周辺機器やメモリなど、ご購入後にお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(10) セーフモードで起動する…B・D

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

p.201 「セーフモードでの起動」

(11) 常駐ソフトを停止する…D

常駐ソフトとは、システム稼働中、常にメモリ上に存在しているソフトです。これらのソフトが稼働していることにより現象が発生している可能性があるため、セーフモードで起動できた場合は、ソフトを一時的に停止させ、正常に動作するか確認してください。
常駐ソフトを停止する手順は次のとおりです。

1. [スタート] −「ファイル名を指定して実行」を選択します。
2. 「ファイル名を指定して実行」画面が表示されたら、「名前」に「msconfig」と入力して、[OK] をクリックします。
3. 「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目のチェックを外し、[OK] をクリックします。
4. 「再起動する必要があります」というメッセージが表示されたら、[再起動] をクリックします。
5. Windows起動時に、「開始方法を変更しました」というメッセージが表示されたら、「このメッセージを表示しない」にチェックを入れて、[OK] をクリックします。
   ※常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。

(12) システムの復元を行う…B・D

セーフモードで起動できた場合は「システムの復元」機能を使用して以前のコンピュータの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。システムの復元を行ってみてください。

p.201 「システムの復元」

(13) 前回正常起動時の構成で起動する…B・D

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

1. コンピュータの電源を入れます。
2. 「EPSON」と表示され、消えた直後に F5 を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
   キーを押すタイミングがずれて、Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。
3. 「Windows 拡張オプションメニュー」と表示されたら、↑ または ↓ を押して、「前回正常起動時の構成」を選択し、↵ を押します。
4. 「オペレーティングシステムの選択」と表示されたら、起動するOS を選択して ↵ を押します。

(14) BIOSの設定を初期値に戻す…B・C-3・C-4

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻して問題が解決されるか確認してください。

p.139 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」

(15) CMOS RAMの初期化を行う…A・B・C-4

CMOS RAMの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAMの初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

p.230 「CMOS RAMの初期化」

(16) Windowsを再インストールする…B・C-3・C-4・D

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windows の再インストールを行って問題が解決されるかどうか確認してください。

p.155 「ソフトウェアの再インストール」

(17) 電源保護回路を解除する…A

過電流によってコンピュータが不安定になっている可能性があります。周辺機器/増設機器類（キーボード、マウス、ディスプレイを含む）を外して電源コードを抜いた後、1分程度放置し、問題が解決されるかどうか確認してください。

(18) コンピュータの電源を入れなおす…C-2

コンピュータの電源を切ってから、電源コードを抜き、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてみてください。

(19) 壁のコンセントに直接接続する…C-2

電源タップなどにコンピュータの電源コードを接続している場合は、電源タップなどを使用せず、壁にあるコンセントに直接コンピュータの電源コードを接続して、電源を入れてみてください。

(20) 消費電力の大きい機器を停止する…C-2

大画面テレビやエアコンなど、消費電力の大きい機器を使用している場合、それらの機器の電源を切ってから、コンピュータの電源を入れてみてください。

(21) カスタマーサービスセンターに問い合わせる…A・B・C・D

対処を行っても不具合が改善されない場合は、故障の可能性が考えられます。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターへお問い合わせください。

▶コンピュータ本体の不具合（CPU、メインボード）

電源を切ってから、もう一度入れなおす場合には、20 秒程度の間隔を空けてください。20 秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、正常にシステムが起動しなくなる場合があります。

現象

起動時に画面に警告メッセージが表示される、または起動しない。

確認と対処

- 現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行った場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。

- コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には、次のメッセージが表示されることがあります。
  Press F1 to Run SETUP
  この場合は、F1を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常は、そのまま「Exit & Save Changes」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。
  p.135 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 起動時に警告メッセージが表示される場合には、警告メッセージを確認してください。起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。問題点が解決できない場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。
  p.203 「警告メッセージが表示されたら」

- 「Suspend Mode」を「S3 only」にしてスタンバイを実行しているときに電源コードが抜けたりすると、メモリへの電源供給が切れてしまい、次に本機の電源を入れたときに正常に起動しなくなります。この場合は、本機の電源を切ってからもう一度入れなおしてください。

- BIOSの設定が正常でない可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を初期値に戻してください。
  p.135 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 「BIOS Setupユーティリティ」の値を初期値に戻しても問題が解決しない場合は、CMOS RAMを初期化してみてください。
p.230 「CMOS RAMの初期化」

- 警告音（ビープ音）が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストで異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。

```
Enter CURRENT Password:
```

```
Hard Disk locked, enter password:
```

確認と対処

- 「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。
p.140 「Passwordの設定」

- パスワードを正しく入力しているか確認します。Num Lock の状態により数値が正しく入力されていない場合があります。
p.58 「キーロック表示ランプ」

- パスワードを忘れてしまった場合には、強制的に解除することができます。
p.230 「CMOS RAMの初期化」
強制的に解除した場合、BIOSの設定が初期化されてしまい、BIOSを再度設定する必要があります。「BIOSの設定値」に変更内容を記入している場合は、「BIOSの設定値」をご覧になり、設定してください。
p.133 「BIOSの設定」

- パスワード入力後に次のようなメッセージが表示された場合は、間違ったパスワードを入力しています。
WARNING: Continue booting with this drive being locked might cause system to hang with some OS.
コンピュータの電源を切り、再度起動して、正しいパスワードを入力してください。

現象

起動時に次のようなメッセージが表示されてWindowsが起動しない。

- DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER
- Invalid system disk Replace the disk, and then press any key
- Operating system not found

確認と対処

- システムが登録されていないFDが、FDD（またはUSB FDD）にセットしてある場合は、FDを抜いて、どれかキーを押してください。

- USB フラッシュメモリなどの周辺機器を USB コネクタに接続している場合は、いったん電源を切って周辺機器を取り外してから、再度電源を入れてください。

現象

ハングアップしてしまい何も反応しない。

確認と対処

- タスクマネージャで応答のないプログラムを終了させます。
  応答のないプログラムを終了させる手順は、次をご覧ください。
  p.54 「ハングアップしたときは」

- 応答のないプログラムを終了させることができない場合には、電源スイッチを押して電源を切ってください。

- 電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。この後、20秒程待ってから、電源を入れなおします。電源を入れても起動しない場合は、本機背面の電源コードを抜いて、1分程待ってから差しなおし、再度電源を入れてください。

現象

「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処

- 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してください。
  p.227 「リチウム電池の交換」

現象

起動時にWindowsを選択する画面が表示される（Windowsが2つになってしまっている）。

確認と対処

- Windowsの再インストールの際に手順を間違ったと考えられます。
  再度、手順どおりにWindowsの再インストールを行ってください。
  ポイントとなる手順は、次のとおりです。
  - p.160 「Windowsのインストール」の手順4では必ずEscを押す。
  - p.160 「Windowsのインストール」の手順5、p.220 「Cドライブを分割・変更する」 の手順1では必ずCドライブを選択する（Cドライブ以外にWindowsが入ってしまっている場合は、そのドライブをフォーマットする）。
  - p.160 「Windowsのインストール」の手順7、p.220 「Cドライブを分割・変更する」の手順7では必ず「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択する。

▶インストール時の不具合

現象

インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処

- 本書では、インストール手順中のCD/DVDドライブのドライブレターを「D:」と記載しています。CD/DVDドライブのドライブレターは、HDD領域の数によって変わります。「マイコンピュータ」でCD/DVDドライブのドライブレターを確認してください。

- 本書の手順は、p.20 「本製品の仕様とカスタマイズについて」で記載している製品仕様でインストールすることを前提に説明しています。オプションの拡張ボードや周辺機器を増設している場合は、手順が異なることがあります。各機器に添付のマニュアルもあわせてご覧ください。

- 本書の手順は、HDDのフォーマット後にインストールを行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点は『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

現象

「Windows XPリカバリCD」をCD/DVDドライブにセットしてもWindowsの再インストールが開始されない。

確認と対処

- CD/DVD ドライブの起動順位を HDD よりも下に設定している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行して、起動順位を変更してください。
p.149 「Bootメニュー画面」

▶省電力機能に関する不具合

現象

正しく省電力モードに移行できない。または省電力モードから復帰できない。

確認と対処

- 使用しているソフトウェアや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。ソフトウェアの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。

- 「BIOS Setupユーティリティ」の「Power」メニュー画面ー「Suspend Mode」を「S1 (POS) only」に設定してください。
p.106 「省電力モードの種類」

- スタンバイを実行しているときや、休止状態のときは、キーボードやマウスの操作では、省電力モードから復帰しません。電源スイッチを押して本機を復帰させてください。
p.109 「省電力モードから復帰する」

- 省電力モードから復帰できない場合は、Ctrl + Alt + Delete を押して本機を再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。

▶キーボードの不具合

現象

数値キーを押しても数値が入力されない。

確認と対処

- 数値キーは Num Lock の状態により機能が変わります。Num Lock を押して、オンの状態にします。
p.58 「キーロック表示ランプ」

現象

どのキーを押しても応答がない。

確認と対処

- キーボードが正しく接続されているか確認します。キーボードの接続は、本機の電源を入れる前に行ってください。
p.31 「コンピュータの設置」

- マウスを操作してみてください。マウスで操作できる場合もあります。

- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

- プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、再起動してください。
p.54 「再起動」

現象

キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処

- 直接入力モードで日本語を入力することはできません。

- Windows上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。次のキーボードが選択されているか確認します。
日本語 PS/2キーボード（106/109キー）

  確認方法は、次のとおりです。
  ［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「キーボード」をクリック

▶マウスの不具合

現象

マウスを動かしても、マウスポインタが動かない。

確認と対処

- マウスが正しく接続されているか確認します。マウスの接続は本機の電源を入れる前に行ってください。
p.37 「マウスの接続」

- キーボードを操作してみてください。キーボードで操作できる場合もあります。

- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

- プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、再起動してください。
p.54 「再起動」

現象

マウスポインタの動きが悪い。

確認と対処

- マウスのクリーニングを行ってみてください。
p.206 「マウスのお手入れ」

▶ディスプレイの不具合

現象

起動時にディスプレイに何も表示されない。

確認と対処

- ディスプレイの電源ランプが点灯しているか確認します。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

- ディスプレイの仕様を確認して、該当するコネクタにディスプレイのケーブルが正しく接続されているか確認します。本機で使用できるディスプレイの接続ケーブルは次をご覧ください。
p.35 「ディスプレイの接続」

- ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。調整方法については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

- コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

- 警告音（ビープ音）が鳴った場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見された可能性があります。音の種類、音の長さなどを確認した上で、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

使用中に何も表示されなくなった。

確認と対処

- ディスプレイが省電力モードになっている可能性があります。キーボードを操作してみてください。電源ランプが点滅している場合は、スタンバイになっています。この場合は、電源スイッチを押すと、元に戻ります。
p.105 「省電力機能を使う」

- ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。調整方法については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

- ディスプレイと本機のそれぞれで、コネクタとケーブルが正しく接続しているか確認してください。
p.35 「ディスプレイの接続」

- ディスプレイの故障の場合には、ディスプレイの販売元にご確認ください。

現象

画面がちらつく、文字がにじむ。

確認と対処

- リフレッシュレートを変更してみてください。
p.85 「リフレッシュレートの設定」

現象

画面の解像度などを変更した後、画面が乱れたり何も表示されなくなったりしている。

確認と対処

- ディスプレイの選択を誤っている可能性があります。ディスプレイのマニュアルを参照して確認してください。

- 使用中のディスプレイでは表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで起動して、解像度を変更してみてください。
p.201 「セーフモードでの起動」

▶FDD（オプション）の不具合

現象

FDに正常にアクセスできない。

確認と対処

- 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットしなおしてください。

```
A:￥にアクセスできません。
デバイスの準備ができていません。
        [再試行]          [キャンセル]
```

```
ディスクの挿入
A:ドライブにディスクを挿入してください。
              [キャンセル]
```

- 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDがフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性があります。フォーマットされていない場合は、フォーマットを行ってください。

```
ドライブAのディスクはフォーマットされていません。
今すぐフォーマットしますか？
        [はい]          [いいえ]
```

- 別のFDで読み書きを行ってみてください。正常に読み書きできる場合は、FDに異常があることが考えられます。

- 「BIOS Setupユーティリティ」－「Main」メニュー画面－「Legacy Diskette A」が「Enabled」となっているか確認してください。

現象

FDに書き込みできない。

確認と対処

- ライトプロテクトされていないか確認してください。
p.63 「ライトプロテクト（書き込み禁止）」

現象

FDDから異常な音がする。

確認と対処

- 『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

▶マルチカードリーダの不具合

現象

メモリカードが使用できない。

確認と対処

- メモリカードを裏表逆に入れていないか確認します。
- メモリカードがメモリスロットの仕様に対応しているか確認します。本機のメモリスロットでは、5VのSmartMediaを使用することができません。
p.64 「使用可能なメモリカード」
- タスクトレイの「取り外し」アイコンからメモリカードを取り出すと、メモリカードスロットが認識されなくなります。Windowsを再起動してから、再度メモリカードをセットしてください。
p.66 「メモリカードのセットと取り出し」

▶HDDの不具合

現象

HDD容量がWindows上で、マニュアルに記載されている容量と異なって表示される。

確認と対処

- 本機に搭載されているHDD容量をWindows上で確認すると、マニュアルに記載されているHDD容量より少なく表示されます。
これは、Windows上では容量を計算や表示する場合に「2進法」（0と1の2つの数字を用いる表記法）を使用しているのに対して、マニュアルではHDDなどの仕様を表記する際に用いられている「10進法」（0～9の数字を用いる表記法）を使用していることによる違いです。
2進法で表記した1KB（キロバイト）は「1024Byte」になるのに対し、10進法で表記した場合には「1000Byte」となります。そのため、WindowsなどのOS上で表示されるHDD容量は、マニュアルに記載されている容量よりも少なく表示されます。

現象

それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。

確認と対処

- HDDに問題が発生している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行してHDDの状態を確認してください。
p.144 「Mainメニュー画面」

現象

HDDからWindowsが起動しない。

確認と対処

- 起動時のHDDの順番が正しく設定されているか確認してください。
p.149 「Bootメニュー画面」

▶CD/DVDドライブの不具合

現象

セットしたCD/DVDメディアにアクセスできない。

確認と対処

- CD/DVDメディアが正しくセットされているか確認してください。
- CD/DVDメディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は、読み込み準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。
- メディアの表面にキズなどがないか確認してください。
- コンピュータに添付されていたCD-ROM（データが登録されているCDなど）にアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないCD/DVDメディアに問題がある可能性があります。
- セットしたCD/DVDメディアが書き込み済みのメディアの場合、CD/DVDドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象

CD/DVDメディアをセットすると画面が開いてしまう。

確認と対処

- セットしたCD/DVDメディアに自動再生機能があると、自動的に画面が開きます。メディアに登録されている内容を見たい場合は、［キャンセル］や、をクリックして、画面を閉じます。その後、（［スタート］－）「マイコンピュータ」のCD-ROMアイコンを右クリックして、「開く」を選択します。

現象

CD/DVDメディアへの書き込みができない。

確認と対処

- CD-ROMドライブ、DVD-ROMドライブは、メディアへの書き込みができません。

- 書き込み機能のある CD/DVD ドライブには、購入時にライティングソフト「Nero 7 Essentials」がインストールされています。CD/DVDメディアのフォーマットに関する不具合や、書き込みに関する不具合については、「マニュアルびゅーわ」に登録されている『Neroユーザーズガイド』を参照してください。
p.49 「インフォメーションメニューを使う」

- メディアへの書き込みをドラックアンドドロップで行うには、「InCD」でメディアをフォーマットする必要があります。
p.78 「Nero 7 Essentialsの使い方」

- 「InCD」で使用できるメディアはCD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。
p.78 「Nero 7 Essentialsの使い方」

- 「InCD」でフォーマットしたメディアは、「Nero 7 Essentials」での書き込みができません。「Nero 7 Essentials」で「ディスクの消去」を行ってください。

- 書き込み可能なCD/DVDメディアへのデータ転送中にWindowsが省電力モードに切り替わると、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを始める前に省電力機能を無効にしてください。
p.108 「時間経過で移行させない」

- お使いの CD/DVD ドライブで使用できるメディアかどうか確認してください。使用可能なメディアは、「マニュアルびゅーわ」に登録されているCD/DVDドライブのPDFマニュアルを参照してください。

- CD/DVDメディアが正しくセットされているかどうか、確認してください。
- CD/DVDメディアの表面に汚れやキズなどがないか確認してください。
- CD/DVDメディアに書き込み可能な残量があるか確認してください。
- ヘッドレンズの汚れによって書き込みができない場合があります。
- CD/DVDドライブとの相性によって、セットしたCD/DVDメディアに書き込めない場合があります。

現象

オーディオCDやDVD VIDEO再生時に、音声が出力されない。

確認と対処

- ボリュームコントロールが「ミュート」または「レベル0」に設定されていないかあるいはスピーカのボリュームコントロールが小さくなっていないか確認してください。
p.87 「サウンド機能を使う」
- 外部スピーカを接続していて、外部スピーカから音が出ない場合は、本機背面のライン出力コネクタに正しく接続しているか、また、サウンドボードをお使いの場合は、サウンドボードのライン出力コネクタに接続しているか、確認してください。外部スピーカのスイッチが入っているか、ボリュームの調節は適切かも確認してください。

現象

セットしたCD/DVDメディアが取り出せない。

確認と対処

- コンピュータの電源が入っているか、確認してください。
- ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないと、メディアが取り出せないものもあります。詳しくは、お使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

現象

DVDの再生ができない。

確認と対処

- CD-ROMドライブをお使いの場合、DVDの再生はできません。

- DVD再生機能のあるCD/DVDドライブをお使いの場合は、DVD VIDEO再生ソフトウェア「WinDVD」が購入時にインストールされています。
  DVD VIDEO再生に関する不具合については、「マニュアルびゅーわ」に登録されている『WinDVDユーザーズマニュアル』を参照してください。
  p.76 「DVDメディアの読み込み・再生」

- 解像度や色数、リフレッシュレートを変更してみてください。
  p.83 「解像度や表示色を変更するには」
  p.85 「リフレッシュレートの設定」

現象

DVDの再生が不安定になる。

確認と対処

- WinDVD を起動して、「セットアップ」－「ビデオ」タブー「ビデオハードウェアの構成」の「ハードウェアデコードアクセラレーション使用」と「ハードウェアカラーアクセラレーション使用」のチェックを外してみてください。詳しくは、「マニュアルびゅーわ」に登録されている『WinDVDユーザーズマニュアル』をご覧ください。
  p.76 「DVDメディアの読み込み・再生」

▶ソフトウェアの不具合

現象

ソフトウェアの使用中に突然停止（ハングアップ）した。

確認と対処

- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止（ハングアップ）などが含まれます。ソフトウェアを再度実行してみてください。

- ケーブルの接続不良や、キーボード内のゴミやホコリ、電源の出力不安定、もしくは、そのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

- HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

- ハングアップしてしまったら、応答のないプログラムを終了してからコンピュータを再起動します。
p.54 「ハングアップしたときは」

現象

アプリケーションやプログラムの実行が停止され、「データ実行防止」画面が表示された。

確認と対処

- セキュリティソフトウェアで、ウイルスの検索・駆除を行ってください。それでも問題が解決しない場合は、テクニカルセンターまでお問い合わせください。
p.112 「データ実行防止機能（DEP機能）」

現象

ソフトウェアが起動しない。

確認と対処

- ソフトウェアの起動に必要とされるシステムリソース（メモリ容量やHDDの使用可能な容量など）が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、ソフトウェアのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度ソフトウェアを起動してみてください。

- ソフトウェアを正しい方法でインストールしたか、ソフトウェアの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

- 実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDやCD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。

- ソフトウェアの使用許諾を受けていない場合（違法コピーなど）、ソフトウェアが動作しないことがあります。ソフトウェアの正式版を使用してください。

- ソフトウェアの使用方法をもう一度確認してください。それでもソフトウェアの不具合が解決できないときは、ソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

Internet Explorerの使用時に「警告」（情報バー）画面が表示される。

確認と対処

- Internet Explorerは、購入時、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう、設定されています。Internet Explorer使用時に「警告」（情報バー）画面が表示されたら、［OK］をクリックして画面を閉じ、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処を選択してください。

現象

Internet Explorerの使用時に「セキュリティの警告」画面が表示される。

確認と対処

- セキュリティ強化のために、Active Xなどの意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう、購入時に設定されています。
  プログラムやダウンロードを実行する場合は、「セキュリティの警告」画面の内容をよくお読みください。
  Internet Explorerの設定は次の場所で確認できます。
  - ［セキュリティセンター］－「インターネットオプション」－「セキュリティタブ」をクリック
  - Internet Explorerの「ツール」－「インターネットオプション」－「セキュリティタブ」をクリック

現象

Outlook ExpressでHTMLメールの画像が表示されない、または添付ファイルが開けない。

確認と対処

- メール添付のファイルや送信元の不明なメールによるウイルスの侵入から、コンピュータを保護するための設定が購入時にされています。
  HTMLメールの画像を見る場合は、送信元を確認して、件名の下にある情報バーをクリックします。
  添付ファイルについての設定は、次の場所で確認できます。
  Outlook Expressの［ツール］－「オプション」－「セキュリティ」タブ－「ウイルスの可能性がある添付ファイルを保存したり開いたりしない」

現象

インストールしたネットワークアプリケーションが動作しない。

確認と対処

- ファイアウォールが有効に設定されていると、ネットワークアプリケーションが正常に動作しない場合があります。
  p.51 「セキュリティ対策を行う」
  詳細についてはソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

「インフォメーションメニュー」の「マニュアルびゅーわ」がグレーになって使用できない。

確認と対処

- 「マニュアルびゅーわ」のインストールを行ってください。
  p.168 「マニュアルびゅーわのインストール」

- 「マニュアルびゅーわ」を使用できない場合、当社のユーザーサポートページから当社作成の電子マニュアルをダウンロードすることができます。
  ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。
  p.215 「電子マニュアルのダウンロード」

▶メモリの不具合

現象

メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。

確認と対処

- 起動時のメモリチェックやWindows上では、メモリ容量が正しく表示されないことがあります。BIOS Setupユーティリティを起動し、「Main」メニュー画面－「System Information」－「System Memory」で総メモリ容量を確認してください。
  p.136 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- メインボード上のビデオ機能を使用している場合、本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。メインメモリ容量の表示は、ビデオメモリ容量（初期値は32MB）を差し引いて表示されます。

- メモリを増設した場合は、メモリのタイプが合っているか、スロットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。また、メモリのスロットの組み合わせが正しいか確認してください。
p.128 「メモリの増設」

- 購入時から不具合がある場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

▶拡張ボード、周辺機器の増設に関する不具合

現象

拡張ボード、周辺機器を増設したらコンピュータの動作がおかしくなった。

確認と対処

- 増設した機器が、対応する拡張スロットおよびコネクタに正しく装着されているか確認してください。

- 増設した機器のジャンパスイッチやディップスイッチの設定をした場合は、設定が正しいかどうか確認してください。たとえば、同じIRQ信号を2つ以上の拡張ボードで重複して設定していると、コンピュータは正しく動作しないことがあります。詳細は拡張ボード、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

  IRQ信号やDMAがどのように設定されているかは、［デバイスマネージャ］で確認できます。
  ［デバイスマネージャ］の開き方は次のとおりです。

  ［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「システム」－「ハードウェア」タブ－［デバイスマネージャ］

- 周辺機器を追加するために拡張ボードを装着した場合、周辺機器と拡張ボードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。

- 拡張ボードによっては、拡張スロットに装着するだけでなく、メインボードやコンピュータのコネクタとの接続が必要なものがあります。拡張ボードのマニュアルを確認してください。

- 拡張ボードを使用するためのユーティリティソフトウェアなどが正しく実行されているか確認してください。拡張ボードのマニュアルおよびソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

- 上記の処置を行っても改善が見られない場合は、拡張ボード、周辺機器の販売元にお問い合わせください。

▶内蔵スピーカの不具合

現象

システムは正常に動作しているのに音が聞こえない。

確認と対処

- 内蔵スピーカの音量が小さくなっている、または「ミュート」になっている可能性があります。音量を調節してください。
  p.48 「音量の調節」

- 音量を調節しても音が聞こえない場合は、内蔵スピーカの不良が考えられます。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

▶セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）の不具合

現象

セキュリティチップの情報を初期化して、購入時の状態に戻したい。

確認と対策

- セキュリティチップの情報の初期化は、「BIOSセットアップユーティリティ」の次の項目で行います。
  「Boot」メニュー画面－「Security」－「TPM Function」－「TPM Owner」で［Clear］を選択します。
  「Clear」を選択後、「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択してBIOSを終了します。

トラブル時に役立つ機能

ここではトラブルが発生した場合に役立つWindowsが持つ機能について説明します。

▶セーフモードでの起動

コンピュータが起動できない場合や、ディスプレイで表示できない解像度を選択して表示ができなくなってしまった場合などには、セーフモードで起動してみてください。
セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

1 **コンピュータの電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。**

2 **EPSONと表示され、消えた直後に[F5]を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。**
[F5]を押すタイミングがずれて、Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。

3 **「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、[↵]を押します。**
セーフモードで起動できた場合は、不具合に対する対処を行ってください。

▶システムの復元

Windows XPでは、コンピュータの動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行ってコンピュータを以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。
復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に、自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

システムを復元する

システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。システムの復元を行う前に、HDDのデータを他のメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

1 **［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「システムツール」－「システムの復元」を選択します。**

2 **「システムの復元」が表示されたら、「コンピュータを以前の状態に復元する」を選択し、［次へ］をクリックします。**

3 **「復元ポイントの選択」と表示されたら、復元ポイントを選択します。**
復元ポイントのある日が、カレンダに太字で表示されるので、まず日付けを選択し、次に画面右側の復元ポイントの一覧より、復元ポイントを選択し、［次へ］をクリックします。

4 **「復元ポイントの選択の確認」と表示されたら、［次へ］をクリックします。**
コンピュータが再起動します。

5 **再起動後、「復元は完了しました」と表示されたら、［OK］をクリックします。**
これでシステムの復元は完了です。

復元ポイントを手動で作成する

復元ポイントを手動で作成する方法は次のとおりです。

1 **［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「システムツール」－「システムの復元」を選択します。**

2 **「システムの復元」画面が表示されたら、「復元ポイントの作成」を選択し、［次へ］をクリックします。**

3 **「復元ポイントの作成」と表示されたら、「復元ポイントの説明」に説明を入力し、［作成］をクリックします。**

4 **「新しい復元ポイント」と表示されたら、［閉じる］をクリックします。**
以上で復元ポイントの作成は完了です。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。
処置を行ってもなおらない場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明および対処法
DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER	HDDが検出できません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから再起動してください。
CPU Over Temperature Error!	CPU が高温になっています。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10 分以上待ってから電源を入れてください。
CPU Fan Error!	CPUファンが正常に動作していません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから再起動してください。
CPU Over Voltage Error!	CPU の電源電圧が異常です。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10 分以上待ってから電源を入れてください。

付録

本機をご使用になる際に役立つ情報や本機の仕様などについて説明します。

「お手入れ」 206
「データのバックアップ方法」 208
「バックアップCDの作成」 213
「電子マニュアルのダウンロード」 215
「セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化」 216
「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」 217
「リチウム電池の交換」 227
「CMOS RAMの初期化」 230
「機能仕様一覧」 233
「用語集」 234

お手入れ

▶本機のお手入れ

コンピュータ本体やキーボード、マウスなどの外装の汚れは、中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で、軽く拭き取ってください。

制限

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

▶マウスのお手入れ

マウスを長い間使っていると、マウスボールにホコリやゴミが付着します。マウスボールの汚れをそのままにして使い続けると、誤操作や故障の原因となります。マウスボールが汚れてきたら、クリーニングを行ってください。

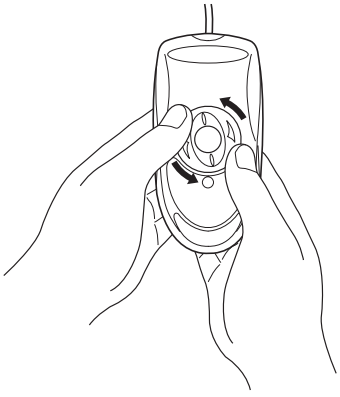
警告

- 小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。口に入れたりすると窒息する危険があります。
- マウスボールは、絶対に投げないでください。マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。

クリーニングは、本機の電源を切った後、マウスケーブルを本機背面から取り外した状態で行います。
クリーニングの手順は、次のとおりです。

1 マウス底面のボールフレームを外します。

ボールフレームの滑り止め部分に親指を置いて、左回りに回します。



2 マウスボールを取り出します。

マウス底面を静かに下に向けると、ボールフレームとマウスボールが外れます。

3 **マウスボールの汚れを乾いた布で拭き取ります。**

マウスボールの汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた溶液で洗い、水でよくすすぎます。水洗い後は、マウスボールを乾いた布で拭き、十分乾燥させてから装着します。

クリーニング中は、マウス本体内部にゴミなどが入らないように注意してください。

4 **マウスボールをマウス底面の穴に入れます。**

5 **ボールフレームをもとどおりに取り付けます。**

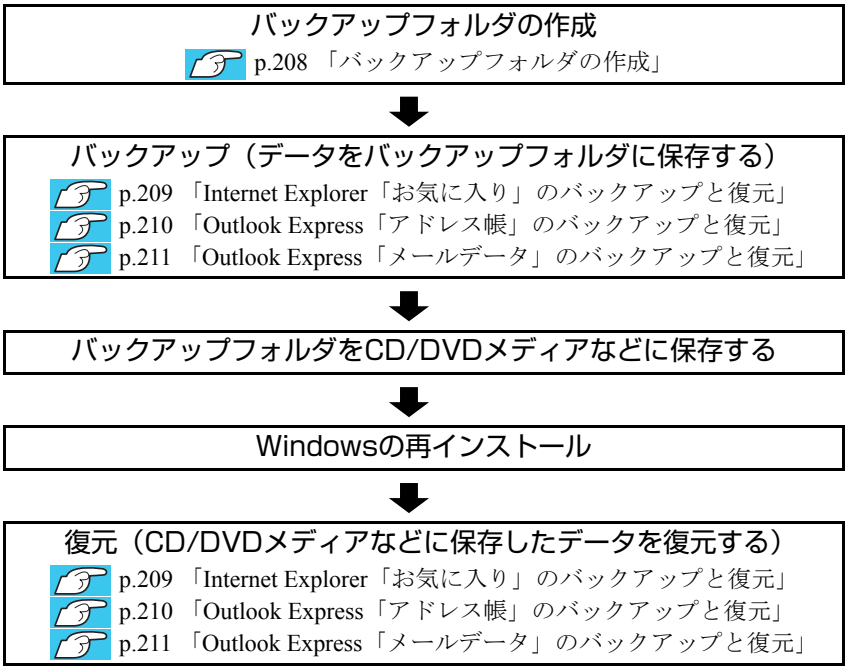
右回りに回してマウス本体に装着します。

マウスボールの着脱を必要以上に繰り返さないでください。故障の原因となります。

データのバックアップ方法

ここでは、データのバックアップと復元方法について説明します。
Windowsの再インストールを行うと、HDDに保存されているデータは消去されます。必要なデータはWindowsの再インストールを行う前にバックアップを取っておいてください。

バックアップから復元までの流れは次のとおりです。



バックアップフォルダの作成

はじめにバックアップデータを保存するためのフォルダを作成します。バックアップデータはここで作成したフォルダにいったん保存し、その後、CD/DVDメディアなどに書き込んで保存します。
バックアップフォルダの作成方法は次のとおりです。

1 フォルダを作成したい場所（デスクトップ上など）で右クリックし、「新規作成」－「フォルダ」をクリックします。
「新しいフォルダ」が作成されます。

2 「新しいフォルダ」の名前を「バックアップ」などに変更します。

▶Internet Explorer「お気に入り」のバックアップと復元

Internet Explorerの「お気に入り」のバックアップおよび復元方法は次のとおりです。

バックアップ

1 Internet Explorerを起動します。

2 ［ファイル］－［インポートおよびエクスポート］を選択します。

3 「インポート/エクスポート ウィザードへようこそ」と表示されたら、［次へ］をクリックします。

4 「インポート/エクスポートの選択」と表示されたら、「お気に入りのエクスポート」を選択して、［次へ］をクリックします。

5 「お気に入りのエクスポート元のフォルダ」と表示されたら、「Favorites」が選択されていることを確認して、［次へ］をクリックします。

6 「お気に入りのエクスポート先」と表示されたら、「ファイルまたはアドレスにエクスポートする」にチェックが付いていることを確認します。

7 テキストボックスに作成したバックアップフォルダの場所を入力し、［次へ］をクリックします。
保存するファイルの拡張子は「htm」とします。

8 「インポート/エクスポート ウィザードの完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。

9 「お気に入りのエクスポートに成功しました」と表示されたら、［OK］をクリックします。
バックアップフォルダは、CD/DVDメディアなどに保存してください。

復元

1 Internet Explorer を起動します。

2 ［ファイル］－［インポートおよびエクスポート］を選択します。

3 「インポート/エクスポート ウィザードへようこそ」と表示されたら、［次へ］をクリックします。

4 「インポート/エクスポートの選択」と表示されたら、［お気に入りのインポート］を選択して、［次へ］をクリックします。

5 「お気に入りのインポート元」と表示されたら、「ファイルまたはアドレスからインポートする」にチェックが付いていることを確認します。

6 バックアップしたデータが保存されているメディアをセットし、テキストボックスにバックアップしたファイルの場所を入力して、［次へ］をクリックします。

7 「お気に入りのインポート先のフォルダ」と表示されたら、「Favorites」が選択されていることを確認して、［次へ］をクリックします。

8 「インポート/エクスポート ウィザードの完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。

9 「お気に入りのインポートに成功しました」と表示されたら、［OK］をクリックします。
これでバックアップした「お気に入り」の復元は完了です。

▶Outlook Express「アドレス帳」のバックアップと復元

Outlook Expressの「アドレス帳」のバックアップおよび復元方法は次のとおりです。

バックアップ

1 Outlook Expressを起動します。

2 ［ツール］－［アドレス帳］を選択します。

3 「アドレス帳」画面が表示されたら、［ファイル］－［エクスポート］－［アドレス帳］を選択します。

4 「エクスポートするアドレス帳ファイルの選択」画面が表示されたら、作成したバックアップフォルダの場所を選択します。

5 「ファイル名」ボックスに任意のファイル名を入力し、［保存］をクリックします。

6 「アドレス帳が次の場所にエクスポートされました。」と表示されたら、［OK］をクリックします。
バックアップフォルダは、CD/DVDメディアなどに保存してください。

復元

1 Outlook Expressを起動します。

2 ［ファイル］－［インポート］－［アドレス帳］を選択します。

3 「インポートするアドレス帳ファイルの選択」画面が表示されたら、バックアップしたデータが保存されているメディアをセットし、バックアップしたファイルを選択して、［開く］をクリックします。

4 「インポートは完了しました。」と表示されたら［OK］をクリックします。
これでバックアップしたアドレス帳の復元は完了です。

参考

バックアップしたアドレス帳の復元
複数のユーザーでOutlook Expressを使用している場合、複数のユーザーがログオンしている状態でアドレス帳の復元を行うと、ログオンしているユーザーすべてのアドレス帳にアドレスが登録されてしまいます。
1ユーザーのみがログオンしている状態で、アドレス帳のバックアップ、復元を行い、それをユーザーごとに繰り返せば、アドレス帳を分けることができます。

▶Outlook Express「メールデータ」のバックアップと復元

Outlook Expressの「メールデータ」のバックアップおよび復元方法は次のとおりです。

バックアップ

1 Outlook Expressを起動します。

2 メールデータが保存されているフォルダの場所を確認します。

(1) ［ツール］－［オプション］を選択します。
(2) 「オプション」画面が表示されたら、「メンテナンス」タブ－［保存フォルダ］をクリックします。
(3) 「保存場所」画面が表示されたら、テキストボックスに記述されたフォルダの場所を選択し、Ctrl＋C を押してコピーします。
(4) ［キャンセル］をクリックします。
(5) 「オプション」画面の［キャンセル］をクリックします。

3 Outlook Expressを終了します。

4 メールデータが保存されているフォルダを表示します。

(1) [スタート] − [ファイル名を指定して実行] を選択します。
(2) 「ファイル名を指定して実行」画面が表示されたら、手順2−（3）でコピーしたフォルダの場所を Ctrl + V を押して貼り付けます。
(3) [OK] をクリックします。
(4) 「Outlook Express」画面が表示されたら、[上へ] をクリックします。

5 「Microsoft」画面が表示されたら、「Outlook Express」フォルダを作成したバックアップフォルダにコピーします。

バックアップフォルダは、CD/DVDメディアなどに保存してください。

復元

1 Outlook Expressを起動します。

2 [ファイル] − [インポート] − [メッセージ] を選択します。

3 「プログラムの選択」と表示されたら、「Microsoft Outlook Express …」を選択して、[次へ] をクリックします。

4 「Outlook Express …からインポート」画面が表示されたら、「Outlook Express …ストアディレクトリからメールをインポートする」にチェックを付けて、[OK] をクリックします。

5 「メッセージの場所」と表示されたら、バックアップしたデータが保存されているメディアをセットし、データの場所を入力して [次へ] をクリックします。

6 「フォルダの選択」と表示されたら、「すべてのフォルダ」か、「選択されたフォルダ」のどちらかにチェックを付け、[次へ] をクリックします。

すべてのメールデータを復元したい場合は「すべてのフォルダ」、選択したデータのみ復元したい場合は「選択されたフォルダ」をクリックしてください。

7 「インポートの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。

これでバックアップしたメールデータの復元は完了です。

バックアップCDの作成

＜書き込み機能のあるCD/DVDドライブ搭載時＞
HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアのインストール用データは、CDメディアにバックアップすることができます。
HDDが故障したり、誤って消去禁止領域を削除したりすると、インストール用データは消えてしまいます。万一に備え、インストール用データをCDメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

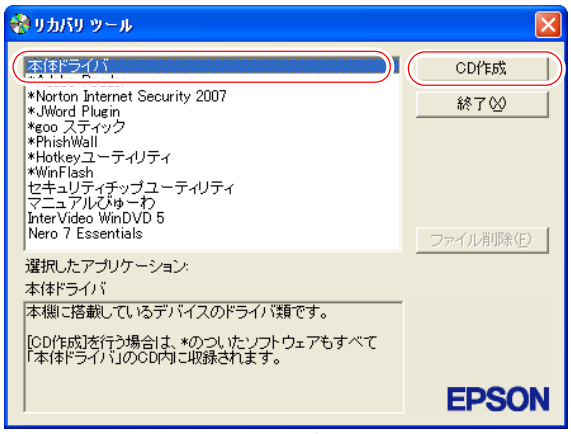
▶バックアップCDの作成方法

バックアップCDはリカバリツールを使用して作成します。
バックアップCDの作成方法は次のとおりです。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「リカバリツール」画面が表示されたら、［CD作成］をクリックします。**

3 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧からCDにバックアップしたい項目を選択して［CD作成］をクリックします。**
バックアップするデータが一時的にHDDにコピーされます。選択した項目によっては、手順4の画面が表示されるまでに数分時間がかかります。



＜イメージ＞

項目名の前に「＊」のついたソフトウェアは、すべて本体ドライバのCD内に収録されます。個々にCDを作成する必要はありません。それ以外の項目は、1項目につきCDメディアが1枚必要です。

4 **画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってCDに書き込みを行ってください。**

▶バックアップCDからインストールを行うには

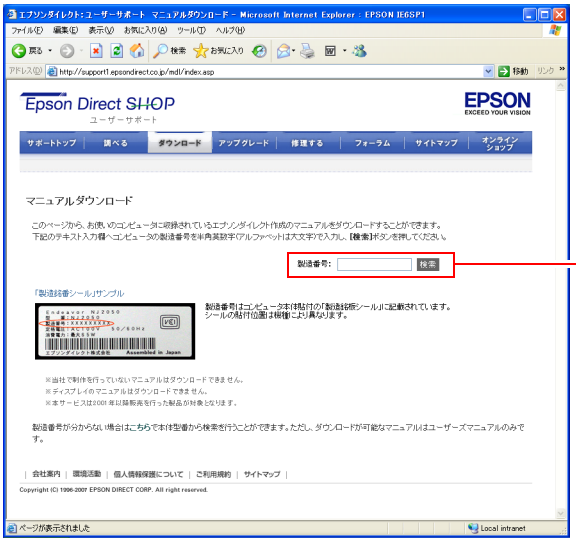
バックアップCDをCD/DVDドライブにセットすると、自動的に本体ドライバやソフトウェアのインストール画面が表示されます。
インストールを開始するには、画面に表示された一覧から、本体ドライバは「インストール」を、そのほかのソフトウェアはソフトウェア名をクリックします。
以降の手順は、p.155「ソフトウェアの再インストール」のそれぞれの項目をご覧ください。

電子マニュアルのダウンロード

本機や周辺機器に添付されている当社作成の電子マニュアル（PDF・HTMLなど）は、当社のユーザーサポートページからダウンロードできます。
紙マニュアルをなくしてしまった場合や、「マニュアルびゅーわ」を使用できない場合などにご利用ください。

電子マニュアルのダウンロードは次の場所から行います。

「インフォメーションメニュー」－「ユーザーサポートページ(web)」－「ダウンロード」－「マニュアル」



本機の製造番号を入力して［検索］をクリック

※ 画面の内容は予告なく変更する場合があります。

制限

ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、「マニュアルびゅーわ」上で見ることはできません。各マニュアルのファイルを開いてご覧ください。

ダウンロードできるそのほかのデータ

「ユーザーサポートページ」－「ダウンロード」からは、ほかにも次のデータをダウンロードできます。必要に応じてご利用ください。ダウンロードできるデータはお使いの機種により異なります。

- 最新のBIOS
- 各種ドライバやユーティリティ
- お問い合わせ情報
- 壁紙

など

セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化

本機では、セキュリティチップ（TPM）のセキュリティ機能を使用することにより、本機に保存されているデータや電子メールに対し、高度な暗号化をすることができます。

- セキュリティ機能を使用するには、いくつかのパスワードの設定が必要です。パスワードを忘れてしまった場合、それまでに暗号化したデータの復元ができなくなります。
- セキュリティ機能を使用する際は、十分に注意し、お客様の責任において暗号化を行ってください。
  セキュリティ機能の使用方法については、本機に添付の『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』をご覧ください。

セキュリティ機能を使い始めるまでの準備

セキュリティ機能を使用するための準備の前に、必ず、本機に添付の『セキュリティ機能設定ガイド』をご覧ください。
セキュリティ機能を使用するには、BIOSの設定を変更後、「セキュリティチップユーティリティ」のインストールが必要です。

● BIOSの設定

セキュリティ機能を使用するには、BIOSで次の項目の設定を「Enabled」に変更します。
「Boot」メニュー画面－「Security」－「TPM Function」－「TPM Device」

「Disabled」設定時　：　セキュリティ機能を使用しません。
「Enabled」設定時　：　セキュリティ機能を使用します。

購入時は、「Disabled」に設定されています。
p.146 「Advancedメニュー画面」

● セキュリティチップユーティリティのインストール

購入時、本機にセキュリティチップの設定を行うための「セキュリティチップユーティリティ」はインストールされていません。セキュリティ機能を使用するには、セキュリティチップユーティリティのインストールを行ってください。
インストール方法は、本機に添付の『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』をご覧ください。

HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成

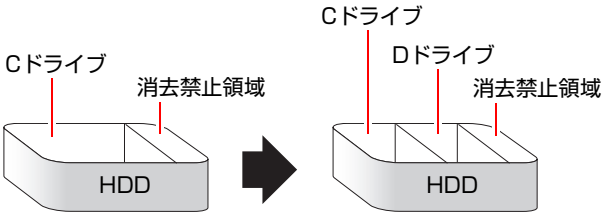
ここでは、HDD領域（ドライブ）を分割・変更して使用する方法について説明します。

▶HDD領域を分割して使用する（概要）

HDD領域（ドライブ）の分割

HDD領域は、いくつかに分割して、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。
HDDを分割した1つ1つを「HDD領域」または「パーティション」とも呼びます。
また、Windowsで使えるHDD領域が、「ドライブ」になります。

＜1台のHDDを分割する＞
例：1つのHDD領域（Cドライブ）を、2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割します。



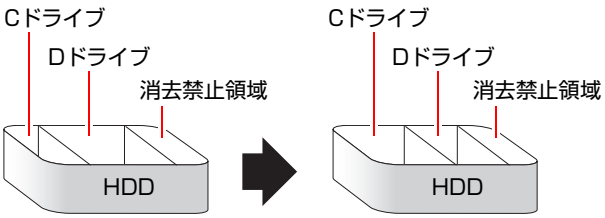
参考

消去禁止領域
消去禁止領域には本体ドライバやソフトウェアなどの再インストールのためのデータが登録されています。この領域を削除すると再インストールができなくなります。絶対に削除しないでください。

HDD領域（ドライブ）のサイズの変更

すでに分割されているHDD領域のサイズ（容量）を変更することもできます。

＜ドライブのサイズを変更する＞
例：Cドライブのサイズを大きくします。



この場合は、CドライブとDドライブを削除して、分割しなおす必要があります。

▶Cドライブを分割・変更する

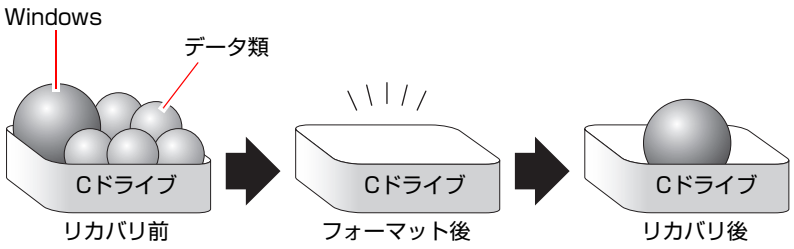
Cドライブ分割のメリットとデメリット

Cドライブを分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。
Cドライブを分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

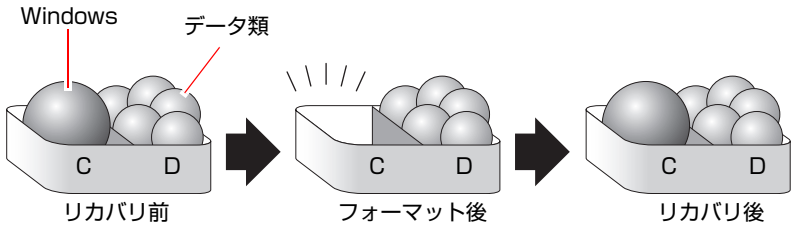
● メリット

HDD領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、リカバリ時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

＜HDD領域が1つの場合＞



＜HDD領域を分割した場合＞



たとえば、WindowsやアプリケーションはCドライブに、作成したデータなどはDドライブに保存しておきます。

この状態でリカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、消去されるのはCドライブのみとなるため、Dドライブのデータは、リカバリ後、すぐにそのまま使用することができます。

制限

HDD 領域を分割した HDD のリカバリをする場合は、万一に備えて D ドライブの重要なデータをバックアップしてください。

● デメリット

- Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割を行うには、リカバリ（Windowsの再インストール）が必要です。
- HDD 領域を変更すると、変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD 領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。

Cドライブの分割・変更の流れ

Cドライブの分割・変更は、リカバリ（Windowsの再インストール）中に行います。サイズ（容量）を変更するには、まず変更するドライブを削除してからサイズを指定して再作成します。

Cドライブ以外のドライブの変更方法は、p.221 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。

制限

ドライブを分割・変更すると、分割・変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。

Cドライブの分割・変更の流れは次のとおりです。

Windowsインストール中に、Cドライブを削除して「未使用の領域」にする

↓

必要に応じてCドライブ以外のドライブを削除する
Cドライブの容量を増やしたい場合は、ほかのドライブを削除して「未使用の領域」を増やします。

↓

未使用の領域に新しい容量を指定して、Cドライブを作成する

↓

Windowsのインストールを完了させる

↓

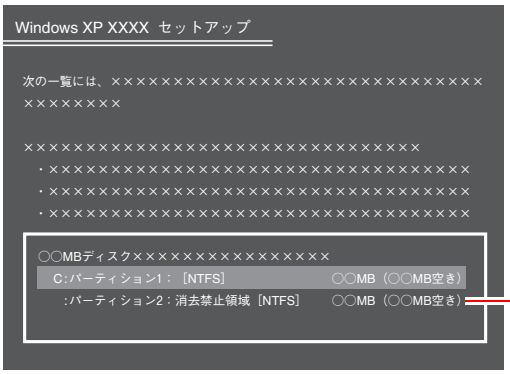
「ディスクの管理」で「未使用の領域」にドライブを作成する
Cドライブ作成後に残っている「未使用の領域」をドライブにします。
p.221 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

Cドライブを分割・変更する

Cドライブの分割・変更をする場合はWindowsのインストールが必要です。p.161「Windows XPをインストールする」の手順5～7を、次の手順に読み替えてWindowsのインストールを行ってください。

＜p.161 「Windows XPのインストール」の手順5～7の読み替え＞

1 **「次の一覧には、このコンピュータ上の・・・」と表示されたらCドライブを選択し、D（削除）を押します。**



「消去禁止領域」を、誤って削除しないでください。

一覧に表示されている「消去禁止領域」は本体ドライバやソフトウェアの再インストールに使用する領域です。絶対に削除しないでください。

2 **「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、↵を押します。**

3 **「○○MBディスク××から次のパーティションを削除します。…」と表示されたらLを押します。**

ドライブが未使用の領域になります。

4 **「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。**

＜Cドライブを分割したい場合＞

(1) 「未使用の領域」を選択してCを押します。

手順5に進みます。

＜Cドライブの容量を増やしたい場合＞

(1) 「D」や「E」などのパーティション（ドライブ）を選択してD（削除）を押します。

(2) 手順2、3を実行します。

選択したパーティションが「未使用の領域」になります。

(3) 「未使用の領域」を選択してCを押します。

手順5に進みます。

5 **Cドライブの容量を決めます。「○○MBディスク××に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ（MB）」に表示されている数字を[Back space]で削除し、任意の数値を入力して[↵]を押します。**

Cドライブには、最低でも3GB（3000MB）を割り当てることをおすすめします。

6 **「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、「C：パーティション1（未フォーマット）」を選択して[↵]を押します。**

未使用の領域は、ここではフォーマットできません。インストール後「ディスク管理」で行います。

7 **「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して[↵]を押します。**

p.161 「Windows XPのインストール」の手順8に進みます。

Windowsのインストールが完成したら、「ディスクの管理」で未使用の領域をドライブにします。

▶Cドライブ以外のドライブを作成・変更する

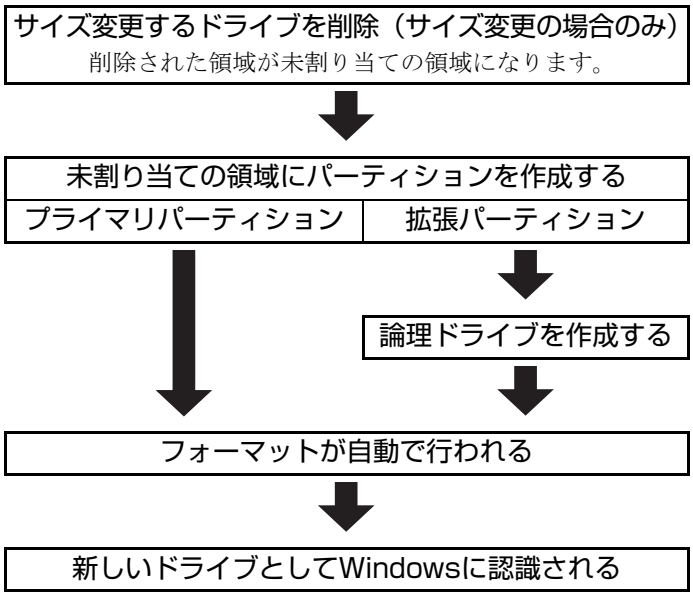
ここでは、Cドライブ以外のドライブ（Dドライブなど）を作成・変更する方法について説明します。
次のような場合にご覧ください。

- Dドライブ以降のドライブのサイズを変更する場合。
- Windowsの再インストール中にCドライブを分割して作成された「未使用の領域」をドライブにして使用する場合。

Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割・変更を行う場合は、p.218「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

ドライブ作成・変更の流れ

ドライブの作成・変更は、Windowsの「ディスクの管理」で行います。
ドライブの作成の流れは次のとおりです。



HDD内の「未割り当ての領域（未使用の領域）」にパーティションを作成すると、パーティションは、Windows上でドライブ（DやEなど）として利用できるようになります。

ドライブの作成方法は、p.223 「HDD領域（パーティション）の作成手順」をご覧ください。
ドライブの削除方法は、p.226 「Cドライブ以外のドライブを削除する」をご覧ください。

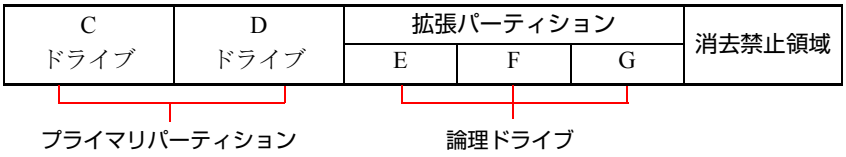
参考

パーティションとは

- Windowsの「ディスクの管理」では、HDD領域のことを「パーティション」と呼びます。パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。
- 1つのHDDに作成できるパーティションは最大で4つです。
  そのうち拡張パーティションは、最大で1つです。また、消去禁止領域もパーティションの1つです。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

プライマリパーティション、拡張パーティションを組み合わせて作成すると、次のように1つのHDDに新しいドライブを5つ以上作成することもできます。

<パーティションの組み合わせの例>

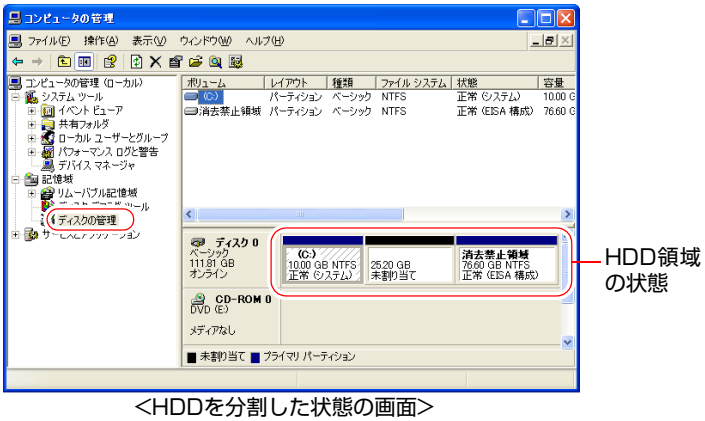


HDD領域（パーティション）の作成手順

HDD領域を作成する手順は、次のとおりです。ここでは拡張パーティションの作成方法を説明します。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」をダブルクリックします。**

2 **「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左下の「ディスクの管理」をクリックします。画面右下のウィンドウにHDD領域の状態が表示されます。**



<HDDを分割した状態の画面>

3 **パーティションを設定したい「未割り当て」の領域を右クリックして、表示されたメニューから「新しいパーティション」をクリックします。**

4 **「新しいパーティションウィザード」画面が表示されたら、［次へ］をクリックします。**

5 **「パーティションの種類を選択」と表示されたら、「拡張パーティション」を選択して［次へ］をクリックします。**

プライマリパーティションを選択した場合は、手順6の次にp.225「論理ドライブの作成」の手順5に移ります。

6 **「パーティションサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して［次へ］をクリックします。**

7 **「新しいパーティションウィザードの完了」と表示されます。［完了］をクリックします。**

拡張パーティションを作成した領域は、「空き領域」として表示されます。続いて「空き領域」に論理ドライブを作成します。

論理ドライブの作成

拡張パーティション内に論理ドライブを作成する手順は、次のとおりです。

1 **「空き領域」を右クリックして、表示されたメニューから「新しい論理ドライブ」をクリックします。**

2 **「新しいパーティションウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。**

3 **「パーティションの種類を選択」と表示されたら、「論理ドライブ」が選択された状態で、[次へ] をクリックします。**

4 **「パーティションサイズの指定」と表示されたら、「パーティションサイズ」に任意の値を入力して [次へ] をクリックします。**

複数の論理ドライブを作成する場合は、画面に表示されている「最大ディスク領域」以下の値を入力します。

5 **「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、「次のドライブ文字を割り当てる」に任意のドライブレターを選択して、[次へ] をクリックします。**

「ドライブレター」は、ドライブの識別記号になります。

6 **「パーティションのフォーマット」と表示されたら、「このパーティションを以下の設定でフォーマットする」が選択された状態で [次へ] をクリックします。**

表示されている設定値を変更する必要はありません。

7 **「新しいパーティションウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。**

8 **[完了] をクリックすると自動的にフォーマットが行われます。**

フォーマットが終了すると論理ドライブの作成は終了です。
複数の論理ドライブを作成する場合は、手順1～8の作業を繰り返します。

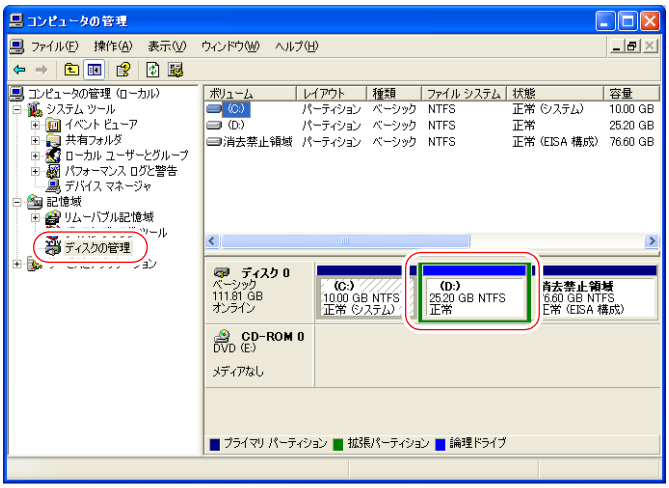
▶Cドライブ以外のドライブを削除する

Cドライブ以外のドライブ（Dドライブなど）のサイズを変更するには、変更するドライブを削除してから、作成しなおします。
ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。ドライブ内の重要なデータは、CドライブやCD-Rメディアなどにあらかじめバックアップを行ってください。

ドライブを削除する手順は、次のとおりです。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」をダブルクリックします。**

2 **「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左下の「ディスクの管理」をクリックします。**



3 **削除したいドライブ（パーティション）の領域を右クリックして、表示されたメニューから「論理ドライブの削除」または「パーティションの削除」をクリックします。**

4 **「・・・続行しますか？」と表示されたら［はい］をクリックします。**

論理ドライブを削除すると、「空き領域」になります。空き領域をパーティションとして使用したい場合は、パーティションの作成を行います。

p.223 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、メインボード上のリチウム電池により保持されます。
本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

- CR2032

リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況によって異なりますが、寿命は約3年です。
リチウム電池の残量が少なくなると情報を保持できなくなり、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した値が何もしないのに変わってしまいます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。

警告

- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- コンセントに電源プラグを接続したままで作業をしないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。

注意

- 内蔵リチウム電池の交換は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

制限

- リチウム電池の交換を行うと、現在のBIOSの設定情報は初期値に戻ります。リチウム電池の交換を行う前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。
- 本機の電源を切っていても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電気が流れています。作業を始める前に、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

リチウム電池を交換する手順は、次のとおりです。

1 **本体カバーを取り外します。**

p.119 「本体カバーの取り外しと取り付け」ー「取り外し」

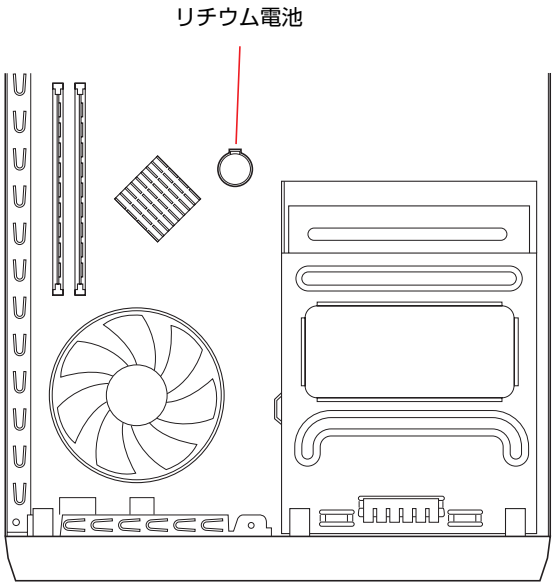
2 **本体を横置きにします。**

3 **リンクバーを取り外します。**

p.123 「拡張ボードの取り付け・取り外し」ー「取り付け」手順2

4 **リチウム電池の位置を確認します。**

リチウム電池は、メインボード上の次の位置にあります。

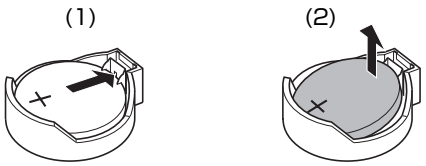


本体前面側

5 **リチウム電池を抜きます。**

(1) 電池ホルダの留め金を押します（電池ホルダの形状は、機種により異なる場合があります）。

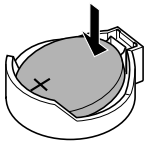
(2) リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。



6 **新しいリチウム電池を取り付けます。**

刻印面（＋側）が上側にくるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。

正しく取り付けられると、「カチッ」と音が鳴ります。



7 **リンクバーを取り付けます。**

p.123 「拡張ボードの取り付け・取り外し」－「取り付け」手順6

8 **本体カバーを取り付けます。**

p.119 「本体カバーの取り外しと取り付け」－「取り付け」

9 **コンピュータの電源を入れます。**

10 **「EPSON」と表示後、黒い画面の下部に「CMOS Settings Wrong」と表示されたら、F1を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。**

p.135 「BIOS Setupユーティリティの操作」

11 **「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」を実行します。**

p.139 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」

12 **日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。**

13 **「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。**

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常は、CMOS RAMを初期化する必要はありません。しかし「BIOS Setupユーティリティ」で設定したパスワードを忘れたり、BIOSの設定を誤ったりして、本機が起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になります。

- コンセントに電源プラグを接続したままで作業をしないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。

- CMOS RAMの初期化は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

- CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報は初期値に戻ります。CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。
  p.152 「BIOSの設定値」
- BIOSで管理者パスワードを設定し、HDDのアクセスを制限していた場合、CMOS RAMの初期化を行っても、HDDへのアクセス制限を解除することはできません。HDDへのアクセス制限を設定したHDDは、管理者パスワードを忘れると使用できなくなります。
  p.140 「Passwordの設定」－「アクセス制限の設定」－「HDDへのアクセス制限」
- 本機の電源を切っていても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電気が流れています。作業を始める前に、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

CMOS RAMの初期化の手順は、次のとおりです。

1 **本体カバーを取り外します。**

p.119 「本体カバーの取り外しと取り付け」－「取り外し」

2 **本体を横置きにします。**

3 **リンクバーを取り外します。**

p.123 「拡張ボードの取り付け・取り外し」－「取り付け」手順2

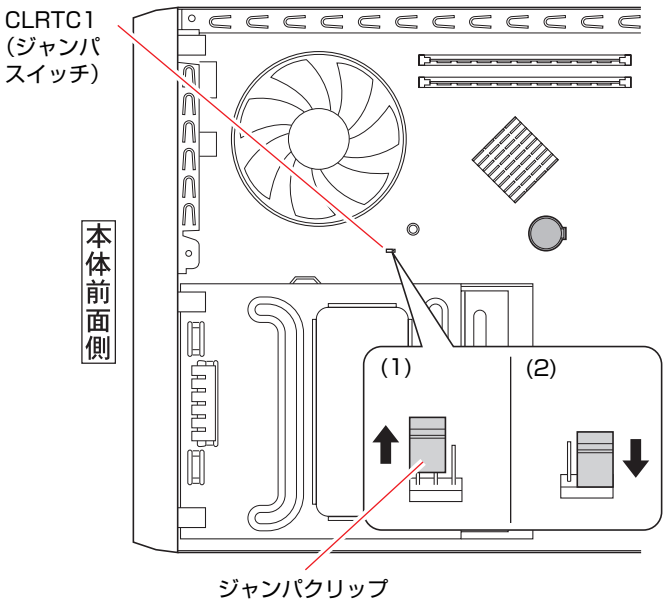
4 **リチウム電池を取り外します。**

p.227 「リチウム電池の交換」手順5～6

5 **メインボード上のジャンパスイッチ（CLRTC1）で、ジャンパクリップの位置を変更します。**

ジャンパクリップを抜き差しする際は、メインボードにキズを付けないように注意してください。

(1) 本体前面側から見て手前の２本のピンにジャンパクリップが差し込まれています。このジャンパクリップを抜き取ります。
(2) ジャンパクリップを本体前面側から見て奥の2本のピンに差し込みます。



6 **そのまま5秒以上、放置します。**

7 **ジャンパスイッチ（CLRTC1）の設定を元に戻します。**

ジャンパクリップを本体前面側から見て手前の2本のピンに差し込みなおします。

8 **リチウム電池を取り付けます。**

p.227 「リチウム電池の交換」手順7

9 **リンクバーを取り付けます。**

p.123 「拡張ボードの取り付け・取り外し」－「取り付け」手順6

10 **本体カバーを取り付けます。**

p.119 「本体カバーの取り外しと取り付け」－「取り付け」

11 **コンピュータの電源を入れます。**

12 「EPSON」と表示後、黒い画面の下部に「CMOS Settings Wrong」と表示されたら、F1を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。

p.135 「BIOS Setupユーティリティの操作」

13 「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」を実行します。

p.139 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」

14 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。

15 「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

機能仕様一覧

CPU	プロセッサ	インテル Celeronプロセッサ、インテルCeleron Dプロセッサ、インテルPentium4プロセッサ、インテルPentium Dプロセッサ、インテルPentium Dualプロセッサ、インテル Core 2 Duoプロセッサのいずれか
	ソケット	LGA 775 Socket
チップセット		ATI Radeon® Xpress 200（RC410+IXP450）
BIOS		AMI BIOS
セキュリティチップ（TPM）	対応規格	TPM 1.2
	コントローラ	Infineon SLD9635 TT1.2
メインメモリ		PC2-4200（DDR2-533 SDRAM）を使用して最大2GBまで搭載可能
ビデオ	メモリ	メインメモリより32MB（購入時の設定）を使用
	コントローラ	チップセット内蔵
サウンドコントローラ		ハイデフィニションオーディオ対応 Analog Devices製 AD 1986A CODEC
記憶装置	HDD	S-ATA150対応HDD1基内蔵
	CD/DVDドライブ	購入時の仕様により異なります。
	FDDまたはマルチカードリーダ	オプション選択された場合、3.5型FDD 、またはマルチカードリーダを1基内蔵
インタフェース	USB	4：USB2.0（前面×2、背面×2）
	LAN	1：RJ-45 10Base-T/100Base-TX対応 自動認識
	サウンド	前面側：ヘッドフォン出力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1 背面側：ライン出力コネクタ×1、ライン入力コネクタ×1
	ディスプレイ	1：VGAコネクタ（アナログRGB ミニD-SUB 15ピン） 1：DVI-Dコネクタ（デジタル DVI-D24ピン）
	キーボード	1：IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン
	マウス	1：IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン
	パラレル	1：セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPPサポート
	シリアル	1：RS-232C準拠D-SUB 9ピン
ドライブベイ	5.25 型ドライブベイ	1：CD/DVDドライブ装着済み
	HDD ドライブベイ	2：S-ATA HDDで1ベイ、オプションのFDDまたはマルチカードリーダで1ベイ装着済み
外部拡張スロット		2：PCI ボード長178mm×ボード幅108mmまで装着可能
キーボード		日本語対応109PS/2キーボード
マウス		ホイール付PS/2マウス
カレンダ時計内蔵		内蔵電池によりバックアップ
電源容量		250W
入力電圧		AC100V±10%　50/60 Hz
温湿度条件		温度：10～35℃　湿度：20～80%（ただし、結露しないこと）
外形寸法（縦置き時）		本体：約99（幅）×383（奥行）×310（高さ）mm （突起部、縦置きスタンド除く）
質量		本体：約8.1kg　最小構成時（オプションなし）
消費電力		357W（最大）/3.8W（スタンバイ時）/3.8W（電源オフ時）

用語集

本書で使用している用語やコンピュータに関する基本的な用語を簡単に解説します。詳細については、市販の書籍などを利用してください。

● **ACPI**
Advanced Configuration and Power Interfaceの略。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

● **ADSL**
Asymmetric Digital Subscriber Line（非対称デジタル加入者線）の略で、一般の電話回線を利用した高速通信サービスです。電話中でもインターネット接続ができ、高速通信が可能なうえ、月々の料金も定額になっています。ブロードバンドの接続方法の1つです。

● **AGP**
Advanced Graphics Portの略。CPUとビデオチップを接続するための拡張ポート。PCIバスのデータ転送方法を最大限に残し、ビデオ関係の性能を強化しています。

● **BIOS（バイオス）**
Basic Input Output Systemの略。コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたもの。コンピュータ内部にROMで提供されています。またBIOS Setupユーティリティで設定する内容を含める場合もあります。
類義語　CMOS RAM

● **BIOS Setupユーティリティ**
コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラム。BIOSとセットでROMで提供されています。BIOSSetupユーティリティで設定した値はCMOSRAMに保存されます。

● **Boot（ブート）**
コンピュータの電源を入れてコンピュータを使用できる状態にすることです。「起動する」とも言います。

● **CD-ROM**
データ、音楽、画像などが登録されている読み込み専用メディアです。書き込みをすることはできません。

● **CD-R**
最大700MBの容量を持ち、データなどを1度だけ書き込むことが可能なメディアです。書き込まれたデータなどを消去したり、移動したりすることはできません。ただし、マルチセッションという方法により、CD-Rメディアに空き容量があれば、繰り返し追記することができます。

● **CD-RW**
最大700MBの容量を持ち、書き換え可能なメディアです。書き込んだデータをフォーマットすることで、繰り返し書き込みが行えます。

● **CPU**
Central Processing Unitの略。コンピュータの処理の中心を担う頭脳のようなものです。

● **DDR SDRAM**
「DDR」とは、「Double Data Rate」の略で、従来のSDRAMよりもデータ転送が2倍速くなります。

● **DMAチャネル**
DMAでデータを転送する場合の通り道のこと。複数のDMA転送を行う装置が接続されている場合には、別々のチャネルを使用するように設定する必要があります。

● **DMA転送**
Direct Memory Accessの略。CPUを介さずに、周辺装置とメモリ間で直接データ転送を行うことです。

● **DRAM（ディーラム）**
メモリの種類。Dynamic Random Access Memoryの略。コンピュータで最も一般的に使用されるメモリです。
メインメモリには、DRAMが使用されます。コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。

● **DVD-ROM**
CD-ROMより大容量のデータ、音楽、画像などが登録されている読み込み専用メディアです。書き込みをすることはできません。

● **DVD+R、DVD-R**
最大4.7GBの容量を持ち、データなどを1度だけ書き込むことが可能なメディアです。マルチセッションという方法により、空き容量があれば、繰り返し追記することができます。

● **DVD+R DL、DVD-R DL**
書き込むための層が2層になっているため、最大8.5GBの容量を持ち、データなどを1度だけ書き込むことが可能なメディアです。マルチセッションという方法により、空き容量があれば、繰り返し追記することができます。

● **DVD+RW、DVD-RW**
最大4.7GBの容量を持ち、書き換えが可能なメディアです。大容量のデータの保存や、DVD VIDEO形式でオリジナルDVD VIDEOを作成することができます。メディアをフォーマットすることにより、繰り返し書き込みが行えます。

● **DVD-RAM**
片面タイプは最大4.7GB、両面タイプは最大9.4GBの容量を持ち、フォーマットすることで、繰り返し書き込みが可能なメディアです。大容量のデータの保存や、DVD VIDEO形式でオリジナルDVDを作成することができます。
両面タイプは、表面、裏面を入れ替えることにより、ほかのDVDメディアに比べ、2倍の9.4GBのデータを読み書きできます。

● **DVI**
デジタルディスプレイを接続するためのインタフェースのことです。DVI-Dはデジタル専用、DVI-Iはアナログ/デジタル両用のインタフェースです。

● **FAT32ファイルシステム**
Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報（File Allocation Table）を32ビットに拡張したファイルシステム。2GB以上のディスク容量を１つのドライブとして使用することができます。

● **FTTH（光ファイバー）**
Fiber To The Home（家庭向け光ファイバー）の略で、光ファイバーを利用した超高速通信サービスです。電話中でもインターネット接続ができ、高速通信が可能なうえ、月々の料金も定額になっています。ブロードバンドの接続方法の1つです。

● **HDD領域**
HDDの容量を用途に合わせて確保したスペースのことで、パーティションとも呼びます。HDD1台にHDD領域は複数作成することができ、それぞれドライブとして利用できます。

● **I/Oポート（Input/Outputポート）**
CPUとデバイスの間でデータをやり取りするポートです。

● **IDE**
Integrated Device Electronicsの略。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法（インタフェース）を定めた規格の一種です。

● **IEEE1394**
コンピュータと周辺機器をシリアル通信で接続するための規格のこと。USBインタフェースより、データ転送速度が速く、大容量のデータ転送も可能です。

● **IRQ**
Interrupt Requestの略。周辺装置からCPUに対して処理を依頼するための信号。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張カードなどで使用されます。

● **IRQ番号**
コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0～IRQ15の16種類が用意されています。

● **ISDN**
NTTが提供する高速デジタル回線のこと。普通の電話回線よりもデータを高速で送信できるので、コンピュータ間のデータを送受信などに多く使用されています。また、ISDNを導入することにより、1本で2回線分を使用することができます。

● **LAN**
Local Area Networkの略で、会社内や学校内など比較的限られたエリア内のコンピュータ同士をつなげた状態のことです。

● **Low Profile**
省スペース型PC向けの小型PCIカードの規格。幅が64.4mmまで、奥行が119.9mm（MD1）/167.6mm（MD2）までのもの。

● **MIDI**
演奏データをやり取りするためのインタフェース、または規格のことです。現在では、多くの電子楽器がMIDI規格の端子を装備しています。

● **NTFS**
NTFSは、FATファイルシステムに比べて信頼性が高く、セキュリティに優れています。障害が発生したファイルの構造を復旧したり、ユーザーやグループごとにアクセス権を設定することができます。

● **OS（オーエス）**
Operating System（オペレーティングシステム）の略。コンピュータ全体を管理するソフトウェアで、Windows XPなどのことです。

● **PCI Express**
PCI、AGPの後継となるバス規格。従来のPCIのようなパラレル転送ではなく、高速なシリアル転送となります。インタフェースとしての最小構成を1レーン（x 1）と呼びますが、レーンをまとめて利用し、帯域を拡張することが可能です。たとえば、16レーン対応のスロットに1レーンや8レーンなど、レーン数の少ない拡張カードを挿入することもできます。ホットプラグに対応しています。

● **PCIバス**
拡張バスの一種。一般的に採用されている拡張バス。ISA拡張バスに比べて高速、プラグアンドプレイに対応など多くのメリットがあります。高速性を要求される拡張カードに使用されます。

● RAM
Random Access Memoryの略。RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます。主に、DRAMはメインメモリに、SRAMはキャッシュメモリに使われています。

● ROM
Read Only Memoryの略。読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持し続けます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

● RS232C
シリアルインタフェースとして採用されている規格のことです。外付けモデムやTA（ターミナルアダプタ）などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

● SCSI
Small Computer System Interfaceの略で、コンピュータと周辺機器のデータの入出力方法（インタフェース）を定めた規格の一種です。よく使用されるものとして大容量HDD、MOドライブ、スキャナなどがあります。

● SDRAM
外部バスインタフェースが、一定周期のクロック信号に同期して動作するように改良されたDRAMです。

● Serial ATA
Ultra ATAなどの従来のATA仕様で採用されていたパラレル転送方式をシリアル転送方式に変更したもの。1.5Gbpsの超高速データ通信が可能です。

● S/P DIF
Sony Philips Digital InterFaceの略。デジタル信号に変換された音声データをやり取りするためのインタフェースのことです。

● SXGA
Super eXtended Graphics Arrayの略。ディスプレイの表示能力を示す名称で、1280×1024ピクセルの解像度のこと。「Super-XGA」と表記されることもあります。

● TA（ターミナルアダプタ）
コンピュータ、モデム、電話機やFAXなど、本来ISDN対応機能を持たない通信機器をISDN回線に接続するためのアダプタのことです。

● Ultra ATA /100
IDEインタフェース上において最大100MB/ sでデータを転送できるデータ入出力方法のことです。

● URL（ユーアールエル）
Uniform Rescource Locatorの略。インターネット上の情報資源（文書や画像など）の場所を示す記述方式で、インターネットのアドレスのことです。

● USB
Universal Serial Busの略。周辺機器をシリアル通信で接続するための規格。USB対応機器を接続します。USB2.0はUSB1.1と完全互換ですが、USB2.0の動作速度で動作するには、コンピュータ、周辺機器の両方がUSB2.0に対応している必要があります。

● **VGA**
Video Graphics Arrayの略。640×480ピクセル、16色を表示するDOS/V機の基本的なビデオ表示機能です。
Windowsなどで高解像度表示が可能なコンピュータでも起動時には必ずこのモードで表示されます。
VGAコネクタは、アナログディスプレイを接続するためのインタフェースです。

● **WXGA**
Wide eXtend Graphic Arrayの略。ディスプレイの表示能力を示す名称で、ワイドディスプレイ対応の解像度のことを言います。

● **XGA**
eXtend Graphic Arrayの略。ディスプレイの表示能力を示す名称で、1024×768ピクセルの解像度のこと。解像度が高いほど、画像に多くの情報を表示することができます。

● **アカウント**
ネットワーク上で利用者を識別するための名前（記号や番号）のことです。

● **アクセス**
データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。

● **アクセスポイント**
インターネットに接続するために、プロバイダが用意している電話番号のことです。

● **アクセスランプ**
HDDやFDD、CD/DVDドライブにアクセスしていることを示すランプのことです。

● **アップロード**
手元のコンピュータにあるデータを、通信回線を利用して、遠隔地のコンピュータに転送することです。

● **アドレス**
メモリやI/Oポートに付けられた番地（場所）のことです。一般的に16進数で示されます。

● **アプリケーションソフト**
プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算などのようにユーザーが作業目的に応じて使うソフトウェアのことです。

● **インストール**
ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

● **インタフェース**
コンピュータと周辺装置の間でデータを入出力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

● **ウイルス**
コンピュータウイルスと呼ばれ、第三者による悪質なプログラムのことを言います。ウイルスには、データを削除したりするもの、メールを介して第三者にデータを送信したりするものなど、さまざまな種類があります。コンピュータがウイルスに感染してしまった場合は、ウイルス対策ソフトウェアで検索・駆除する必要があります。

● **オフライン**
コンピュータがネットワークとつながっていない状態のことです。オンラインの反対語として用いられています。

● **オンライン**
他のコンピュータとつながっている状態や、電話回線でインターネットに接続している状態などのことです。オンライン・ショッピングなどの表現で、幅広く用いられています。

● **解像度**
画面表示の細かさのことです。

● **外部キャッシュメモリ**
CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。
類義語キャッシュ RAM、L2キャッシュ、2次キャッシュ

● **拡張スロット**
拡張ボードを装着するためのスロットです。拡張ボードには、AGP用拡張ボード、ISAバス用拡張ボード、PCIバス用拡張ボードなどがあります。

● **カーソル**
文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

● **起動する**
コンピュータの電源スイッチを入れて、コンピュータを使用できる状態にすることを「起動する」と言います。
類義語　立ち上げる。

● **キャッシュ処理、キャッシュ機能**
一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

● **コマンド**
コンピュータに与える命令です。命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

● **サーバ**
ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

● **システム**
コンピュータ（ハードウェア）、OS、アプリケーションソフト（ソフトウェア）など全体のことを示します。

● **ジャンパスイッチ**
コンピュータの機能を制御する基板上の小さなスイッチのことです。ジャンパスイッチの設定はジャンパクリップと呼ばれる部品を差し替えて変更します。

● **シリアルポート**
シリアルインタフェース規格にのっとった周辺機器を接続するためのポート。外付けモデムやT A（ターミナルアダプタ）などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

● **スパムメール**
広告メールや悪質なメールなど、一般的に迷惑メールのことを言います。近年では、プロバイダやソフトウェアで受信拒否などをすることができます。

● **ダイヤルアップ接続**
モデムを用い、電話回線を通じて離れた場所にある別のコンピュータに接続することです。主に、インターネットを利用するために、プロバイダに接続することを言います。

● **ダウンロード**
遠隔地のコンピュータのデータなどを、通信回線を利用して、手元のコンピュータに転送することです。

● **ディザリング**
複数の画素を組み合わせて、１つの画素とみなすことにより、人間に中間色のように見せかける方法のことです。

● **ディスプレイ**
表示装置のことです。ディスプレイには、CRTや液晶などの種類があります。
類義語　モニタ

● **ドット**
表示画面のひとつひとつの点の単位です。

● **ドライブレター**
FDD、HDDやCD/DVDドライブに割り当てるアルファベットの１文字のことです。基本的にHDDが1基搭載されている場合は、「A:」がFDD、「C:」がHDD、「D:」がCD/DVDドライブに割り当てられます。

● **内部キャッシュ**
CPUから周辺チップへのアクセスを減らし、高速処理をするためにCPU内部に設けられたキャッシュメモリのことです。演算用のデータなどを格納しておき、CPU内部で高速処理を行えるようにします。

● **ナローバンド**
電話回線や携帯電話・PHSからプロバイダのAP（アクセスポイント）へダイヤルアップ接続してインターネットへ接続する環境のことです。

● **ハイパー・スレッディングテクノロジ**
ハイパー・スレッディングテクノロジとは、Windowsに1つのCPUを仮想的に2つにみせることで、異なる2つの命令を快適に処理する機能のことです。

● **バス**
コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

● **パラメータ**
コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

● **パラレルポート**
パラレルインターフェース規格にのっとった周辺機器を接続するためのポート。主にプリンタを接続します。

● **ハングアップ**
コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

● **ヒートシンク**
放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のこと。CPUの発熱量は大きいため熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの（自然空冷）や放熱ファンを回す（強制空冷）のものがあります。

● **ピクセル**
表示画面のひとつひとつの点の単位です。

● **ビデオメモリ**
別名グラフィックスメモリ。ディスプレイに表示される内容を保持しているメモリのこと。画面の最大解像度や最大同時発色数はビデオメモリの容量に左右されます。メインメモリの一部をビデオメモリとして使用する機種もあります。

● **ファイアウォール**
インターネットなど、通信の制御をするシステムのことを言います。ネットワークやインターネットを介して第三者や悪質なプログラムがコンピュータにアクセスすることを阻止します。

● **ファイル**
コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

● **フィッシング**
フィッシングとは、金融機関などのメールやホームページを装い、ユーザーにログインIDやパスワードを入力させて個人情報を詐取する詐欺行為のことです。

● **物理ドライブ**
HDD1台や、CD/DVDドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

● **ブラウザ**
インターネットに接続したときに、ホームページを見るためのソフトウェアで、米ネットスケープ・コミュニケーションズ社の「NetScape」や、米マイクロソフト社の「Internet Explorer」などがあります。これらのソフトウェアでホームページを見ることを「ブラウジング」と言います。

● **プラグアンドプレイ**
取り付ける（Plug）だけで動作する（Play）こと。PnP、Plug and Playなどとも記載されます。拡張カードや周辺装置などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能のことです。

● **ブロードバンド**
FTTH（光ファイバー）やADSLおよびCATVでの接続方法でインターネットに接続する環境のことです。

● **プログラム**
コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。
類義語　ソフトウェア、アプリケーションソフト

● **プロトコル**
ネットワークで接続されたコンピュータ同士が、通信を行うための「手段」や「規格」のこと。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

● **ポート**
コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

● **ボリュームラベル**
HDDやFDにつけた名称のことです。

● **無線LAN**
LANケーブルを使わずに、電波などの無線で通信を行うLANのことです。

● **メッセージ**
コンピュータが、入力されたコマンドに対して出力する回答のこと。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

● **メインメモリ**
メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのこと。主記憶。コンピュータのメモリ容量と言えば、メインメモリの容量のことを示します。

● **メモリ**
実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

● **メモリチェック**
コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

● **モデム**
電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

● **リソース**
拡張カードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語のことです。
類義語　システム資源

● **リフレッシュレート**
ディスプレイの表示において、1秒間に何回画面を更新するかの値です。リフレッシュレート60Hzとは、1秒間に60回画面を更新することを意味します。リフレッシュレートが低いと画面のちらつきを感じますが、リフレッシュレートを高くすることで、画面のちらつきを感じなくさせることができます。

● **ログオン**
コンピュータシステムにアクセス可能な状態になることです。ログオン時には、ユーザーアカウントとパスワードの入力が求められます。「ログオン」とは逆に、コンピュータシステムの利用を終えて、接続を切り離すことを「ログオフ」と言います。
類義語　ログイン／ログアウト

● **論理ドライブ**
OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

索　引

数字

3.5型2DD 60
3.5型2HD 60
3.5型FDD 29

A

Administrator 43
Adobe Reader 26
　インストール 167
Advancedメニュー画面 146
ATI Radeon® Xpress 200 Chipset（RC410＋IXP450） 25

B

BIOS 134
　Password設定 140
BIOS Setupユーティリティ 135
　起動 135
　終了 143
　操作 136
BIOSの設定値 152
Bootメニュー画面 149

C

Caps Lock 58
CD/DVDドライブ 27
　アクセスランプ 27
　イジェクトホール 27
　イジェクトボタン 27
　使う 71
　不具合 192
CD/DVDメディア
　書き込み 77
CDメディア
　書き込み 77
　読み込み・再生 76
CMOS RAMの初期化 230
COAラベル 23
Cドライブ
　分割・変更する 218, 220
Cドライブ以外のドライブ
　削除する 226
　作成・変更する 221
Cドライブ分割
　デメリット 218
　メリット 218

D

DEP機能 112
DVD VIDEO再生ソフト 76
DVDメディア
　書き込み 77
　読み込み・再生 76
DVI-Dコネクタ 28, 35

E

Exitメニュー画面 151

F

FD
　フォーマット 62
FDD
　アクセスランプ 29
　イジェクトボタン 29
　使う 60
　不具合 190

G

gooスティック 26

H

HDD 69
　アクセスランプ 27

購入時の状態 69
消去禁止領域 70
不具合 191
HDD設定変更サービス 70
HDDに登録されているソフトウェア 25
HDD領域
サイズの変更 217
分割 217
分割して使用する 217
分割・変更・作成 217
変更 160
HDDを分割して使用する 70
Hyper Threading Technology 111, 146

I

InCD 79
Internet Explorer 99
起動時に表示されるページ 100
起動と終了(ブロードバンドの場合) 99
検索 100
使い方 99
見たいホームページを開く 100
文字のサイズを変更する 101
リンクしているページにジャンプする 100
「お気に入り」にページを登録する 100

J

JWord 101
JWord Plugin 26
インストール 169

L

LAN機能 91
LANケーブル 38, 91
LANコネクタ 28, 38

M

Mainメニュー画面 144
Microsoft .NET Framework 26
MS-IME 57

N

Nero 7 Essentials 26
インストール 169
使い方 78
NetBEUI 91
NetWareサーバ 91
Norton Internet Security 26, 97
NTFSファイルシステム 159
Num Lock 58

O

OS 17
Outlook Express 99
起動と終了(ブロードバンドの場合) 102
使い方 102

P

Passwordの設定 140
PCお役立ち情報 50
PhishWall 26
Power メニュー画面 148

S

S-ATA HDD 69
Scroll Lock 58
SDRAM 128
SDカードスロット 67
Serial ATA 69

U

USB
2.0コネクタ 27, 28
USB 装置の接続と取り外し 80
USB機器を使う 80

V

VGAコネクタ 28, 35

W

Wakeup On LAN 91
Windows 25
強制終了 54
終了 53
セットアップ 41, 43
Windows CD-ROM 51
Windows Media Player 89
Windows Media Player 10 26
Windows Update 46, 96
Windows XP
インストール 160, 161
セットアップ 44
Windows XPリカバリCD 157
Windowsキー 58
WinDVD 26, 76
インストール 169

あ

アース端子 39
アイコン 18
アウトルックエクスプレス 99
アクティベーション 45
アップグレードサービス 117
アップデート
Windows 96
アドミニストレーター 43
アドレス帳
バックアップ 210
復元 210
アドレスバー 100
アプリケーションキー 58
アプリケーションの強制終了 54

い

インストール
Adobe Reader 167
JWord Plugin 169
Nero 7 Essentials 169
Windows XP 160, 161
WinDVD 169
セキュリティソフトウェア 168
セキュリティチップユーティリティ 170, 216
本体ドライバ 165
マニュアルびゅーわ 168
リカバリツール 165
インストール時の不具合 184
インターネットエクスプローラ 99
インフォメーションメニュー 26, 49

お

お気に入り 100
バックアップ 209
復元 209
お手入れ 206
お問い合わせ情報ラベル 23
オペレーティングシステム 17
音量の調整 48

か

解像度 83
外部スピーカ 88

書き込み
CD/DVDメディア 77
拡張スロット 28, 116, 122
拡張パーティション 223
拡張ボード 122
増設に関する不具合 199
取り付け・取り外し 123
各部の名称と働き 27
カスタマイズ 20
カテゴリの表示 52
かなキーロック 57
かな入力 57
管理者 43
管理者パスワード
削除 142

き

キーボード 56
コネクタ 28
接続 36
不具合 186
キーロック表示ランプ 58
キーワード 100
起動順位の変更 149
機能キー 56
機能仕様一覧 233
休止状態 106
有効にする 107
強制終了 54
Windows 54
アプリケーション 54
強制的なメディアの取り出し 75
記録メディア 8

く

クラシック表示 52
クリック 41, 59

け

警告 101
警告メッセージ 203

こ

購入時のHDD領域 69
コピーコントロールCD 71
困ったときに 174
コントロールパネルの表示 52
コンパクトフラッシュスロット 67
コンピュータウイルス 95
コンピュータが起動できない場合 176
コンピュータの管理者 159
コンピュータ本体の不具合 181
コンピュータを購入時の状態にする 161
コンピュータ名 43

さ

再インストール 156
必要なメディア 157
再起動 54
再生
CDメディア 76
DVDメディア 76
音声 89
サウンド機能 87
サウンドドライバ 25
サウンドレコーダー 89
サポート情報検索 50
サポート・サービスのご案内 23, 174

し

システムの拡張 115
システムの復元 51, 201
周辺機器の増設に関する不具合 199
消去禁止領域 70, 157, 162, 217, 220, 223
省電力機能 51, 105
　実行方法 108
　不具合 185
　復帰方法 109
情報バー 50, 101
終了 53
使用・保管時の注意 7
初期設定ツール 46
初期値に戻す 139
シリアルコネクタ 28
シリアルコネクタ（オプション） 111

す

数値キー 56
スクロール 59
スタンバイ 106
スピードステップ機能 110
スマートメディアスロット 67
スロットカバー 123

せ

セーフモード 82, 201
セキュリティ機能 216
セキュリティ機能（TPM） 216
セキュリティソフトウェア 97
　インストール 46, 168
セキュリティ対策 51
セキュリティチップドライバ 26
セキュリティチップユーティリティ 26
　インストール 170, 216
　設定 161
セキュリティチップ（TPM） 216
　不具合 200
セキュリティロックスロット 28, 113
接続と取り外し
　USB機器 80
設定値を元に戻すには 139
設定の復元 170
セットアップ
　Windows 41, 43
セットアップ終了後の作業 46
前面 27

そ

増設
　拡張ボード 122
　メモリ 128
増設・交換後の作業
　メモリ 131
ソフトウェアの不具合 195

た

タスクトレイ 18
タスクバー 18
縦置きスタンド 32
タブ 18
ダブルクリック 59

ち

直接入力モード 57

つ

通風孔 28

て

ディスクの管理 170, 223
ディスプレイ
　　DVI-Dコネクタ 28, 82
　　VGAコネクタ 28, 35
　　接続 35
　　不具合 188
ディスプレイの設定 85
データ実行防止機能（DEP機能） 112
データの暗号化 216
デスクトップ 18
デメリット
　　Cドライブ分割 218
電源コードの接続 39
電源コネクタ 28
電源スイッチ 27
電源の入れ方 42
　　2回目 48
電源の切り方 53
電源ランプ 27
電源ランプの表示 107
添付されているソフトウェア 25

と

ドライバ
　　サウンド 25
　　セキュリティチップ 26
　　ネットワーク 25
　　ビデオ 25
ドライブ名 159
ドラッグアンドドロップ 59
とらぶる解決ナビ 50, 174
トラブルが解決しなかったら 51
トラブルが発生したら 174
「取り外し」アイコン 80, 81

な

内蔵スピーカの不具合 200
内蔵モノラルスピーカ 87

に

日本語入力モード 57
日本語を入力する 57
入力キー 56
入力モードの切り替え 57

ね

ネットワーク 91
　　接続 38
ネットワーク機能を使う 91
ネットワークドライバ 25

は

パーティション 223
ハードディスクドライブ（HDD） 69
ハイパー・スレッディング機能 111
背面 28
パスワード 43
　　種類 140
　　設定・変更 141
バックアップ 70
　　アドレス帳 210
　　お気に入り 209
　　メールデータ 211
バックアップCDからインストール 214
バックアップCDの作成 213
バックアップしたデータの復元 170
バックアップフォルダの作成 208
バックアップを取る 161
パラレルコネクタ 28, 111
ハングアップ 54

ひ

必要なメディア
再インストール 157
ビデオドライバ 25
ビデオメモリ 131
表示装置 85

ふ

ファイル削除
リカバリツール 166
ファイルシステム
NTFS 69, 163
フィッシング詐欺検出機能 97
不具合
CD/DVDドライブ 192
FDD 190
HDD 191
インストール時 184
拡張ボード、周辺機器の増設 199
キーボード 186
コンピュータ本体 181
省電力機能 185
セキュリティチップ(TPM) 200
ソフトウェア 195
ディスプレイ 188
内蔵スピーカ 200
マウス 187
マルチカードリーダ 191
メモリ 198
復元
アドレス帳 210
お気に入り 209
メールデータ 211
復元ポイントを手動で作成する 51, 202
復帰する
省電力モード 109
プライマリパーティション 223

へ

ヘッドフォン出力コネクタ 27, 88

ほ

ホームページを開く 100
ボタン 18
ボリューム 87
本体カバーの脱着 119
本体ドライバのインストール 165

ま

マイク入力コネクタ 27, 88
マウス 9, 59
お手入れ 206
コネクタ 28
接続 37
操作 59
使い方 41
不具合 187
マウスポインタ 41
マニュアルびゅーわ 26, 50
インストール 168
マルチカードリーダ
不具合 191
マルチカードリーダドライバ(オプション) 26

み

右クリック 59

め

メーカー情報 159
メールデータ
バックアップ 211
復元 211

メモリ
仕様 128
スロット 128
増設 128
増設・交換後の作業 131
取り付け・取り外し 129
不具合 198
メモリースティックスロット 67
メモリカードスロット 67
メリット
Cドライブ分割 218

も

文字キー 56
文字を入力するには 57

ゆ

ユーザーサポートページ 50
ユーザー登録 45
ユーザーパスワード
削除 142
ユーザー名 43

よ

読み込み・再生
CDメディア 76
DVDメディア 76

ら

ライザーボード 124
ライセンス認証 45
ライティングソフト 77
ライトプロテクト 63
ライン出力コネクタ 28, 89
ライン入力コネクタ 28, 89

り

リカバリ 156
リカバリCD 25
登録されているソフトウェア 25
リカバリツール 25
インストール 165
バックアップCDの作成 213
ファイル削除 166
リカバリツールCD 25, 157
登録されているソフトウェア 25
リチウム電池の交換 227
リフレッシュレートの設定 85
リモートブート 91
領域の作成 170
リンク 100
リンクバー 123

ろ

ローマ字入力 57
録音
音声 89
論理ドライブ 223
作成 225

わ

ワイドディスプレイ 84

Memo

Memo

Memo

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。
本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で本製品をご使用ください。
本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼働システムなど極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用は意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがありますが、当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人　電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

有寿命部品について

当社のコンピュータには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日約8時間、1ヶ月で25日間のご使用で約5年です。
上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。
なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保障期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。

JIS C 61000-3-2適合品

本製品は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

PCリサイクルマークについて

PCリサイクルマーク付きの当社製品は、当社が無償で回収、再資源化いたします。
詳細は下記ホームページをご参照ください。
http://www.epson.jp/ecology/

著作権保護法について

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販のCD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を超えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。

また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしましたが、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

Microsoft、MS、Windows、Windows Media、Internet Explorerは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、インテル、Intelロゴ、Celeron、Celeron Inside、Intel Core、Core Inside、Intel SpeedStep、Pentium、Pentium Insideはアメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。

PS/2はInternational Business Machinesの登録商標です。

Symantec、Symantecロゴ、Norton Internet Security、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。

Adobe、Adobe ロゴ、Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

Memory Stick、マジックゲート、Memory Stickのロゴは、ソニー株式会社の商標です。

Multi Media Card(tm)は、ドイツInfineon Technologies AG社の商標です。

SDロゴは商標です。

SmartMediaTM、およびそのロゴは、株式会社　東芝の商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

© エプソンダイレクト株式会社 2007

PRINTED WITH SOY INK
大豆油インキを
使用しています。

C77442005　08.02-40(SO)

epsondirect.jp

EPSON DIRECT CORPORATION